青鞜

8

大正二年八月一日發行（毎月一回一日發行）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜 八月號內容

イワノフ戯曲……一……アントン、チエホフ 瀬沼夏葉譯

家なき身（小說）……二七……藤岡一枝

小話（小說）……四〇……小林歌津

富田濱にて（短歌）……五〇……柴田かよ

ほほづき（短歌）……五六……岡本かの

うつら〳〵さ（短歌）……六二……青木穠

北の郊外より……六六……岩野淸

性的道德發展の過程……七三……エレン、ケイ らいてう譯

動搖……八〇……伊藤野枝

編輯室より……一九五……同人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戯曲 イワノフ（四幕物）――チエホフ作――

第二幕

レベデフ家の廣間。眞直が庭への出口、右と左とに戸口。昔の立派な家具が並ばつて、ランプや、燭臺や、額などには皆布が被さつてゐる。

第一齣

ジナイダ●サキシナ。コスイフ。アウドーチヤ●ナザロウナ。エゴールシカ。ガウリーラ。仲働。老寄の婦人と令孃達の客。バヾキナ。

ジナイダ・サキシナは長椅子に掛けてゐる。彼女の兩側には、年寄の婦人が肘掛椅子に倚つて、他の椅子には皆それ〴〵に若い人等が陣取つてゐる。ずつと奥の庭への出口の方ではコスイフ。アウドーチヤ・ナザーロウナ。エゴルシカなどが一團となつてカルタを遣つてゐる。ガウリーラは右手の戸口に立つてる。仲働は茶菓子などを持ち運んでゐる。右手の戸口から庭へと客等は仕切なしにぞろ〳〵と出たり、入つたりしてゐる。バヽキナは右の戸口から出て來たが、ジナイダ・サキシナの傍に行つた。

ジナイダ●サキシナ。（喜ばしげに。）おゝ、マルフア●エゴーロウナ……

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

バヾキナ。御機嫌よう、ジナイダ●サキシナ！今日はお目出たうお孃さんの御出産で。（譯者註今日はサーシャの誕生日なので故と冗談を云ふ。）………（接吻爲合ふ。）どうぞまあ、何事も………

ジナイダ●サキシナ。何うも有難う御座います。私、まあ何と嬉しう御座いませう、よくお出で下さいまして………貴方はお變りも御座いませんか？

バヾキナ。有難う御座います、お蔭様で。（長椅子に並んで掛る。）今日は！皆様、お若い方々！………

（客等は立上つて禮をする。）

第一の客。（笑つて。）お若い方々か………ぢや貴方はお年寄で？

バヾキナ。（溜息をして。）でも私なんぞが奈何致してお若い組に入られますものですか………

第一の客。（お世辭笑をして。）奈何致してなか〳〵貴方……未亡人さんとはたゞ名だけです、貴方なぞは甚麼娘と肩をお並べになつたつて、まづ差當り十點を其方のものでせう。

（ガヴリーラはバヾキナに茶を持ち來る。）

ジナイダ●サキシナ。何故お前、那様お茶の上げやうをお爲なの、何かそら、總具利（スグリ）のジャムでも持つてお出でなさい、え、………

バヾキナ。いゝえ、どうぞお構ひ下さいますな、有難う存じます。

（間。）

第一の客。貴方マルフア●エゴーロウナ、ムシキノ村を通つてお出でゝしたか？

バヾキナ。いゝえ、ザイミシチエ村の方から參りました、道が其の方がよう御座いますもの。

第一の客。はゝあ、左様で御座いますかな。

コスイフ。スペートの二。

エゴールシカ。無し。

アウドーチヤ●ナザーロウナ。無し、

第二の客。無し。

バヾキナ。貴方、ジナイダ●サキシナ、あのね近頃富籤のね、まあ非常な暴騰ですよ、珍らしいぢやありませんか、第一期のがもう二百七十圓です、而して奈何でせう第二期のが、たゞ二百五十圓足らず……まあ這麽ことは何時にもないことぢやありませんか。

ジナイダ●サキシナ。（深く溜息なして。）あゝ、ようござんすねえ、這麽時に、誰か澤山符を所有つてゐる人は……

バヾキナ。然しですね、ジナイダ●サキシナ、いくら富籤の符が暴騰つたつて、資産を富籤

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に皆換へるのは、矢張どうも利益ぢやありませんよ、詰りね、あの府の保險がです、餘り高いんですもの。

ジナイダ・サヰシナ。そりやさうですがね、でも貴方、目的があるのですもの……（溜息をする。）ひよつと紛ぐれ幸にねえ……

第三の客。私の考ぢやどうも、まあ、御婦人の方々、當節は其の財產を所有してゐるのは、餘り利益はないだらうとですな、御覧なさい、有價證劵には至つて僅かな利が付いて行くばかりです。と、云つて、他に又錢を廻せば、これも非常に危險です、だから詰り、その、まあ貴方々、私は思ふに、奈何も錢のある人達は、當節ぢや非常にその遣り口が面倒なんです、却つてその……

バヾキナ。（溜息をする。）本統にさうですよ！

（第一の客は欠をする。）

バヾキナ。おやまあ、婦人の前で欠をしてよろしいものでせうか？

第一の客。いや奥様、つひ出て了つたのですから、どうぞ。

（ジナイダ・サヰシナは右の戸口から出て行つた。沈默が暫く續く。）

エゴールシカ。ダイヤの二。

アウドーチヤ●ナザーロウナ。 無し。

第二の客。 無し。

コスイフ。 無し。

バヾキナ。（獨語。）あゝ〳〵死んで了ひたい程退屈だわ、何て詰らないんだらう！

第二齣

ジナイダ●サヰシナ。 レベデフ。 以下同前。

ジナイダ●サヰシナ。（右の戸口からレベデフと共に入り來りながら、小聲で。）奈何して彼方に座り込んでおゐでなのさ？ まるでプリマドンナのやうに！ お客様方と一方にゐて下さいよ！

（舊の席に掛る。）

レベデフ。（欠をする。）あゝ罪々！（バヾキナを見て。）おゝこれはマルメラード（譯者註甘い果物の菓子）さん！ ラハト、ルクム（譯者註矢張菓子の名）さん！………（挨拶をする。）お變りは御座いませんかな？

バヾキナ。どうも有難う御座います。

レベデフ。まあ結構です！ さう、結構々々！（肘掛椅子に倚る。）どうれ………ガウリーラ！

（ガウリーラは盃にウオツカと、コップに水とを彼に持つて來た。彼はウオツカを飲んで又水を飲む。）

第一の客。御健康の爲に、よろしう召上れ！………

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

レベデフ。いや、甚麽御健康だか、まあ、死なゝいてゐるだけが有難い位のところさ。（妻に。）ジユジユシカ、何處だ俺達のとこの今日生れた計りの赤子は（譯者註サーシヤを云ふ。）？

コスイフ。（泣きさうな聲で。）何の譯ですか、奈何して我々は何も取らずに了つたのですか（つと立上つて。）何で我々は負けたんですか？　えゝ畜生め！

アウドーチヤ●ナザーロウナ。（立上つて怒る。）那樣位なら、さうさ、出來ない位なら、何んだつて組にお入りだつたのさ、何の譯で人の方に可い符を送つて了つたのですかよ？それ御覧なさい、だから那樣役にも立たない符が一枚殘つたのぢやありませんか！……

（二人はテーブルの側を離れて奥の方から駈け出て來る。）

コスイフ。（泣さうな聲で。）ねえ、皆樣……私の所に、そのダイヤの一と、王と、女王と、八と、スペートの一と、而してもう一つ何なのです、ハートの少ない數のが一つと、だのに彼の女が、えゝ馬鹿々々しい、それを早い勝負にすると云はなかつたのだ、僕は切符なしでと云つたのに……

アウドーチヤ●ナサーロウナ。（言を遮つて。）それは私が云つたのさ、切符なしでつて！　お前さんは二つの切符なしでつと云つたんぢやないか……

コスイフ。そりや酷い！……ねえ……貴方の所に……僕の所に……あ、貴方の所に……

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

（レベデフに。）ねえ君、聞いて下さい、パウエル●キリーロキチ、（譯者註キリーロキチは父の名キリールより出づ。）………まあ、恁うなんです僕の所にダイヤの一と、王と、女王と、あとが八と………

レベデフ。（耳を塞いで。）もう澤山々々……まあ離れて呉れ給へ………

アウドーチヤ●ナザーロウナ。（叫ぶ。）そりや私が云つたんですのさ、切符なしでつて！

コスイフ。（酷く怒つて。）もう二度と這麼鱘（セウリユーガ）と遣るものか、遣つたら俺も畜生だ、呪はれたものだ。（急いで庭に出て行く。）

（第二の客又彼の後から出て行く、テーブルの所にはたゞエゴルシカ計り殘る。）

アウドーチヤ●ナザーロウナ。えゝ！ 彼のお蔭で上氣て了つた………鱘（セウリユーガ）だと！………ふん、自分こそ鱘（セウリユーガ）だらう！

バヾキナ。おや、おばさん大變にお怒りなのねえ………

アウドーチヤ●ナザーロウナ。（バヾキナを見て手を拍つて。）おや、まあ貴方、別嬪さん！……此所におゐでゝしたか、私はまるで雀盲のやうに見へませんでしたよ、小鳩さんよ………（彼女の肩を接吻する、而して並んで腰を掛る。）これはまあ思掛けない、どれまあ、もつとよく其美しいお顔を見せて下さい、何とお美しいんだか！ ぷッ、ぷッ、ぷッ……緣起が惡くないやうにね（譯者註餘り稱めるのは呪はれたのに當るとの彼等には迷信がある。それで緣起直しに三度唾をする眞似をした。）！………

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

レベデフ。そら、轉り出した……那樣ことよりはまあ可い婿をでも探して上げるがいゝさ……

アウドーチヤ●ナザーロウナ。 探すどころぢやありませんよ、此の方とサーシヤのお婿さんを探さなかつたら、本統に死んぢや行かれませんさ！ 本統私死にませんよ！（溜息をする。）たゞどうも、何處で今時は其のお婿さんを探し出したものかねえ？ そら此處にも、其のお婿さん達は澤山ゐらつしやるけれど、何れもまあ、あれあの通り、皆あゝして堅くなつてゐて、まるでぐしよ濡れになつた雄鳥のやうさ！……

第三の客。隨分酷い譬へやうですなあ、然し私の見るところぢや、皆樣、どうも今の若い者共は多く獨身生活の方を、より勝れりとしてゐるやうですな、これを現今の社會的事情の然らしむる所で……

レベデフ。いや、哲學なんざあもう澤山だらう！ 眞平御免を蒙るよ！……

第三齣

サーシヤ。以下同前。

サーシヤ。（出て來て父の傍に行く。）何といゝお天氣でせう、奈何して皆樣此處にぢつとして掛けてお出でなの、息ぐるしかなくつて？

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ジナイダ●サキシナ。　サーシユンカ、お前まあ見えないの？　そら、マルフア●エゴーロウナガゐらつしやるぢやないか。
サーシヤ。（バ、バキナの所に行つて挨拶をする。）
バ、バキナ。大變威張つてるぢやありませんか、え、那樣に威張つてさあ、奈何して私の所へだつて、一度も來ては下さらないのよ。（接吻する。）今日はお目出たう、可愛い方……
サーシヤ。どうも有難う。（父と並んで掛る。）
レベデフ。さう、アドーチヤ●ナザーロウナ、全く今のところ婿を見付けるのは容易ぢやないのよ。婿ごころぢやない相當な持冠者（結婚式の時に冠を持つ未婚の男子）さへ何處にも見付けやうがないのだ、當節の男は、と云つて若い人を辱める意ぢやないがね、何だか慇う酢つぱいやうな、養過ぎたやうな鹽梅でな……踊らせても、話させても、飲ませても、何れも滿足にや出來ないんだ。
アウドーチヤ●ナザーロウナ。　でも何ですよ、貴方、飲むことだけは飲みますとも、皆それだけは本職でさあ、だが……
レベデフ。たゞ飲むことだけは飲むさ、馬だつても飲むからね、たゞ上手に飲むことだ！我々が其の時代にはかうだつたものよ、晝は一日中日課を一心に勉强してさ、それで夜

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

になると、ずつともう何所へか拔け出るのだ、何處へでも面白い所へ、さうして明方まで、まるでね其りや獨奏のやうに、廻轉つたものだ……踊つたり、令孃達を遊ばしたり、又これもよく遣つた。（指で頸を彈く。）（譯者註露西亞人は酒を飮むことを指で頸を彈いて見せるのだ）或は喋つたり、或は哲學を論じだり、もう舌が强張つて動かなくなるまで遣つたものだ……然し今の若い男達は……（手を振る。）解らん……神前の蠟燭にもならず、鬼の金棒にもならずだ。まあ、此の郡内で話せる男子と云つたら、後にも先にもたつた一人ある切りだ、それももう家内を持つた人なのさ。（溜息をする。）然し其れさへ、何だか近頃は、もう餘程氣が違つた風なんだ……

バヾキナ。そりや誰方？

レベデフ。ニコラーシヤ●イワノフさ。

バヾキナ。あゝさうですねえ、彼の人は可い人間ですわ（妙に顏を顰める。）たゞ、不幸な方ですわねえ！

ジナイダ●サキシナ。本統にさうですよ貴方、彼の人は到底仕合せにはなられやしませんよ！（息を深くする。）可哀さうに、彼の人も大間違をして了つたのですからね！……あの猶太奴の女を娶つて、其父親や、母親から巨萬の金山を貰はうと目算んだが、さて貴方、

すつかりそれが外れて、あべこべになつたのでせう………尤もそりや其の女が嫁になるについて信仰を換へたから（譯者註他宗の者が露西亞人と結婚をするには奈何しても正教即ちギリシヤ教に信仰を換へなければ露西亞の國法では正當の結婚と認められないのである。）其父親も、母親も怒つて其の娘をもう見るのも嫌つて、呪つてゐる始末なのですからねえ……まあ、そんな譯だからたゞの一文でも持參金どころぢやないんでせう、だから彼の人も今はもう切りに後悔してゐるのでせうが、そりやもうお氣の毒ながら後の祭ですのさ………

サーシヤ。お母樣そりや違ひますわ。

バヾキナ。（熱心に。）ジユーロチカ、奈何して違ふと有仰るの？ 此のことは誰だつて皆知つてゐることぢやありませんか、ねえ、貴方、誰が何の利益もないのに、故々ねえ猶太人の女なんぞと結婚をするものですか？ 露西亞の女が少ないんぢやあるまいし。間違ひですのさ、ねえ、彼の人は本統に間違ひたのよ………（元氣よく。）本統にまあ、今となつちや、さぞ彼の人に妻君は虐待されてゐるんでせうよ！ 可笑くつて堪らない、まあ何處から家へ歸つて來りや、すぐもう妻君に喰つて掛るんでせう、それで『これ、手前の父親も、母親もよくも俺を欺したな！ 出て行け、さあ、この俺の家から直ぐ出て行け！』位なもんですわ。だけれど、さうかつて何處に彼の女の出て行く先があるのでせ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

う？　父親も、母親も、無論家へは入れないし、下女奉公でもすればするのでせうが、生憎と那樣骨折は出來やしません……だから益々彼の人は怒つて自烈込んで、そら、虐待める、虐待める、もう虐待めぬくんでせうさ、若し彼家に伯爵でもゐて、彼の女を庇つてやりでもしなけりや、それこそ、もうとうに彼の女なんぞは彼の世の人であつた筈なんでせうさ……

アウドーチヤ●ナズーロウナ。　それとも又這麼ことかも知れませんよ、彼の女をね、穴藏の中へ押込んで置いてね『さあ、食へ、この大蒜を（譯者註猶太人は大蒜を好んで食ふのでそれを冷笑して云つた。）それ、それ、もつと食へ、もつと、もつと食へ。』……つて大蒜責にするだらう、彼の女はもう食はせられて、食はせられて、咽喉からもう、げい〳〵つて吐き出してゐてやうな騷なのだらう。（笑ふ。）

サーシヤ。　よう、お父樣、そりや餘りぢやなくつて！

レベデフ。　だつて奈何するのか？　いゝさ、健康の爲にうんと云はせて置くがいゝよ……

……（叫ぶ。）ガウリーラ！………

（ガウリーラは彼にウオツカと、水とを持つて來た。）

ジナイダ●サキシナ。　那樣譯から、もう此の頃ぢや隨分彼の人も身代を臺無にして了つて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ねえ、貴方、事業が全く惡くなつて了ひましたのさ……若し彼處にボルキンさんでもゐなからうものなら、もうあの猶太奴(ジウ)の女と共々に、食ふことも出來なくなるやうな始末ですわね。（溜息をする。）また私共までが、大きに其お蔭を被つて、さん〴〵に苦しめられてゐるのですのさ、酷く苦しめられてゐますのさ貴方、本統にもう神樣が御存じなのですよ！　まあ貴方、嘘だと思召しませうよ、もう三年越し貴方ね、彼の人から九千圓と云ふ金を倒されてゐるのぢやありませんか！

ババキナ。（驚いて。）へえゝ、九千圓でつて！

ジナイダ・サキシナ。　はあ……こりやね貴方、この宿のパーシャが皆貸して遣りましたの。本統に貴方ねえ、誰に貸してもいゝか、誰に貸しては駄目だなんて云ふ見當を、てんで宿になんざあ付けられないんですからね……ですが金のことは、もう私も云やあしません、仕樣がありませんもの、だからせめてねえ貴方、利息だけでもちやんと拂つて貰ひたいんですのさ！……

サーシヤ。（力を入れて。）お母樣もう貴方其のことは私千度も伺つてよ！

ジナイダ・サキシナ。　それでお前に何かえ？　何を那樣に彼の人の肩をお持ちなのさ？

サーシヤ。（立上つて。）だつてまあ貴方々、貴方々には何んにも惡いこともしない人のこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を、よく那様に酷く譏詐をなさられるわね、よくまあ那様に根氣よく。全體其麼ことを彼の人が貴方々に爲たのでせう?

第三の客。アレクサンドラ●パウロウナ(譯者註サーシヤを云ふ。)、まあ〳〵私にたゞ二言だけを言はして下さい！私は其もう何時もあのニコライ●アレクセエヰチ(譯者註イワノフのこと。)を、名譽の人として、尊敬をしては居りますが、まあ、此處だけのこれは話ですがね、奈何も彼は私には少し狡猾い冒險家に見えますなあ。

サーシヤ。おや、若し貴方にさうお見えでしたら、そりやどうもお目出たう。

第三の客。いや、それぢや今貴方に事實の證を上げて申しませう。あの彼の所の書記生だか、それとも何と云はう、あの、其の世話人のボルキンが僕に話しましたのですがな、二年前に、あの家畜に流行病が酷くあつた時分、彼の人は動物を澤山買ひ込んで、それに保險を……

ジナイダ●サヰシナ。さう、さう、さう！私も思ひ出しましたよ、那様ことをたしかに聞きましたつけ。

第三の客。で、保險を附けて置いてゞす、御覧なさい、それからペストを家畜に故と傳染さして、さうしてうま〳〵と其の保險金を奪つたとか云ふことですなあ。

サーシャ。まあ、隨分だわねえ、那樣噓言を！　噓言も噓言も痕跡もない噓言よ！、誰も家畜なんぞ買やしません、傳染なんぞさせもしません！　そりや皆ボルキンの一人の計畫だけのお話ですわ、さうして方々へ自慢をして觸廻して歩いたんですわ。それからイワノフは其のことを聞いた時、ボルキンは奈何でした、もう二週間の餘も彼にお詫をしてゐたぢやありませんか、たゞ可惜いことはイワノフは心が餘り弱いんですわ、ボルキンを全く自分の所から放逐して了ふことが出來ないんですわ、さうして人を餘り信じ過ぎるから可けないんです！　而して自分に有るものを皆取られたり、盜まれたりされて了つたのです、そりや彼の人の氣の寬大いのに附込んで、誰れでも望むものはすきにお金を拵へられるんですもの。

レベデフ、シューラ。これ熱心家、もう可いだらう。

サーシャ、でも何の譯で皆樣は那樣有りもしないことを吹聽なさるのです！　全く退屈ですわ、詰りませんわ！　イワノフ、イワノフ、イワノフつて、其外には何にもお話が無いんですの。（戶口の方に行つたが又忽に引返す。）全く私驚いてよ！（若い男達に。）本統に驚いてゐるわ、よく貴方々那樣に忍耐が續けられますわね！　奈何して退屈ぢやないんでせう、恁うしてぢつとして掛けて計りゐらしつて？　空氣までも退屈なので凝固まつて了つた

やうですわ。ねえ、何か本統に有仰つたらいかゞでせう、ちつとは令孃方を遊ばせて下さいましたら、でなければ、何かねえ、爲さることは無いのでせうか！　でも奈何してもイワノフのことより外にはお話が無いと有仰るなら、ぢや、何かお笑ひなさるとも、お歌ひなさるとも、舞踏なさるとも、何かそれとも……

レベデフ。（笑ふ。）さうだ、ようく、もつとようく皆を叱つて遣るがいゝ！

サーシヤ。どうぞまあお聞き下さい私のこゝに一つのお願を！　若しですね、今私申上げましたその舞踏だとか笑だとか、歌だとか恁う云ふものも矢張お厭なら、それぢや奈何でせう、一つ皆樣で御一所に詰り力を一所に集合して、何か振つた可笑しいことをして私達を驚かして笑はして下さい、而して何か、少しは厚皮ましいことでも、或は品は惡くともいゝですから、何か珍らしい新らしいことをお聞かせ下さい！　でなければどうぞ皆樣で御一所に何か些とした、極く氣が着かない位の、本統に些としたことでも、それが何か非常に奇拔なことで、令孃方に感心させて『おやまあ』と驚かすやうな、何か面白いことを爲て見せて下さい、まさか貴方々皆樣、誰方も令孃方にお氣に入るのをお望みにならん方は御座いますまい、それなら何故皆樣は氣に入られるやうにお勤めなさいませんか？　ねえ皆樣！　それぢや可けませんわ、本統にそれぢや可けませんわ！

貴方々と御一所にゐると、蠅でも退屈して死んで了ひますわ、ランプも黒く燻ぶつて了ひます。そうぢや可けませんわ、そうぢや本統に可けませんわ！ もう私これを何度も皆様に申しましたが、また何時でも私さう申上げるでせうよ、恁う、そうぢや可けませんわ、可けませんわつて！………

第四齣

イワノフ。シャベリスキイ伯。以下同前。

シャベリスキイ伯。（イワノフと共に右手の戸口から入り來りながら。） 誰方がこゝで演説を遣つてお出だ？ やあ、シユーロチカ、貴方か？（から〳〵と笑ふ、而して彼女の手を握る。）今日はお目出たう、どうぞ幾久しく榮えられて、また甦りをされんやうに………

ジナイダ・サヰシナ。（喜ばしげに。） おや、ニコライ・アレクセヰチ、まあ伯爵も！………

レベデフ。やあ、これは〳〵………伯爵！（立上つて迎へる。）

シャベリスキイ伯。（ジナイダ、サヰシナとババキナとを見て其の方に手を伸した。）ほう、二つの銀行が一つの長椅子に！………見るだけでも快いゝですな！（ジナイダ、サヰシナに挨拶をする。）御機嫌よう、ジユジユシカ！（ババキナに。） 御様嫌よう、可愛らしいお方！………

ジナイダサヰシナ。私本統に喜ばしう御座いますよ、ようこそねえ伯爵、珍らしいぢや有

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りませんか！（叫ぶ。）ガウリーラお茶を！　さあ、どうぞお掛け下さい！（上つて右の戸口から出たが、又直ぐに戻る、何やらせかくした氣になるやうな樣子で。サーシャは舊の席に掛る。イワノフは默つて皆と挨拶をする。）

レベデフ。（シャベリスキイ伯に。）　何と云ふ風の吹き廻しだらう、君がまあ遣つて來て吳れるとは？　これこそ「思ひ懸けぬ贈物（シルプリーズ）」さ！（彼を接吻する。）伯爵、君は矢張徒者（いたづらもの）だよ！　可い人はさうしないと僕は思ふ！（彼の手を取つて舞臺の端に來る。）奈何してまあ君は僕の所へさう長く來てくれなかつたのか？　何か怒つたのかい、それとも、あゝ？

シャベリスキイ伯。奈何して俺が君の所へさう度々來られるものか、杖にでも乘つて空中を飛んでかい？　自分の馬はないのだし、ニコライはまた俺を連れちや來てくれず、とかくその始終家内のサラの退屈がらんやうに計り考へて、俺を家に殘さうとするのさ、だが若し君が君の馬車でも寄越してくれるなら、そりや俺だつて始終來るがね……

レベデフ。（手を振る）うむ、さうだ！……ジユジユシカは馬車を出して遣る位なら死ぬ方がいゝつて云ふだらう、なあ君、え、おい君よ、君は實際俺に取つちや、骨肉よりもゝつと尙いんだよ、舊い友達の中でたつた二人君と俺とが殘つてゐるんぢやないか。君を見て俺は昔の煩悶や、過ぎた若い時分のことを思ひ出すのが大好だ……　冗談は置

いて俺は全く泣きたくなつたよ。(接吻する)

シャベリスキイ伯。いゝさ、いゝさ！　だが君は大分酒倉のやうな臭ひをさせるぢやないか……

レベデフ。なに、君にや解らんよ、俺が相手なしで甚麽に退屈してゐるのかゞ！　縊死でもしたくなるよ、餘り退屈でだ……(小聲で。)ジユジユシカ奴が彼の通りの强慾の金貸でね、可い人間はもう皆俺の傍からは逃げて了つた、而してやれヅドーキンだとか、やれブードキンだとかつて碌でもない奴等計りが……　まあ飮んでくれ給へ茶を……

ジナイダ●サキシナ。(氣を揉むふうにガウリーラに。)奈何してお前那樣にしてお茶を上げるのだよ？　何か持つてゐらつしやいジャムでも……　總具利のジャムでもさ……

(ガウリーラは伯爵に茶を侑めた。)

シャベリスキイ伯。(イワノフを見て大笑をする。)奈何だい、俺はお前に云つたらう？(レベデフに。)なにね、道で俺等は賭を遣つたのさ、俺が云つたのだ、彼方へ行くと直ぐにジユジユシカは屹度總具利のジャムを俺等に御馳走するだらうつてよ……

ジナイダ●サキシナ。貴方伯爵、いつでも同じにお人がお惡いよ(掛る)

レベデフ。二十樽も總具利を煮たのだもの何處へそれを片附けられるつて？

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

シャベリスキイ伯。（テーブルの側に掛けながら。）貴方、ジユジユシカ、もうお金が溜つてやがて百萬圓にもなるでせうな。

ジナイダ・サヰシナ。（溜息をして。）さうですよ、他から見ちや私共よりも金持はないでせうけれどね、然し何處から金が出ますものか、たゞ貴方の噂ばかりですわね……

シャベリスキイ伯。うむ、さう〳〵！知つてゐますぞ！知つてゐますとも！貴方は甚麼風に不味く將棊を差されるかをね……（レベデフに。）ねえ、バーシャ、實を云ひ給へ、もうどうしても百萬圓の身代だらう？

レベデフ。俺は知らないよ、そりやジユジユシカに聞くさ……

シャベリスキイ伯。（バベキナに。）さうして貴方も、矢張程なく百萬圓の御身代！其の上に日増にいや一時間増しにだん〳〵綺麗に、だん〳〵肥滿ります、そりや即ちお金のうんと有るお蔭ですぞ……

バベキナ。どうもそれは有難う存じます閣下、然し餘り冷笑をして頂くことは私感服致しませんよ。

シャベリスキイ伯。いや可愛らしい銀行さん、冷笑ですか、那云つたのが？　全く俺は何にも心にも無いことなんぞは言はん意だ、感情が溢れて、つひ其口に出たまでのこと

で…………貴方と、ジユジユシカは俺はもう大好なんですよ…………（愉快に）全く感心してゐるんだ！　實際恍惚となつて了ふ！　貴方々二人を奈何しても俺は平氣で見てはゐられんのだ…………

ジナイダ●サキシナ。貴方はいつも少つともお變りでない。（エゴルシカに。）エゴルシカ蠟燭をお消しよ！　若しもう骨牌をお遣りでないのなら、點けて置かなくつても可いのぢやないか？（エゴルシカは顫え上つて蠟燭を消し、イワノフの側に腰を掛ける。）

エゴルシカ。ニコライ●アレクセエヰチ、奥様の御健康は如何ですか？

イワノフ。可くないのです、今日醫者はもう判然と肺病だと診斷を致したのです。

ジナイダ●サキシナ。まあ、奈何して、そりや飛んでもないのねえ？　何と云ふお氣の毒な！（深く息をして。）本統に私達は皆貴方ね、奥樣を心から愛して居りますのですよ……

シヤベリスキイ伯。嘘でさ、嘘でさ、皆嘘の皮だ…………　何の肺病だなんて、そりや皆ドクトル先生の寸法、計略さ、先生が始終來たいからの繰縦さ、肺病だの何のと可加減な名を附けて置くまでだ、幸に亭主が嫉妬を起さんからいゝやうなもの、。（イワノフは堪え難い樣子をする。）さうさ俺はあのサラさんに就いちや、一つの言だつても、一つの行爲だつても信は置かんのだから、全體俺はもういつにも、彼の醫者達や、辯護士達や、女達に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

や決してもう信を置かんことにしたのだから。嘘だとも、計略さ、操縦さ！

レベデフ。（シャベリスキイ伯に。）驚くねえ、マトウエイ！……偉い厭世主義になつたものぢやないか。馬鹿が繪の書いてある提袋をもつて得意がつてゐるやうに、君はたゞ此の主義を振廻して得意がつてゐる、見りや人間だが、話をさせりや全然舌に腫物でも出來たか、カタルでも起したかのやうだ……

シヤベリスキイ伯。ぢや君は俺に姸物や惡黨どもと接吻を爲ろと云ふのかい？

レベデフ。何處で君は、その姸物ども、惡黨どもを見たのかい？

シヤベリスキイ伯。俺は此處にゐなさる人達のことを云ふのぢやないがね、然し……

レベデフ。そら、其の然しだ……皆これはたゞ表面ばかりなのだらう。

シヤベリスキイ伯。表面ばかりだとね……君にや可いよ。世界觀と云ふものがないからなあ。

レベデフ。甚麽俺の世界觀？ 恁うしてぢつとして一分每に死を待つてゐるのみだ、これが即ち俺の世界觀さ、なあ、もう我々君や俺なんぞは世界觀だなんと云ふことの考はもう晩過ぎるよ、さうさ……（叫ぶ）ボウリーラ！

シヤベリスキイ伯。君はもう那樣に飮んだのぢやないか……まあ、それ見給へ、鼻が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

眞赤だ！

レベデフ。（飲む）可いさ、なあに、これから結婚に行くんぢやあるまいし。

ジナイダ・サキシナ。さう云へばあのドクトルのリヲフはもう暫く私宅へ見えないが、まるで鼬鼠の道切さ。

サーシヤ。あゝ私大嫌い！　あの正直狂人、若し自分の正直の看板を見せなければ、一杯の水も貰やしないし、一本の煙草も無暗と吸やしない、歩くにも、話をするにも、僕は正直な人間だと、額にでも書付けてあるかのやうな顔をして本統に退屈つたらないわ。

シヤベリスキイ伯。局量な一國醫者！（口眞似をする）『正直な勞働の爲に道を開らけ！』つて一歩毎に鸚鵡のやうに繰返して歩きながら、自分を第二のドブロリユボフと思つてるのさ、で、さう怒鳴つて歩かんものは、陋劣漢と見做してゐる。其の考の深さと云つたら驚くべきものだ。若し誰か富豪な百姓が人並の暮をしてゞもゐやうものなら、先生は直ぐそれを陋劣漢、又は强慾奴と云ふのだ。俺がまあ天鵞絨の脊廣でも着て、下男に着物を着換へさせて貰つたりすれば、それが爲に俺はもう直ぐに所謂その陋劣漢、又は壓制家とされて了ふ。まづさう云ふ正直だ、那樣正直なのさ、まるで正直で、正直の一天張で破裂しさうだ。で、自分の落着場も見付からない。俺は實際怖いよ、先生を……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

嘘ではない！うつかりしようものなら、義務の観念の爲につてこの顔面を、引ぱたかれんとも限らんからね、又人中で行成陋劣漢と耻をかゝされんとも限らんからね。

イワノフ。彼の人間には隨分僕も弱らせられちやゐるが、然し左に右、自分には氣に入つてる人間だ、彼れには誠實な所があると思ふ。

シヤベリスキイ伯。いゝ誠實さ！　昨日の晩だ、ひよつこら先生俺の側に遣つて來て、突然に譯もなしに恁云ふ言草だ『伯爵、僕は貴方をきつい嫌だ！』と、かうさ、有難うさまだ！　而してそれもたゞ淡白にさう出たのぢやなく、飽まで一種の主義を主張すると云ふ風に聲は顫えてゐるし、眼と云つたら燃えてゐる、筋までがお負けに顫えてゐるんだ……　馬鹿々々しい板のやうな考の皆無な誠實さ！　そりや彼に俺は厭だらうし、醜汚くもあらうさ、俺自身も那樣ことは白狀してゐる。然し何んだつてそれを面と對つて言はなけりやならないんか？　俺は下らん奴さ、だがね、まあ左に右白髮に免じてくれるが可いぢやないか………考の廻らん人情無しの正直よ！

レベデフ。まあ、まあ、まあ！………　君も若い時があつたんだからさ、もう少しは汲んで遣るさ。

シヤベリスキイ伯。さう、俺も若い時代は有つたさ、馬鹿だつたものだ、其時分にはチヤ

ツキイ（グリボエードフの「智慧よりの悲哀」の主人公）の生活を眞似てね、惡い奴は何時でも其奴に惡い奴と、拐騙子には何時でも拐騙子と見せはしたが、まだ一度だつて盗人を面前で盗人と呼ばなかつた、又絞殺された人の身內の人達に向つて繩の話はしなかつた、これでも俺も敎育を受けたものだからね、然しあの木偶の藪醫者と云へや、若し運命が彼に人類社會の理想と、主義との爲に、彼は人の前で俺の顏を打ち、又は橫腹を打つことを出來得る場合を與へたら、それこそ彼はもう第七重の天に上つたやうな得意振で、自分を其の使命の高點に達した者のやうに感じるのであらう。

レベデフ。若い者は皆剛情なものだわな、一人のヘーゲル信者の伯父があつたがね……それがよくその家に客を大勢招んで、飮ませてやがて初めるのだ。恁う云ふ風に椅子の上に立上つて、而して初める。『貴方々は無學文盲だ！ 貴方々は暗黑の力だ！』やれ『新生活の曙光だ』、とか何だとかつて而して彼は切りに憤慨する、憤慨する……

サーシャ。ぢやお客達は奈何なの？

レベデフ。奈何でもないのさ……聞くのさ而して飮んでゐるのさ、だが一度なんぞは俺はとう〳〵彼に決鬪の申込をさへ爲たのだつた……親身の伯父さだよ、ベーコンのことからだ。さうだ思ひ出す、俺が丁度、恁うまあ、あのマトウエイの所だとすると、伯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

父はあの死んだグラシム●ニルキチと並んで直ぐ此處に、あのニコラーシャの邊に、恁う二人で立つて……それでね、君、そのグラシム●ニルキチがね問題を出したのだ……

（ボルキン登場。）

瀬沼夏葉譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

家なき身 ――藤岡一枝――

二人は聽て別れねばならぬ運命を持つてゐる――而してそれが今足音を忍ばして、一歩一歩と二人の間に近寄つて來る、と云ふ考へが此頃はお里の胸に一層強く響くやうになつた。さう云ふ事を思ひ出すと、もう今にも離れて、別々な世界に足を踏み入れて終つたやうな氣になる。男は自分と苦もなく別離れて郷里に歸る、其處には若い美しい妻たるべく定められた人が、母や妹と一緒に待つてゐる――男は其處で又自分の新らしい世界を開展いて、新らしい悅びの下に生活する、而して自分は――と思ふと、何物でも押へ切れないやうな淋しい氣が湧く。さうすると泪より先に無暗と昂奮して來て、勉強しませふ、何か、何かしなくつちやならない、と云ふ氣が此の頃のお里には始終した。

男が出て行つた後でお里は部屋〳〵を掃き終ると、お座敷の眞中へ机を持ち出して水書草紙に手習ひを初じめた。書き乍らも其樣事許り思ひ詰めて、それからそれと考へは繪卷物でも繰るやうに變つて、お終ひには自分が乞食と迄になつて行く、さうすると、

「あゝ厭だ〳〵」と誰に云ふでもなく筆に當つて、お草紙にはへへののもへのをかいたりした。

「つまらない」拍子を取つて一寸節をつけたやうに云ふと、筆は置いて、机の上に兩肱をかけて心許りの庭を見廻した。

緣日で買つた唐葵が、その毒々しい迄に濃い赤い花を持つて、下から段々に咲き上つて、丁度頂天迄來た頃には、梅雨が何日か明けてゐた、もう太陽の色さへ變つて見えるやうな暑さで、蟬が喧しく終日鳴きたてた。水の涸れた庭には、松葉牡丹が力一杯に大陽を吸ひ込むと云つた形で、その濃い〳〵、艶やかな、黃や赤の花が庭石にべつたり貼りついたやうになつて咲いてゐる。漸つと咲きかゝつた花魁草は、去年小母さんの家から二株許り分けて貰つて來たものだつた。歸つて來る男に見せやう爲に詰つた丸髷を、小母さんが、

「オヤ〳〵まあ」と云つて驚いた。

「眞實にいゝ奥さんにおなりだよ、それぢやあ何處へ出しても恥しくないね」

小母さんは感心したやうにしきりと斯う云つてゐた。あの頃の事がまだしも嬉しかつた、樂しかつた。小母さんは故意と、さあちやんとは云はずに奥さん〳〵と云つたつけ。

それではあれが戀と云ふのかしら？それでもあれを戀と云ふには、餘りに自分の戀は哀

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れなものだつた。芝居でみるお七のやうな、あんな突き詰めた氣には只の一度もならなかつた。而して戀とは、もつと〳〵美しい華やかな世界にのみ咲く花だと思つてゐた。之は只何日の間にか自分が男の或る目に見えない大きい力の下にズル〳〵と譯も無く引摺られて、此處迄來たみじめな結果としか思へなかつた。男に對して自分がしてみせる僅かな反抗、それは苦もなく根から折られて、造作もなく此處迄辿りついた。

二人して暗い町を撰つて歩いてる間も、お里の心には餘裕があつた、而して何かしら不滿だつた。何かひねくれた事でも云つてみたかつたり、と云つて別に何を男に求めてゐると云ふ事も分らずに、只淡い不滿に始終心の中をもやもやさしてゐた。從つて男に對する調子にもムラがあつた。

六月の雨の多い夜、よく午を傾けて暗い道を歩いた、何處かでピアノや琴の音がよくした。

「私三味線を習はふかしら」ふと氣紛れのやうな調子で、男の氣を引くやうに云つて見ると、「三味線なんか下品ぢやないか、里ちやんは又下品なもの許りよるね」男は煙草を袂に探り探り笑ふ。

「私奈何せ下等な人間なんですもの、下品なんですもの、仕方がないわ」云ふまいと思つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ても、打捨つて了ふやうな口調がつひ出て了ふ。而して意地にかゝつて、

「貴方のお妹さんやお姉さんは何をお習ひになつて、お琴？三味線？豈夫三味線はなさりはしなかつたでせうね」

「しやしないさ、下品だもの」

「さう、でも私はしたい」

「其樣にしたければ習ふさ」

「えゝ」

此處迄來ると二人は無言つた。お里はよく男が何かと云ふと、自分の姉さんや妹を引合ひに出して、どんなにか豪い者のやうに褒めたてるのが口惜しかつた。幾等豪家にしたつて、何だつて、田舍の人ぢやないか、かう云ふ心が始終お里にはあつた、東京に生れて、東京に育つた、東京子と云ふのがお里の哀れな自慢の一つに數へられてゐた。で男が上品に、上品にと、お里の意氣がる好みを直さうとする度ンびに、お里はそれを齒が浮くやうだと云つて冷笑して了つた。どうせ、どうせ、貴方のお姉さんやお妹さんのやうにお上品ではございません、と口迄出かゝるのを何日も抑へてゐた。眞質にいやさ、高慢らしい、一にも二にもお品が下るの何のつて、と心には思ひ乍らも、まだみぬ姉妹の姿を相像して

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みては、嫉ましい氣によく馳けられた。さうすると、何かしら男迄憎らしいやうに思はれて、今迄寄つて歩いてゐたのが、急に離れ〴〵になつて、自分一人町の片側に添つて、右左と別れてスタ〳〵歩いた、話もしたくない、増してその手に觸れるなんて思つても厭だつた。

「奈何したの里ちやん」

「奈何もしやしませんの」

「だつて奈何もしない事があるもんか、何日も喋舌る人が此樣に無言つてズン〳〵私から離れて行くんだもの」

「でも眞實に奈何でもありやしません」お里は強いてそれとなく笑つてみせやうと勉めても、強いた笑はすぐにその貌から消えて、又元の眞面目な貌に返る。

「仕方のない奴、我儘な女だ」男はよくこんな事を思つて苦笑ひをした。それでもそれが爲に男はお里を決して惡くは思へなかつた。「手がつかない、」斯う思つて男は押無言つて歩いた、お里はお里で勝手にその人達と自分とを想像で引き較べてみてゐた。

初めて男の下宿でその人達の寫眞をみせて貰つた時には丁度許嫁だつたと云ふ、若いお里位の年の女の寫眞も交つてゐた。自分の目に、その姿が燒きつくかと思はれる程に凝乎

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とみ入つた。その人達の紋服で丸髷に島田の姿、首からかゝつた時計の鎖と、手に光る幾個かの指輪と、而してお終ひにその貌とをみて、自分よりずつと下だとすつかり見極めてから、ホツとして、

「お姉さんの方がお奇麗ね」斯う云つて又元の處へ置く時には、もう晴々しい貌になつてゐた。增して許嫁の人の不器量なのは、何よりお里の氣を強くした。

自分の美しさ、之は何よりお里の氣を強くさせる道具だつた。

その美しい自分の凡てを、何物にもかへがたく思つてゐた美しい寶を、譯もなく男の手でもぎとられて、目の前で滅茶〳〵にされて了つたのを見るやうな心持で、お里は自分の姿を眺めた。而してもう其處には、女として何の誇も持たない、何の價値もない哀れな自分の顫えた姿を見出した時には、無茶苦茶に泣かれた。而して男が只憎かつた、厭はしかつた。今迄は自由に飛んでゐた小鳥が、ギユウツと後から羽搔いじめに逢つたやうに、幾等バタ〳〵してもそれは徒勞だと覺つた時――とんでもない事をしたと染々自分をかへりみられた折に、悔恨の泪がしきりに湧いた。

お里は今迄とは違つて來たやうな男の態度を、いやでも注意せずにはゐられなかつた。男に對して、自分の言葉は何一つ力がなかつた、何も彼、も男に笑つて消されて了ふやう

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

な氣がしてならない、何日も自分の言葉は、丁度空を打つてるもの丶やうに、自分の耳には哀れに響いた。其の頃お里はよく泣いた。男は持て餘したやうな貌をしては見てゐる事が多かつた。

「寧ろ今の内に別離れて了はふかしら」こんな事を朧ろげに考へてみないでもなかつた。さうしてから先の自分には何一つ滿足に出來るものとてはなかつた。男に別れ丶ば自分は直ぐにも路傍に倒れねばならぬ。さら云ふ事も強くお里の胸に響いて、其の仕打が段々と冷やかになつて行くやうに邪推される男の袂にお里は縋つて行かねばならなかつた。

男はちよい〳〵許嫁の噂もした、國から何と云つて來たともよく云ふやうになつた。それでも以前のやうに直ぐに、

「そんならその方と夫婦になればいゝぢやありませんか」など丶云ふ言葉は口から出なくなつて、只笑つて許りゐるやうになつた。

「お前と斯うして一緒に暮してやる」と云はない許りのやうに、男の樣子は始終お里には邪推された。

お里は根よく又手習を初じめたが、四時頃になるとよして、此度は婦人雜誌の家庭欄を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一生懸命に見初めた、主婦の心得、こんなものを餘計注意してみるやうになつた。聽て机の抽出しから懷中鏡をとり出して、しげ〳〵と鏡に映る貌を見てゐた。去年よりは餘程痩せたやうな、あの豐かだつた頰が、夏に向いたにしても餘りこけすぎてゐる、而して貌のどこやらに雀斑さへ出來たやうに見える、お里は貌を二三度赤くなる程擦つて而して又鏡を見直した。

そんな事をしてゐると、聽て潜りの戸が啓いて、

「あつい〳〵」と男はもう玄關からさう云ひ〳〵上つて來た。お里は周章て鏡を藏ふと、机も引込めて、臺所から水を酌んで來た。

「あゝ漸つと蘇生つたやうだ」男はお里の持つて來た金盥で貌を洗ふと笑ひ乍らさう云つて、又持つて行かうとしたお里の手を取つた。お里は丸で恐ろしいものにでも觸れたやうに、ハッとなつて後ずさりした。

「奈何したんだ、又氣持がわるいのかい」

「いゝえ」

「ぢや何故其樣貌する」

「奈何もしやしませんわ」と云ふと馳け出して勝手へ行つた、譯もない泪が後から〳〵と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

頰に傳はるのを拭いてゐた。

「オイ〳〵、御飯を早く、お腹が滅茶々々に空いちやつた」

「はい」

まだ拭きとらない赤い目をした儘、素直な返事をして、お里は臺所で一人働いてゐた。男の好きなもの〳〵と心掛け乍らも、貧しい經驗の自分にはなか〳〵さう旨くは行かなかつた。

お膳を運んで行くと、男は椽側に寢轉ぶやふにして、何かの本の頁を繰つてゐたが、お里をみると笑ひ乍ら、

「オイ、お前がみるのかい」と高等女學講義錄をお里の方に投げ出した、丁度膝に當つて頁がパラ〳〵とめくれた。それを見るとお里は、貌がみる間に赧くなつたのが自分にもしれた。で急いでそれを拾ふと、袂の下に押しかくした。

「え〻」

「え？何日からだい」

「もう先からですの」

「もう先からつて、何日からさ」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「二三日前からですわ」

「へえ、豪いね、學者になるよ」と云つた限りでお著を取り上げた、その言葉が如何にも皮肉に思はれて堪らない。何か習ひたいと云ふと屹度、「それよか勝手の方でももつと奇麗に始末をして貰ひたいね、女が臺所や何かを投り放して本をよんだとこで初まらないからなあ」と何日も笑談のやうにして、自分の願ひを打消して了ふのがお極りになつてゐる。

奈何考へても此の頃の男と、去年の男とは樣子が違つてるやうに思はれてならない、又實際違つてるんだ。とお里は邪推でなくともさう思はれる、と深く考へた。もつと優しい筈だつた、もつと幸福な譯だつた。去年から今年と、次第〳〵に變つて行つた男の態度がお里にははつきりと鏡にでも映し出したやうに分つてる。而して幾等元のやうにならふと勉めても、焦れば焦る程二人の距離は段々大きく廣くなつて、とても去年の暖たかさには返れなかつた。幾等踏み越えて男に近づかふとしても、男は見る間に遠く離れて、其の袖さへも捕めないでゐるやうな氣がする、又時としては男の方から近づくやうな態度を見せても、自分は氣が怯れて段々と後退りして行つた。斯うした幾日を經てから、二人はお互いに得心づくで別れる事になるのぢやないかしら。男が少し花自分に飽きて來てるのは明瞭と分つてゐる。さうお里は強く思つた。でも自分は何をして此の先行くんだらう、この

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

事を思ふと何日も暗闇にハタと首を突込んだやうな氣がする、男と離れて考へてみる自分は、何日でも〳〵ソレハ哀れな姿だつた。さう考へると、袂の下にかくした講義錄を握つてた手に、汗が一抔に出た膝許り見詰めた目が段々に熱くなると、ポタ〳〵と雫が落ちた。そこを右の掌で、擦つたり叩いたりして誤摩化してゐた。

男は寢轉んで團扇を使ひ乍らまじ〳〵と見てゐたが、

「オイ芝居か寄席に行つてみやうぢやないか、家にゐて斯うやつて睨めつこをしてたつて初まらないからね」

「え丶」

「何方にしやう、芝居はもうおそいから近所の寄席にでも行かふ、さあ其處に色物がかゝつてるから」と云ふと立上つて帶丈を〆直した。

お里も一寸元氣づいて髮を撫せつけると出て行つた。お里には高座の落語よりも、その廻りに來てゐる、近所の若い娘や內儀さんの方に氣をとられてゐた。

中入になると二人は出て行つた、丁度小雨が降つてゐたので、見知り越しになつてゐる木戶で番傘を借りて、二人は相合傘にして歩いた。

「今夜のはどれも〳〵詰らない話ばつかりだつたね」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「さうね」

「でもあの式多津つて娘は別嬪だね」

「さうでせうか」

「奇麗ぢやないか」

「でも作りだわ」

男が覺ひ今迄は斯うした若い女に興味は持つて居ても、それを明らさまに口に出す事を憚つてゐたのが、今では遠慮なく、

「あの女なら世話をしてもいゝね」などと笑談にしろよく云ふやうになつた。

「雨が眞の少しだから廻り道をして歸らふか、去年の今時分はよく歩いたもんだね」

「えゝ」素直に頷いて、板塀や石で圍つてある、靜かな邸町の方へ歩いて行つた、しめやかな小雨は丁度春雨のやうにも思はれる、九時なのに、邸町は夜が早く更けて、もう夜中のやうにも思はれた、家々の軒燈には屋守が乾度一匹か二匹かはりついてゐた。お里は何日か、何日か、この二人は別れる運命を持つてゐるやうな氣が又しきりと出した。

頭の上には、何の木が兩側から蔽かゝつてゐる、狹い、だら〳〵坂を降る時、男は煙草に火を點けやうとして、お里に傘を渡たした。何の葉か、傘に當つてパサと微かな音を立て

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ると、二片程足元に落ちた、後から暗に雫が思ひ出したやうにバラ／＼と降りそゝいだ。

「簪が落ちたんぢやないか」

「いゝえ木の葉よ」

「でも木の葉にしちや大きい音がしたもの」

「だつて簪ぢやないでせう」

「さうかい、それでも」と云つて又マッチを擦ると、地面へぐるりと廻してみた。一寸の火光はそこいら一面に雨に、濡れた椎か樫の落葉をキラ／＼と照らして、すぐに消えた。

二人の間を郵便配達がぢろ／＼見乍ら、足早に通り抜けた。

「矢張り木の葉だ」

「さうでせう、だつて簪はあるんですもの」お里は笑ひ乍ら、少し濡れた造花を抜いてみせて、譯もなく二人は笑つた。

——をはり——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

小話 ——小林歌津——

その話はある小さな「お話(ローマンス)」の挿話の一つとも云へば云へる樣なことなのでございます。——

「お話のエピソオド」なんて申しますと、さもさも華々しいことのやうですが、この話には晴れやかなところもなく、と云つて、そこにかへつて、くすんだ垢ぬけのした味があると云ふわけでもない、只の極つまらない一小話に過ぎないのでございます。——一口にいつて見れば、この間中の私についてのある出來事が原因(もと)で年來のお友達であつた、もみ枝さんとの間が妙な工合になつて了つて、今だに變になつてゐると云ふだけのことなのでございます。

十何年、平凡な單調な路を育てられて來た私には、それでもこんなさゝいな事でも、めづらしいことなんでございます。——その話の序幕は、未だ櫻が散つたばつかりの四月のある朝にまづ幕が上つたんでございました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

その朝も私は例の癖で、遂にもう目がさめてゐるものを、何時迄も床の中で、もぢ〳〵して居りました。――毎朝そんな風にしながら、昨夜見た夢を思ひ出して見たり今日する仕事なんかを考へるのが癖になつてゐるんです。……

その日は夢のことより、前の晩見た芝居のことが頭にありました。見てゐるだけでの最負役者の梅幸の、病氣上げくのほつそりした、帶屋の女房お絹の悲しそうな頰が目にのこつてゐるのでした。

お絹がいぢらしさに、思はずも涙をこぼしたことも、思ひ出されました……それからそれへと色々の記臆がよみがへて來ました。それらが二三遍ぐる〳〵と頭の中に大渦をこしらへてまわつてゐるうちに、又夢でもなく、現でもない、ぼつうとした心持にいつか落ちて行くのでございました。

赤い振袖と、ほんのり紅の花のつり枝との幻が消えさつても、まわるい輕い手毬唄が私の耳にはまだのこつて居りました。………さつきから夢のやうにかすかにその歌がきこえてゐると思つてゐたのは、どうやら雨の音らしくなつて來るんでした。ごくかすかに、柔かな響がしてゐるんです。――

四月のことですから春雨ですね――

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

耳を澄ましてゐると、窓の下をかわいた傘に音を立てゝ通つて行く人のあるのさえ解つて參りました。

そしてわかりきつたことですけれど、その時もしみじみ春雨はいゝものだと思ふんでした。

段々と遠ざかつて行く傘の音をきいてゐると、何だか一種淋しい――淨瑠璃に泣く樣な心持の淋しさが私の胸を流れて來るんでした。――自分のしてゐた枕さえ、紅のくゝりがなまめかしく思はれて、私は何だか歌ひたいやうな又歌はれてゐるやうな氣持になつて、うつとりと起き上がつたまゝ、ぼんやりして居りました。

「お郵便よ」

誰れかが障子に着物のさわる音をさして、すき間から何か白いものを落して行くのでした。手をのばして拾つて見ると、それは一目見てすぐそれと氣の付く書振りのもみ枝さんからの葉書なんでございました。讀んで行くとそれは詩でも書いてある樣に正しい行儀のよい字ならびで

「いよいよお盛んでお目出度う。

江戸趣味も實際に當つては痛さが少しへるそうですからね。

メフヒストの唄を覺えて居ますか。」

と書いてあるんでした。

持前の癇癪はもう讀み終るか終らないうちに破裂しかゝてゐたんです。

文句がぐつと癪にさわつて了いました。

「何が江戸趣味なんだ、人いゝ加減に馬鹿にするがいゝ」――こんな荒ぽい言葉がぽん〳〵出て來ます。前のいゝ心持だつただけなほいけません、――腹が立つて腹が立つてどうしたらいゝかしらと思ふくらいなんでした。「江戸趣味云々」は何をさしてゐるのか一寸は見當もつきません。もみ枝さんのメフヒストの唄と云ふのは、メフヒストが、ギタを彈きながら、どうとかして

「むすめのまゝでは出ては來ぬ………」

と歌つた唱歌のことなんでせう――隨分手きびしい叱られ方ぢやありませんか。

それでも顏を洗つたり、御飯を食べたりしてゐるうちに、少しは落付いて來ました。と、そのうちふつと思ひ當ることがありました。それは其の日から二三日前に、もみ枝さんの所謂「お盛ん」と云ふ人――Sさんと呼びます――そのSさんに私が逢ひました時Sさんが私に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「もみ枝さんに逢ひましたらね、「何是あなたは私に斷らないで、みえちやんに逢ひましたつて云ひましたつけ……」とそう云つたことを思ひ出したのでございました。その時はまさか冗談だらうと思つて聞いてゐたのですが、その朝の葉書を見てから

「あゝそれだな」と思ひ當ることが出來ました。

私はSさんをもみ枝さんから紹介されたのでございます。――そう思ひ當ると、もう腹を立てるだけ馬鹿々々しくなつて了つて、そんなのん氣な事を云つてゐるもみ枝さんが、何だか面白くなつて了つたんです。そして夜になつて人に誘はれて散歩ながら神田の方へ出て、立花で紫朝の「山名屋」をきいてゐた時分にはすつかり葉書のことも忘れてゐたのでございます。

それから四五日は平和な日がつゞきました。然しあの葉書は、「江戸趣味」と「メフヒストの唄」が馬鹿に氣にくわないので、あんなことのあつた翌日、向島から竹屋を渡る時に、大川の中央で細かくさいて流しちまひました。

夕月の美しい、淡い水色がゝつた空に高く高く銀色の星がまたゝいてゐるある夕間暮のことでした。――

その日は買物ながらうか〳〵と、築地から銀座通りを歩きまわりましたので、もう電車

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を下りて家まで歩くのがいやになつた程疲れて了つて居りました。新道へ曲る角まで來て、家の格子から洩れる灯が見えはじめると、何だか安心したやうな氣持になつて急ぎ足になれるんでした。格子戸をあけて入るがいなや、

「今おかへりになつたばかりよ、もみ枝さんが……」と家の人が云ふんです。

「大層おきれいな女と――だれだか派手な女だつたわ。」

「そう、私未だ逢つたことない方だけどいつも噂はしてゐる方よ、」

私はその頃、もみ枝さんがあるところへその女の事を心も形ちも花のやうな乙女だと葉書にかいてやつてあるのを見たことを思ひ出すのでした。何でもその時分仲のよくなつた人なんですとか――。

「惡かつたわね――明日でも行つてあやまつて來ませうよ」

「別に用ぢやないらしかつてよ、上つて少し話してゐらしつたわ、少し……」

私は少し家の人の顏を見てゐて、劍呑になつて來たんでございます――私の方には何と云つても弱いことがあるんですからね。――

「何だかね、そしてこの頃みえちやんは大分お盛んなんですつてね、大變方々で大評判でございますよつてお仰つてゐてよ。あなた何がそんなにお盛んなの?」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

それからさんざん私は叱られて了つたんです。お前の樣な蓮葉者は家の名を辱かしめるものだとも、それから人に評判をされるやうなのは、お前が女と云ふ立場を忘れてどんな人とも飛びまわるからだとも、もうさんざんなお叱言なのでした。

叱られた口惜まぎれにその時も隨分もみ枝さんが恨めしうございました。

もみ枝さんが一年ばかり前、ある年上の婦人に可愛がられてゐたことがあります。その頃何かしらその「ある婦人」に對していら〳〵したことがあると、いきなり一共に歩いてゐる私の脊中を平手で力まかせにうつて見たり、どうしやうにもない無理を云つたりしたことがありました。――そんな時のことを思ひだして、私の心には、「もみ枝さんも隨分勝手者だ！」と云ふやうな卑しいことまで考へるやうになつたんでございます。

一晩中寢られなかつたせいでせうか、翌朝は額が板の樣に堅くなつて、どうしても起きられませんでした。考へることゝ云つたら、どれもこれも惡いことばかりで、――今思つてもぞつとする程その時私はいやな、けちな女になつてゐました。――もみ枝さんに何とか一口でギグッとするやうな皮肉はないかしらとそればかり考へたりしてゐました。何だかそんなことを云ふだけ野暮な樣な氣もするのですが、やつぱり何とか云はないでは氣がす

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

まないやうにも思ふのでご座います。
果てはこつちで何と云つたつても
「——私はみえちやんのためを思つて云つたんです」と又メフヒストの唄をもち出されるのが落ちだらうと、弱いあきらめが出て、結局は何とも云ふのはよしにして了づたのでございます。
おかげで久ばらくは可成窮屈なおもひを致しました。手紙を書くのさえはゞかられるやうな暮し方をしてゐたのでございます。頭の痛い日が多かつたり、夜寐られなかつたり、寐汗をかいたりしますので、其内遂々お醫者へ行くやうになつたんです。肋膜の下地だと云ふので、何にもせず遊んで、のん氣にしてゐさえすれば好いと云はれたので、まあ家の者も病氣が恐いので、私のきまかせにそれからはさせるやうになつたんでした。——
無事に、あんまり厭な想をすることのない日が經ちました。二週間三週間——やがては一月二月、毎日遊び暮してゐるうちにも、もみ枝さんからは
「あなたの戀の問題はどうなりました」
と云ふやうな無遠慮な葉書がくることもありました。又人傳に
「あんなこつちや、みえちやんもせうがありませんね」ともみ枝さんが云つたと云ふ話も

きゝました。そして、とんと私ともみ枝さんは逢ふことがありませんでした。――たしか一度××試演の會場のほの暗い廊下でちらと顔を見ましたつけが……そんな風にしみじみ話もしないやうになつて了ひました。

久ばらくして又この間Sさんからこんな話をきゝました。それはもみ枝さんがSさんのお友達とかに

「Sさんはひどい人ですね。

みえちやんと云ふ女は私のサァクルの女なんです。それをちよつとあの人に紹介したらもう私からみえちやんを連れて行つて、了つて私の家へもよこさないんです。

ほんとうに、あの人はひどい人ですね」

と云つたといふことなんでございます。

サァクルが好うござんすね――だけど、この話は嘘か事實かわかりません。Sさんといふ人が好んで自分を「惡者」がつてゐる人ですから。……

もう今年もおぼんが參ります。

蚊遣りを燻しながら新道の涼臺では二三日うちにつくと云ふ兩國と仲の町の燈籠の評判が高うございます。――その後もみ枝さんもどうしてゐますか、ちつとも噂さもきゝま

せん。

秋風でも立つ頃には一遍逢ひに行つて見やうかとも思ひます。

――七月十日夜――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

富田濱にて ――柴田かよ――

蚊やり香の
細き煙のかなしけれ
潮冷えのする夜更けの蒲團

やるせなく
蛙なき出づ二の腕の
傷がしく／＼痛む夕ぐれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

事もなく
晝より夜に移りゆく
境をばつと電燈のつく

をさがいを
襟に埋むる女にも
似てわびしけれこのおじぎ草

靑黑き
葉と葉の蔭の櫻果
かすかにふるひ晝靜かなる

日每來て
ものを思へる砂濱の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

砂も夜霧に濡れてわびしや
もの思ふ
心の隙へきい〳〵と
喰入るごとし蹈鞴の音

濱風に
搖るゝ萠黄の蚊帳の紐
うちまもる暗に夜の深み行く

つくるなく
かすかに呻る電柱に
凭れて旅のわりなさを思ふ

餘りにも
とりとめのなき松一つ
なき濱に來てものを思へば

これほどの
雨の夜にさへたゆるなく
蛙は雌をばよびてあるもの

蛙、蛙
何日まで雌をば待つ事ぞ
かくして汝は焦れ死ぬかや

潮水に
浸りし松のうすつかれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

熱き砂地にながながと寐る

さくさくと
砂ふみしむる麻裏の
紅き鼻緒にひらけゆく胸

きらきらと
砂よりのぼる陽炎を
見つくし居れば輕くめまいす

魂を
殘して來たるぬけがらが
日毎潮に浸り居るかも

ふかぐさ

干潟に殘る足跡も

懐しまるゝ旅にし居れば

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ほほづき　―岡本かの―

我と我が病みほけし身のいとしさをいたはらんとて臙脂(べに)などさしぬ。

美しく男を待てと袂など揃へ賜(たま)ひし母の悲しも。

いかばかり君を思はば我をのみ思ふ君とはなりたまふらん。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なやましき戀とはなりぬうらめしさねたまし
さなどいつか変りて。

ほほづきをつとほの白きたそがれの足下に捨
こゝちづけにけり。

さかしげに白百合咲くも腹立たし待てど男の
來もせぬ夜半に。

彼方向きのうなじの毛ややふるへるは風かひ
そかに君の泣けるか。

またしても倫ちてまことを悟り得ぬ弱き汝が
性とゆるさん。

ただ泣きてあるは稚しかく知れざなは稚くも
ひた泣きてあり
なつかしき我かなひとり我をのみ常に思ひて
あるは我のみ。

頬のあたりすこしやつれて旅路より君かへし
來し夏のあかつき
かへり來て旅のつかれに君寢入る夏の朝の緋
葵のはな

いかばかり淋しく我のありとても君が旅寢を
いかでのろはん。

夕されば君が旅路の山裾にはたはた咲かん月見草など。

別れ居て淋しさ満てる瞳(め)にあまり晴れたる空の打ち續くかな。

薄あかき片頬を見せて朝寝(あさね)する君をゆたかにつつむ青蚊帳

たそがれの底にただよふほのかなる青き盥のかほりなつかし。

またしてもうつむきがちに寄り添ひて何事をさはわぶる汝(いまし)ぞ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふとあぐる面にあたる薄あかりいつしか空に
月の登れる。
末遂によその女を妻とよぶ君とは知れどはな
れがたかり。
聞きわけもなく我が膝に亂れ泣く君のごとく
に牡丹くづるる。
安らかに君がねむれるかたはらになど他事(よそごと)を
思ひ泣かれん。
何事も忘れて淨く美しく我の添えるに安ふ寢
たまへ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひとり寝の淋しき閨にふとさめて汝と泣くか
や夜半の雨の音。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うつら〱と……青木 穠——

うつら〱臥し暮すこそ悲しけれ病むとしもなくやまぬとしもなく

何故か胸の痛むも目の前の大事のやうに心をののく

雑草のなかにうもれて涙する男の胸にいだくこひうた

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

眼を見はりおどろくさまの表情をたれに習ひて君はきませる

玻璃(はり)の屑砂にまじると人やいふよこしまに見る人はしかいふ

姉といふ美しき名をたまはりし身をかへり見て涙おとしぬ

一人二人みたりよたりも弟のわれにまつはるうらさびしくも

わが君のみ胸の糧に日にひとつ眞紅のたまをたてまつらばや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

夏きぬと翡翠の玉を手にとればわが涙かと指
のつめたき

海に入り眼を見ひらきて青き世のつめたき魚
をとらへつるはや

墨色にうばらしぶ〳〵開く頃われには堪へぬ
悲しみのくる

名もしらぬ野邊の花だにたわ〳〵とあへかに
咲くはかなしきものを

死にたらばなどかたりつるその事も夢よりは
かな人の世なれば

しからても尚泣かるゝを何させむ思ふ心の深かりしかな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

北の郊外より——岩野清——

I様暫らくお目にかゝりませんね。それに此二三ケ月雜誌の方へも御無沙汰して申譯がございません。これは近來私がなまけ癖がついた爲ばかりでなく、世間の衆愚のあまりに頑迷なのに愛想がつきたからでもあるのです。此間の日々新聞、たしか七月十日頃のでしたらう。平塚明子は髯をたくはへて男のまねをしてゐるさうだ。新らしい女が世間から指彈されるのは當然だと云ふやうな意味の事が書いてありました。これはそれ、あなたや平塚さんや田村俊子さんと私とあなたの案内で西ケ原のちまきへおしるこを食べに行く途中染井の墓地ではしなく田村さんが平塚さんのあごにうぶ毛の少し黑いやうなのが七八本生えてゐるのを發見した。平塚さんはいよ〳〵男だと田村さんがお笑ひなすつた。其時始めて私達も見出したあのあごのうぶ毛の事の誤傳でせう。勿論平塚さんはそれを田村さんの冗談だと思つて信じなかつた位でした。

「うそと思ふなら此鏡で御覽なさい。」と田村さんが懷中鏡を出して平塚さんに渡したの

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でやつと平塚さんも認めた事なんです。それを殊更に髯を蓄へてゐるなど丶書くさへあるのにそれを以つて新らしい女が云々など丶冷罵するのは日々新聞ともあらう大新聞の記者として随分輕卒な事ではありませんか。

七月號の現代では私が良人と喧嘩してよく近所の人々の厄介になつたが今度の家は畑の中だから近所に迷惑はかゝるまいと冷かしてあつたさうです。

I様、お互に自己と云ふものに生きてゐる新人は、自己と云ふものを何人よりも尊重し自己の權威を何人にも犯させまいと云ふ心持を抱いてゐる事と思ひます。あなたでも、私でもお互に自己を尊重してゐます。自己を尊重するからこそ其心を押して友人をも尊重するのですわね。だから私達の友人間は舊い女の友人同士のやうに囚はれなく友人の私生活を是非したり、入らないお世話やきをしたりするやうな惡弊なく眞の友人としての交際を續けてゐられるのですね。私はいつも私達の周圍の友人がお互にかうした考へを持つた人達だと云ふことを氣持の好い事だと思つてゐます。

私は常に舊い女の人々の中に自分の良人を他人に向つて惡罵したり、良人の人格を輕蔑するやうな愚痴をこぼしたりするのを實に愚な事だと思つてゐるのです。いやしくも夫婦として共同生活をしてゐる以上、社會に對して總ての共同責任を負擔してゐる以上、良人

の不名譽はつまり妻の不名譽ではありませんか。假令良人がいかに愚劣な人間であるとしても、夫婦となつてゐる以上は妻は其愚劣を社會に知られない樣に務むべきものだと思ひます。又然らずして良人に愛想がつきたから辯護までする必要がないと思ふ程になつてゐるのなら、それはもう眞の意味の夫婦ではないのですから速に離婚すべきでせう。

舊い女にはよくこんなのがありました。精神では良人を輕蔑し、友人や子供にまで、家のおとうさんは馬鹿だ。家の主は實に人非人だと惡罵しながら、猶夫婦關係を續けてゐると云ふやうな愚な女が多くありました。

然し私達は、少なくとも輕蔑してゐる男を自分の良人として一日でも暮らさうとするやうな自己に不忠實な婦人はありませんわね。

私だつてさうです。朝晩一緒に住んでゐれば夫婦だつて全然一個人ではないのですから魂のある、感情のある二個の人間ですから、たまには衝突する事もあります。自己の精神だつて自己と喧嘩することもあるのですもの、まして二人の個人が衝突するのに不思議はありませんわね。

然しいくら二人同士意志が衝突したからつて舊い女の樣に第三者にすがつたり愚痴をこぼしたりして何の利益があるでせう。自己と云ふものゝ權威を尊重し、自己の責任を自己

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に負つてゐる私は、自己の事は自己の意志で解決をつける事に極めてゐます。

ましてて夫婦間の衝突などについて第三者を煩らはしたりするのは、自分のした事の責任を他人に負擔させるやうなものですから私として斷じて出來ない事です。

それに私は一體多辯ではありません。家にゐても都合によれば一日用事の外は口をきかない日が多くあります。世間普通の奥さんのやうに用もないのに一日中雜談したり、わざとらしい甘へ方をして良人の御機嫌をとつたりするやうな事はしません。そんな暇には自分の居間で讀書でもするか何か考へるかします。口數の少ないのは私の天性です。平生でさへさうです。それが一朝不和となると、お互に沈默の競爭です。良人も家にゐては口數の少ない人です。昔からさうだつたさうです。ですから大久保にゐた當時使つた婆やがざつと一年間をりましたが、ついぞ喧嘩したのを見た事がないと云つたさうです。私達の喧嘩は沈默ですから婆やには分らなかつたのでせう。

人樣のお言葉を引くのも異なものですが、目黒にゐました當時上司氏のお宅がお近かつたものでちよい〱お遊びにお出でした。で、よく上司氏がかう仰いました。

「君の家は何日通つてみても靜かだね。留守かと思ふた。」と

まあ此位私達の生活は靜かなのです。只の一度だつて隣家に知れる程大聲を出して爭そ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つた事はありません。まして夫婦喧嘩で近所の御厄介になつたなんて丸つきり根もない、噂にもない事です。

こんな事を永々と書いて今更らしく辯駁する必要もないのですが、これは只雜誌記者や新聞記者の無責任な例に出してみたのです。

世間の噂などゝ云ふものは大抵これです。さうしてこん風に根も葉もない事が一度活字になると其人間を評價する唯一の證據になるのです。平塚さんや其他の新らしい婦人が世間から誤解されてゐるのも新聞記者等の無責任な記事から起ることなのです。

其結果は眞面目な事業までに影響を及ぼしてとんだ迫害を受けさせられるのです。近い例があの研究會だつてさうです。

かうなつて來ると、新聞記者等の無責任な筆を勝手に云はして置けと超然としてゐるのもよし惡しだと思ひます。

I樣、あなたは七月號の染井よりで俗衆の愚論を相手にする馬鹿々々しさを考へて尊い精力を無駄に消耗する事はつゝしみませう。とお書きになつた。

世間の衆愚に超然とするのも強い新人らしい仕方です。が、それも程度問題です。世間があまりしつこく迫つて來る時には鬪ふ必要もあると思ひます。少なくとも彼等衆愚が私

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

達の事業に防害を加へない程度になるまで。（終り）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

性的道徳發展の過程（續き）　エレン、ケイ

六

我々は基督教によつて、貞操に熱中するものの見地から考へても、又自由に熱中するものの見地から考へても人は自分一個の生命を延長すべく飢渴を滿足すると同樣に、人類の生命を延長すべく子供を產むものだといふことを認めない程、それほど性的問題を個人問題として取扱ふことに慣されてゐる。この考が飢渴と同じ自由を以て性的欲求を滿すことを主張する權利と同樣に淺薄にも禁欲主義者をして禁欲の無害に就いて語らせる。

併し若し個人が食なくしてあるならば其人自身が己れの生命を失ふ丈だが、生殖の權利なくしてあるならば其人が人類に與へることの出來た生命を失ふ。又若し個人が暴食のため死ぬなら受難者は其人一人丈だが、性的本能が過度に濫用されるなら人類こそ其受難者である。

現存の不道德は人類の有機體の血を絕えず毒することを意味する。現存の社會制度並に道德はこの有機體を弱める。無數の優秀なる男女が新時代の人間に遺產として彼等の血と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

魂を與へることゝなしに死すべき悲運にありと自から悟ることは只單に彼等自身の避け難き運命が彼等を憂欝に陷れるのみならず、無益な苦痛に對する憤怒の念を懷かせる。

自己の存在を人類の上に繼續せむとする個人の本能の制御されねばならぬといふことは制御といふことが生命を增大する限り、又は生命を阻害しない限りいふ迄もないことだ。併しこれは最も嚴密なる意味に於て「如何に、又何故に、如何なる範圍までこの制御は行はるべきか」といふ個人並に人類に對する重要問題なのである。

斯くて個人の生命も人類の生命も青年が十分の成熟期に達する迄禁欲のもとに生活する時增大される。人類の發展は生存の價値の僅少な生命を子孫の中に二度と產出しない時遂げられる。併し個人並に人類の生命は青年が己に成熟し、あらゆる點に於て適當でありながら子孫を生育すべき位置に置かれてない時害せられる。

發展の初步に於ては、飢渴と獨身は人を高上させる力あるものだつた。人は漸時に食物を制限すると同時に、その質を改良し、供給を正しくすることを學んだ。今や人は食物の價値は多分に食物が與へる快樂と食物に伴ふ不滿足によることを、又食慾を促さないものは食物の目的を果さないことを知つてゐる。人は、又有機體はあらゆる年齡と、あらゆる職業の階級に對して正確に量られた定食によつて養はれずして、寧ろ只或どうでもいゝや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うなものが實際必要な滿足を與へてゐるものだといふことをも知つてゐる。且又經驗はあまりの節食は過食と同じく有害なもので、一個人に必要な分量は或範圍內で食物の完全なる生命增大法に於ける一定の標準がなければならぬことを示す。此問題に關する我々の理解力は今や大多數の人の能力の及ばない程度に進步してゐる。が、是に反して種族本能の問題に於ける我々の智識はなほ過不及よろしきを得たる狀態を去ること遠い。そして我々が實際性慾の必要な滿足のために、現時歐洲諸國の特色なる飢渴と貪飽との間の平衡狀態に到達するには更になほ前途遼遠である。

ルーテルが斷食と獨身に終局を置くべきだつたといふは當然のことであつた。兩者は欲求を離脫した理想狀態を得んとする東洋的憧憬の表現で、又獨逸國民の敎育上缺くべからざる要素であつた。併し同時にルーテルの解放事業は無効に終るべきであつたといふことも、彼は人類の神性に於ける古代の信仰と自然の權利を採用することが出來なかつたといふことも、又絕えず人性を神聖にすることを人性それ自身に屬せざる手段に求めたといふこともまた不幸にして免れ難きことであつた。或人が尼僧と結婚した僧ルーテルの勇氣は彼の敎義の總てより價値あるものだといつたがいかにもさうだ。フイリツポ、リツピも確に同じことを行つた。それによつて世界は立派な聖母やフイリツピノ、リツピを得た。併

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しフラ、フイリツポも亦他の破戒の僭も革命を齎らさなかつた。即ち革命は自己の行爲の神聖なることとその自然の權利とを主張したルーテル唯一人の偉業であつた。

現時の問題はこの自然の權利の宣言の結果を追跡することである。

併し自然とても隨分間違ひの多い、不條理な、矛盾だらけのものだから必ずしも自然は完全だとも、合理的だとも、一貫したものだとも云へまい。只それは教養によつて高くも低くも變化することが出來る。それ故に自然の權利の宣言は一定の方向に自然が漸時に完全に近づかむとするその目的を達するやうに自然を意識的に教化する人間の權利を意味する。換言すれば自然によつて人間の中に又は人間に對して造られた必要は、人間によつて更に美しく、更に健全な方法に於て滿足させ得ることを意味する。併し此性慾的本性の修養は如何なる神の命令に於ても、超絕的理想に於てもその道德的標準を見出し得ない。只進化の過程に於て、本能を情熱に、情熱を戀愛に高め、今や戀愛それ自身をより大なる平等愛に高むべく努めつつあるその同じ完全に對する神秘的憧憬に於てのみ之れを見出すことが出來る。

それがため戀愛は戀愛の自然的使命即ち種族の永續と兩立しない戀愛自身の榮譽に對して要求を提出すべき筈だと考へる者もある。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

併し進化は原始的のものよりもつと複雜多樣な狀態を持ち來すといふことは、そしてその關係に於て戀愛は最も明かな例だといふことは萬人の共に認める處である。戀愛は――既に述べた如く――今や修養界に於て如何なる他の創造力とも比較さるべき天才の一形式たる偉大な精神力となつた。そしてこの領域內に於ても生產といふことはかの所謂自然界に於ける如く重要なことである。丁度我々は自分がいいと信ずるやうに製作する藝術家や研究を仕遂げる科學者の權利を認めるやうに、若し戀愛が何れかの方法で終には一般善に資する處あるものなら我々は戀愛に對しても戀愛自身の方法で其創造力を用ふべき權利を許さねばならぬ。

然らば我々はこの見地から戀愛は戀愛それ自身に目的ありとする提出を戀愛は不生產であつてもいいといふ程度に擴張することは出來ない。戀愛は生命を與へねばならぬ。若し新生命を與へないなら、せめては新價値を與へねばならぬ。戀愛は當事者自身と彼等を通じて人類を豐富にせねばならぬ。人性に信仰を與へ、道德を創造する眞理は到る處に見るやうに此處でも幸福を創造する經驗の中に含むことが見出される。そこで「自由戀愛」の或形式に對する最も眞面目な非難はそれが不幸な戀愛だと云ふことである。何故なら不生產より不幸な戀愛はないから。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人間のものを忘れる能力はものを覺える能力より遙に驚くべきものがある。さもなくば使徒の群にいつもユダがゐるといふことを、否、眞理は只その敵方の學徒によつて受け容れられるといふことを幾度も想ひ起す必要はなからう。これによつて人はあらゆる改革には改革者が樹木の根に斧を置き、今や打込もうとする時、それを妨げる改革の空想家あることを思ひ起す。又人は春の出水の爲にいつも氷のみならず土までも洗ひ去られることを怪しまない。

まるで人間は思ひ出すまいと決心でもしてゐるやうだ。それ故に彼等は今一度常に益々親密に會同し、益々速に増加しつつある新道德の戰士隊は、戀愛もあらゆる他の創造力の如く同じ法則に、即ちその出來得べき最高價値にそれ自身を増大する爲に全體にかゝはる法則に從ふといふ知識によつて、彼等が散布した學徒や彼等の輕快な前衞と區別されることを想ひ起さねばならぬ。實に種族の本能に根ざす戀愛は如何なる他の情緒よりも種族に最も專らなものでなければならぬ。しかも經驗も亦若し戀愛が種族と受授いづれかの關係を有たないなら、又其關係と連絡を缺くならその活力を保存することも助長することも出來ぬことを示す。それ故に人類から全く分厲した戀愛は總べて營養の缺乏のため死なねばならぬのは自明の運命である。

併し人類に戀愛を結び着ける紐は樣々なもので織ることが出來る。戀愛が種族に與へる賜は種々な方法で示すことが出來る。或場合に於ては偉大なる情緒は悲劇的運命を齎し、其運命はみづからの中に横はる紅き深淵に人類の眼を開くことも出來るし、又或時は幸福なるものの周圍に光輝を漲らし、近づく人の總てを照すやうな偉大な幸福を造ることも出來る。又戀愛が知的偉業や、有益な社會的事業をさせる場合も少くない、が最も多いのは二人を以前より完全にし、彼等自身より更に完全な子供を産む場合である。

是に反して彼等の生に於ても、死に於ても何の光輝も放たない夫婦、一層高尙なる人類に達する黄金の階を一歩も登らなかつたもの、又子孫のために彼等自身を犧牲にする何の準備もなく只相互間に獸欲のみを見出したもの、是等は不道德なものである。何故なら彼等の戀愛は人生の向上的發展に資する處がないから。この生命なき戀愛は浮氣な、不法な關係の形式をとつても、又生涯に亘る合法的關係の形式をとつても共に夫婦の生命を少しも豐富にしない。況んや種族のそれに於ては猶更のことだ。

斯くの如くして戀愛の道德的標準としての生命の增大に就いては我々は既に主張した通り、自由戀愛と結婚せる戀愛と、離婚の出來る結婚と出來ない結婚と、故意に子供を産まないのと兩親となるのといづれが果して道德的か不道德的かは前以て決定することは出來な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い。何故なら結果は各個人の場合に於て其背後に横はる意志と撰擇にかゝり、只事件の發展のみがこの意志とこの撰擇の性質を決定し得るものだから。

人間はとかく決心よりも實行に於て弱いといふのは充分眞理あることだ。併し實行の出來ない彼等とてもせめては舊道德思想を増補することを肯じねばならぬ。何故なら斯くの如き者は元來新道德を作る天職をもたぬものだから。又人生は折々誤謬を訂正する意外な助力をしてくれるといふのは眞理である、併し規則としてはいつも果は因の如くである。從つて全然利己的理由から母たることを避ける婦人は常に愛情なき細君である。あらむかぎりの結婚の幸福をそれから搾り出さうとも試みないで離婚して仕舞ふ妻は恐らく又新しい結婚に於てもその機會を逸することであらう。如何なる關係もそれを形づくる當事者間の關係よりよきものはない。この法則は道德的公平な判決は安んじて「時」といふものに任せることが出來るといふほど、それほど不易なものだ。これは人生の他の如何なる表現よりも戀愛は人間の裁判を退けることが出來るといふ意味でなく、寧しろ斯かる裁判は其結果の代りに夫婦關係の形式によつて決せられたる時間違ひを來すだらうといふことを意味する。是に於て我々は今や新舊道德の分水線上に立つた。前者の進路は人性に於ける力の根原に對する疑念によつて決定され、後者のそれは人性の力の根原に對する信念によつて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

決定される。前者の疑念は社會の權利に服する個人の義務に導き、後者の信念は社會に對する彼自身の本分を自から撰擇する個人の自由に導く。人性の弱點のために、又その結果として來る社會の幸福に對する懸念の爲めに、保守家は個人は喜んで彼のとかくに誤用し易き自由の一部を放棄することによつて彼の戀愛に於ける目的を滿すことを先づ社會に示さねばならぬといふことを要求する。ところが改革者は人生を豐富にするために、發展の權利のために彼自から撰擇した彼の戀愛を以て社會に貢献する權利と、彼自身の責任の下に彼の戀愛の自由を使用する權利とを個人に向つて請求する。

時代潮流の上に浮沈する輕い藻屑に眩惑されない人は新道德が新支流と共に次第〳〵に深くなりつつあることを直に知るであらう。

* * * *

基督教的道德は人性はたとへ其修養に於て不完全でも、其組織に於ては完全なりとする概念から發足する。人間は靈と肉とに分かれる。靈は神から來たものである。併し墮落した。そこで人類は規定の理想即ちクライストに到達することが出來るといふことを目的とする宗教によつて、その確定された修養法に從つて再び高められねばならぬといふのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なほ他に、人性本來の神性と萬人の平等に信仰を置く――もしくは置いた――道德がある。この信念は世界の平和を望む十八世紀の努力と、自由、平等、友愛がたとへ現存のまゝの人間でも實現されるといふ期待とに終つた。

是に反して、新道德は進化論の形式に於ける人道主義を採用する。これは靈肉を同一實在の二形式とする一元論的信仰によつて、又人間の精神物理學的存在は墮落もせねば又完全でもなく、只完全となり得るものだといふことと、人間は本質的に完全なるものでないといふ只その理由で變化し易いものだとする進化論の信仰によつて決定される。功利的人道主義も、基督敎的人道主義も共に物質的若しくは非物質的本源に關する人間の改善に於て「修養」と「進步」と「發展」とを人間自身の內部と外部とに見た。併し進化論は是等は皆、これ迄、謂はゞ、試驗的に產出された人間の實質それ自身を改善し、高上せしむるところの發展のための準備に過ぎないことを知つてゐる。

發展の現程度に於て、今日謂ふところの「自然」なるものは、我々が或時代、或人種、或國民に屬する人として生存する上に心理的、並に生理的に缺くべからざるものを意味する。今裸體が自然である如く昔は毛あることが自然であつた。今求婚が自然である如く曾ては掠奪結婚が自然であつた。種族は如何なる新變化に遭遇すべく預定されてゐるか、器官と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

感覺と心靈の能力と特質に就いて如何なる利害損失が種族を待つてゐるか――是等は未だ知られざる將來の秘密である。併し人類がそれ自身の發展に於て自から干渉する力を悟れば悟るほど一の意識的目的が必要となる。我々は如何なる障碍物を根絶すべきか、如何なる路を閉塞すべきか、又如何なる犧牲を己れに課すべきかを理解せねばならぬ。

新道德は多くの問題に於て――例へば勞働、犯罪、教育の如き――今研究期にあるのだが、就中性的生活に於てさうである。此問題に於てさへ、新道德は最早サイナイやガリリーの山から神の命令を受けはしない。進化論は他の到る處に於ける如く此處でも只間斷なき經驗のみを默示と見る。又進化論は人類の血となり魂となつてゐる歷史的經驗の結果や基督教的文明の功績をたとへ排斥することが出來るにしても――排斥しはしない。併し我々の背後に橫はる歷史的文明の徑路を野蠻人の戰爭と同樣何等の意識的方案なき相互矛盾せる思想や目的の戰場と考へる。人類が其目的と手段を撰擇する迄――更にその直接目的をして現時人類の特色なるあらゆるものの增大となす迄――又人類がその增大を助長するか、妨害するかの度合によつて人類の他のあらゆる利害損失を計るに至る迄進化論は矢張り前代からのその繼承物に對して正しき態度を取る譯にはいかない。そこで進化論は人類としての位置を固め、又は超人類に人類を高める爲の努力を害するものを排斥し、利する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ものを撰擇する。

我々は今や、これ迄の如く只表面のみならず、深さある敎養の階段の一端に立つた。即ちその階段は單に人類を通しての敎養でなく、人類そのものの敎養である。是に於て偉大なる敎養の彫刻家はこれ迄の樣に雪でなく、始めて大理石で製作することが出來るやうになる。個人の權利と種族の權利との眞關係は戀愛問題に於て、かの勞働問題に於ける個人の權利と社會の權利の如く今や重要なものとなつた。勞働狀態は現時代並に來らむとする時代の價値を上下するものだが、同樣の議論は戀愛狀態にも有効である。否一層高度に有効である。

勞働問題に於ける如くこの場合に於ても、遂に如何なる關係が定められるか我々は今日まだ知ることが出來ない。が、そこかしこに旣に其道を表示する閃光を見るのは事實である。併し是等の閃光を更に頻りに見る迄は、人類は恐らく他日白日の中に進行するその同じ道を僅に手捜りながら、又躓きながら歩むより外ない。

進化論の見地から性的道德を見る人達は未だ曾て一夫一婦制が――益々完全に向ふ一夫一婦制も――人間發展の最上手段だとは實際は決して考へてやしない。然るに是等の進化論者は基督敎的理想主義の戰士と合同して婚姻の儀式以外の自由結合の形式に於ける性的

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

事件を說く「現代の不道德」や、それらの夫婦間の離婚の增加や、兩親たることを好まないことや、未婚婦人の母權に對する請求等を非難する。併し他の進化論者は是等は皆種族の繼續のみならずその進步の爲に最も大切なることを戀愛に歸した覺醒の最初の布告と考へる。彼等は活潑、有力な生命の意志を以て現今の道德的標準と家族の權利を攻擊する。この爭鬪の目的はそれ自身新しくはない。只進化的思想によつて養はれ、かくて社會の權利に對して戀愛の權利を、過去の法律に對して將來の法律を主張するその大膽さ加減に於て新しい。

新道德は、廣き意味に於て文明は、之れが高き幸福感情と、その遂行に苛酷な手段を要求するやうな目的とが結合する時自然の上に永續的勢力を得ることを知つてゐる。種族の使命をして戀愛に於ける個人的幸福と協同せしめる人生の此の信條は前者に必要とする犧牲を後者に向つても要求する。併し是等の要求は種族の使命にとつては全く無意味な純潔に對する禁欲的要求によつて强められてはならない。この信條の歸依者は個人の性的感情と行爲の標準として、就中彼等は個人の幸福はまた種族の增大に對する最大重要條件だといふことを信ずるが故に戀愛に從ふ。

彼等はこの地上を幸福に飢え渴く者を以て滿すことを希ふ。何故なら彼等は只斯くの如

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

くして地上生活はその最深目的、即ち永久に新しき意味ある久遠の活物を作るといふ目的に到達し得ることを知つてゐるから。

「嘉悅は完全なり」エロスを通して肉となり、我等の中に住めるこの言葉はあらゆるものの中の最も深きものである。

若し我々がスピノザのこの格言を人生の意義の最高默示として受容するなら、我々の眼は同時に實在の調和に對して開かれる。我々は一層完全な種族が最も完全な言葉の意味で戀愛によつて創造させることを認める。併しこれは戀愛が生命に對する恐怖――神に對する恐怖でなく――の最高表現たる宗敎となる迄、人生に於ける信仰が常に戀愛を汚す迷信や不信を挫く時迄起らないであらう。神々の中の最年長者只ひとりとなつたその時こそ、今神の靈氣の動く渾沌たる大海原を滿す怪物共は創造の新日の光の中に死滅するであらう。

* * * *

事の明瞭を得むがため、以下說かむとする處の主要思想を茲に概說する必要があつた。從つて今後戀愛の進化、その自由及撰擇、母權の請求及解除、聚合的母心、自由離婚、新結婚法等性的道德に深大の影響ある運動を取扱ふ間に多少是等のことを操返すことあるの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は亦止を得ないであらう。

——第一章　完——

らいてう譯

次號よりは

第二章、戀愛の進化

——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

動搖——野枝——

らいてう様。

私は今、あなたのお留守の間に起つた或事件に就いて、出來得る限り素直に何の裝飾も加へず僞らず欺かずに、正直にその事件及びその間の私の心の動搖を語つて見たいと思ひます。

事件と云つてもあなたにはまつたくの新たな事ではないのです。あなたが旅にお出になる前に、一寸お話しゝたやうに思ひます。木村莊太といふ方の名を、——覺えてお出になるでせう。あの事なのです。あの時は、たしか第一の手紙が來て、私が返事を出したこともお話しましたね、それから、一番おしまひの金曜にフユーザンをお目にかけた筈で御座います。それから後の事なのです。

然し、私はいま、此の事件の解決した後で、ぢつと發展の經路をたどつて考へますと、私自身にすら分らない心持を現はすあとがはつきりとついてゐるのです。で私は、なるべく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

その刹那々々の小さな、動搖をもはじめから、のがさず並べて見たいのです。私が大さはぎで書く程あなたにとつては、興味も何にもないかも知れませんけれども、とにかく、書かして頂きます。後であなたの御批評でも伺ふ事が出來れば大變に、うれしいと思ひます。

拜啓、未知の私から手紙を差し上げる失禮を御ゆるし下さい、さて先月の中程の金曜日に編輯所へ上つてあなたをお訪ねしたのは、私でした、實はその頃からして私はあなたを知り度く思つてゐまして、それで突然御伺ひして見たのでした。その日御留守で御會ひする事が出來ずに歸つてからは私は今日まであなたを知るのはこの先自然の機會にまかせようと思つてゐました。と僕には、この數日間不思議な氣持が纒つてゐる事を知るやうになりました。一面に僕は今强烈な制作の熱に沒頭しかけて今年一杯ほどのうちには眞の自分の處女作といふべき長篇のものを書き度いとして居るのです、それには今の淋しい、然し靜かな自身の孤獨の境涯を寧ろ自から喜ばうとしてゐるのです、がさう云ふ僕にはまた一面にかなり烈しくあなたに對する興味を抱かせようとしてゐるものがあるのです、それを私は今日まで自然に自分の頭の中に生かして置いて見たのでした、私はあなたの書かれるものゝ幼稚さがかなり純らしい處から出てゐるようなのを愛してゐま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

す、さうしてあなたをいろ〳〵想像して見てゐます、それからいろんな人に尋ねて見ましたけれどもたゞ漸くにあなたが年若い方だと云ふより他には何にも知る事が出來ませんでした、僕はこの頃よく電車なぞに乗つて若い女の人を目にする時にそれがあなたなのではないかしらんとふと思ふ事があります、さうしてそれがあなたであるのに僕があなたを知らないためにそれと知らずにゐるのではないかと思ふ事があります、兎に角あなたはかうして僕のあたまの中に生きてゐられるのです、僕はかう云ふ自分の氣持が顧みて幾分ラヴに似てゐる事を驚くのです。それも單なる自身のイリユージヨンに對するラヴに似てゐる事を驚くのです。僕は自分のこのイリユージヨンをば打破したく思ひます、あなたをあなた自體のほんとの價値に置いた上考へたく思つてゐます、私はこれからあなたの書かれるものを氣長に見てゐてあなたを知る事に勉めやうかと思ひましたが私のあなたを知り度いといふ念は今やはりそれより些し性急なのです、それで手紙をさしあげる事にしました。あの編輯所へはかういふ目的で上つてよいかどうか思はれて來ましたから一應お伺ひする事にしました、もし御會ひ下さるようでしたら御都合の時處をお知らせ願へば幸甚です。或は御會ひして見た上ではあなたの個性と僕の個性は相反撥し合ふ性質のものであるかも知れないと思ひます、またはあなたが一層ほんとに僕

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の心に生き始めるようになるかも知れないと思ひます、或はまた只一個の友達として靜かに氣持よくお話しする事が出來るかも知れないと思ひます、兎も角、あなたは僕にあなたをすつかり御示し下さらうとなさいますか、

それから僕にはまた一面には虛心にあなたが生きてゆかれやうとする上の要求を直接に知り度いといふのみの願ひもある事を附記しておきます。

尙この手紙はあなたにプライヴエエトのものである事を御承知のほど願ひあげます。

以上、　六月八日夜

この手紙を私がうけとつたのはたしか六月十三日の朝だつたと覺えて居ります。

「木村莊太」といふ差出人の名が忘れつぽい私の頭の何處かの隅に、二三度も雜談の上で見た名だと殘つて居りました。そして、最近にTと二人で本鄕を歩いたとき、ふと開けたフユーザンの中に見出した名である事も覺えて居りました。

私は一應その手紙をよんで見て、何かにハタと躓いたやうな氣持ちがしました。何とはなしに、當惑して終いました。丁度その日は金曜日でした。私はその手紙を小母さんに見せて、困つた〳〵と云つては、寢ころんでいろ〳〵に考へました。私は、何だかその手紙

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を、Tに見せると、いふ事が大變、恐いやうな氣がしました。この手紙に對する私の態度がどうであるかといふ事より先きに、私は、この手紙によつて、Tが、どんな心持ちを抱かされるかと考へますと、惱ましい氣持ちがつきまとつてゐるやうな氣がしてこまつたものを貰つたと云ふ氣がしました。私は思ひあぐんでよく私の最上の態度を、見つけ出すまで小母さんにあづけて、Tに見せないで置かうと思つて、小母さんに、あづけたのです。小母さんと無駄話をしたり晝寢をしてゐる間も私はそれを考へてゐました。だん〳〵落ち附いて來ますと、私はこのまゝ手紙を小母さんにあづけてかへつても、私は、この苦しいやうな、氣持を自分ひとりで持つてゐる事が出來ない事に氣が附いたのです。私はいまゝでどんな些細な事もTにだまつてゐた事はないのです。Tのゐない處で私が他人と取りかはしたちよつとした、つまらない無駄話の何の興味もない事でも私は、話したのです。そうして、私とTの間には何の秘密もないのです。Tは今日も夕方、いつもと變らない穩かな氣持ちで歸つて來るに相違ないのに、私は暫く、Tにかくしてゐなければならない事を胸に持つて歸らなければならないと思ひますと、何とはなしに、壓しつけられるやうな氣持ちがして、矢張り何時ものやうにさつぱり打ち明けてしまつた方がいゝといふやうな氣がして、小母さんからその手紙をもらつて、かへりました。かへると、丁度あの中央新聞

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の記事のことで、私はすぐうちを出たのです。そして岩野さんの處へ伺つて、岩野さんと一緒に、中央新聞社に行きましたが用がたりないで其處から銀座の方を歩いたりして、歸つたのは十一時頃でした。Tは起きて、まだ仕事をして居りました。私はその傍にすはつて、木村氏の手紙を出して、見せました。Tはだまつて、それを讀んでしまつて、返事を書いたらよからうと、申しました。でも私は、その手紙の普通とちがつて可なり眞面目なところに引きつけられるやうに思ひながらもだまつて、笑ひながら返事をしないで居りました。Tは可なり熱心に手紙を繰り返し讀んで、返事を書かなければいけないと、いろ〳〵すゝめました。Tは木村氏の事に就いては勿論同氏の書いたものを通じて、ではありますけれども私よりよほどよく知つてゐました。それから、私達はいろ〳〵な話をして十二時すぎに臥りました。

翌朝氣持よくTを送つてから私は、机の前に座りましたけれどもさて、何と、書いていゝか一寸困りました。でも、兎に角會つて見やうと思ひまして、思ひ切つて返事を書いたのです。

拜復、御手紙はたしかに拜見致しました。暫く社の方へまゐりませんでした爲めに御返

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

事が後れまして申譯が御座いません。どうぞあしからず御許し下さい。

それから先日は社の方へわざ〳〵御出下さいましたのに誠に失禮いたしました。實はお手紙お拜見しまして初めてそれと知りましたので御座います。御出下すつて後社の方へは二三度まゐりましたけれども社に居る人が忘れてゐて私にさう云つてくれませんでしたので、ちつとも存じませんでした。

御手紙を拜見して私はたゞはづかしう思ひました。私の幼稚なつまらない感想でも讀んで下さる方があるかと思ひますとふしぎな氣が致します。まだ私など他の人に手を引いて頂かなければ歩けない位の子供なので御座いましてこれからすべてこの事に就いて研究して行かなければなりませんので本當は雜誌に麗々とあんな感想など書ける柄ではないので御座います。

私は、なるべく勉强したいと思つてゐましてもなまけてばかし居ますのでこの上他人との交渉に忙しくなつたりしてはとてもどうにも出來ませんから、なるべく止むを得ない少數の人との他はすべて交りを絶つてゐるのです。いろ〳〵の事で私は周圍の人と今は全く絶緣の形です、靑鞜社の内部の四五人の他は誰とも今の處係はり度くないので御座います。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

それで、私はあなたのお手紙を拜見していろ〳〵考へて見ました。

あなたは私を知り度いと云つてゐらつしやいます、そして私についていろ〳〵の期待やなんかで待つてゐらつしやるとさう思ひますと期待される程の何物をも持たない私は矢張り自然にお會ひする機會を待つてお目にかゝるのならまだしもですが、强いて機會をはやめると云ふ事が何とはなしに避け度いやうにも思ひました。

然しまた、まじめなあのお手紙を繰り返して考へて見ますと、どうも矢張りおことはりすると云ふ事が如何にも傲慢な禮を失した事の樣にも思へてまゐります。それで兎に角お目にかゝつた結果はどうなりますか分りませんがお望みにおまかせする事に決心致しました。時間の御都合や何かもあなたの方でおよろしい時にし私の方はこの次の金曜をのぞく他さしつかへは御座いません。もしあなたの方の御都合では金曜日に社にお出下すつてもさしつかへは御座いません。二十五六日は大抵校正に築地の文祥堂へまゐります。校正も二時間位間をおいて出たり少しづゝ出たりしますので割合にひまで御座いますから印刷所の方が御都合がよかつたら印刷所でもかまひません。その他は大抵ひまで御座います。然し今月は原稿の集り方がおそう御座いましたら催促にまはつたりしなければならないかも知れませんが大抵は都合が出來ますからあなたの御都合次第でお伺ひ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

します。
フユーザンにおかきになりましたのを是非拜見したいと思つてゐますが社に來てゐませんので一寸ついでがなくてまだ拜見しません。近いうちに拜見しやうと存じます。

——六月十四日——

書いてしまふと私は何だか安神したやうな氣持ちでゆつくりと、木村といふ人をいろいろに想像して見ました。然しそれもすぐに興味がなくなつてしまひました。そして、その人の、最初の手紙では何の變つた、特殊な好奇心をも持つ事が出來ませんでした。たゞ小母さんに聞いた木村といふ人が大變に、若い人だつたと云ふ事だけが意外に思つたのでそれだけ覺えてゐました。私は、Tが歸つて來て私のこの返事を讀んで何と云ふだらうなんか考へて、だるい體を横にして、Tの歸るのを待ちました。

でもTの歸るのは大抵夕方です。私は夕方が待ち遠しくてなりませんでした。私は退屈して、もう一度木村氏の手紙を開いて見ました。

………或はお會ひして見た上ではあなたの個性と僕の個性は相反撥し合ふ性質のものであるかも知れないと思ひます。またはあなたが一層ほんとに僕の心に生き始めるやうに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なるかも知れないと思ひます……

若しかして、會つて、反撥し合ふのなら、いゝけれども…………そうでなかつた時は？私はどうする？ そなん事はない、私は、木村氏に會つたら先づ、一番に、私がTと共棲してゐるといふ事實を話すことだ。と、そんな事を思ひましたの、だけど何だか、もしその上にも私に愛を、持つて呉れて、その人に苦痛を語られたら、たまらない、どうしやう、といふやうな事も同時に思はれて來ました。でもそんな事はない、よしあつたにしても、私と、Tの强い結合は、何物にも打ち克つ自信がある。殊に、此の頃、芝から染井に歸つて來た頃から以來、私のTに對する戀着は、一層執拗になつた事が自分でも不思議な位なのです。今、私とTとは寸分のすきもなく、接觸してゐるのだといふ自信がある間、私はいつもTの强い力を感じてゐるのです。私は、Tの、その力のゆるみが少しもない間は、どんなに强く來られても突きはなす事が出來ると、いふ自信が湧き上つて來るのでした。私は、ひとりで、微笑みながら、大きい二つの袋に、一ぱいつまつた私とTとで書いた手紙を思ひ出して苦しい、辛い、然し本當にたのしい、私達の滿一年半以上もおんなしに續いて來た戀を想ひました。

その夕方Tが歸つて來てからそれを見せて、一緒に外出して、その返事を投函しました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

それから二三日忘れてしまつたやうになつてゐました。時々、Tは、その事を、云ひ出しては戲談云つたりしました。私は、それがいやなのでなるべくそれを避けやうとして居ました。

拜啓　御返事ありがたく拜見しました。それでは二十六日の午後に文祥堂へお伺ひする事に致します。電話を一寸伺ふ前におかけしてから上るつもりでをります。まづその節申あげます。

私には今凡て自身の上に起つて來る事毎がみな必然のやうに思はれてゐてなりません。かうしてあなたとお會ひすることもまたやはり一種の自然な機會のやうに思はれて參りました。私をして過日の手紙をあなたに差し上げさせたものはどういふ力でせう。あなたがその私に御會ひ下さらうとなさるのもまた何によるのでせう。私は敬虔に慇懃に運命と握手しながらあなたに御會ひする日を待ちます。

私はほんとうにあなたの御手紙を讀む事を喜びました。あのお手紙で私にあなたがこれまでよりもずつとハッキリ解つたやうに思はれたかゝらなのでした。ではその節をお待ちします。

——六月十七日夜——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○「フユーザン」が手許にありましたから同便にて御送りします。來月は「生活」と改題して同人が變更します。私はそれにガルシンを譯しました。

十八日の朝、私と、Tとは、何時ものやうに、家の他の人より後れて起きました。そして、二人ともまだ寢衣のまゝの處に、右の手紙と、帶封のフユウザンが屆いたのです。私は大急ぎで手紙を開けて、目を通すと、そのまゝTに渡してフユーザンを開けて見ました。Tが先に讀み度いといふのを拒んで私はTが出てしまふと、よみ出しました。木村氏の書いた顫動と、いふ題は、この間一寸見た、ばかしでしたが、よんで見ると、眞實な或る力がズーッと、よむ者に何の餘地も殘させずに迫つて來るやうに感じました。そして、小母さんの云つてゐた大變に若い人といふ感が、しなかつた。何だかふしぎに、小母さんの云つた人を想像したのとはそぐはないやうな氣がしました。

あなたの處に伺つたのはたしかその翌日の十九日だつたと思ひます。その時、一寸お話しましたね、その翌日、金曜日に社に集つたときあなたに、お會ひした、きりとう〳〵山にゐらつしやるまで會へなかつたのですね。

あれからぐず〳〵して、二十三日の朝、私は、木村氏に、今月は校正を少しはやく切り

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

上げるから二十六日まで掛からないかもしれないと云ふ意味の事を書いたはがきを私より先に出るTにたのんで私は後から文祥堂に行きました。勝ちやんはもう來てゐました。二人は、しばらく、話をして、まだ再校の出るのに時間がありましたのでその邊を歩きまはつたりして歸つて來て、後から來る校正をやつたり、本をよんだりぐづ〳〵してゐました。午すぎになつて、珍らしく私に電話だと云ふので東雲堂からでもかゝつたのかと思つて、階下に行きましたら、木村氏からでした。今から行く、と云ふ事でしたので私は簡單にお待ちしますと云ふやうな事を云つて、引きかへしました。それから勝ちやんと二人涼しい窓際に椅子を置いて勝ちやんの持つて來た「淺草」を讀みながら可なり待ちました。

漸く、三時頃かと思ひました木村さんがゐらしつたと、知らせてくれましたので、降りて行きまして、硝子の戶を開けますと、直ぐ其處に立つてゐた人がこちらを向きました。あゝこの人だなと思つた瞬間にその人は、帽子をとつてお辭儀しました。私もお辭儀を返して、簡單に挨拶をすまして、私は階上の校正室に導きました。

私は、木村氏の外貌とか風采について、いろ〳〵想像したり、なんかしてゐませんでしたので、すべて、知らないうちで、不用意に、未知の人に會つたやうな氣持ちでした。座についてからも私は何を話していゝのか分りませんでした。暫くしてから、其の人は、可

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なり低い聲で私に手紙を出した動機とか氣持ちとか云ふ事を話し出しました。しかしその調子は極く輕くて、そして、口早やなので、私の、方には、何にも、來るものがありませんでした。態度には可なり落ち附いた處が見えないでもありませんのに、一寸、變な氣がし出して來ました。

私も少しづゝ樂になつて來て、ちよい〳〵何か、云つたりしました。そして、よくも知らない人や自分とずつとはなれた人には、誠に口不調法な、私は、思つてゐる何にも云ふ事が出來なかつたのです。そのうち話は、私共の仕事やそれについてこの頃の、迫害や婦人問題の事等話題がやゝ潤いて來ますと、私も相當にしやべれるやうになりました。そうして話して、ゐるうちにも、私は早く、Tとの關係をこの人に話してしまひ度いと、あせつてゐるのですけれども、さて、口を切る事がなか〳〵出來ないのです。そのうちに、此の間の中央新聞の記事の話になりましたときに、私は、あれは、全部僞りだと云ふ事を、話したのです。そして、G氏と、私との間には何にもない全く新聞の傳へたのは虛僞だけれども、私と、Tといふ男と同棲してゐるのは事實だと云ふ事を、別に話さうと、私がその話をし出す緒を見つけてゐるうちに、木村氏の方では、私が、あの新聞の記事を否定した事によつて、私の周圍には、別に、男がゐないといふ風に思つてしまつたらしいのです

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

その時氣はつきましたが私はすぐにとり消せなかつたのです。歸つて、手紙にでも委しく書かうと、思つてしまつたのです。

室の隅にゐた勝ちやんも仲間に入つていろ〳〵な雜談をとりかはしました。

靑鞜社で公開の研究會の事の話が出たときに、フユウザンで靑鞜社がフユーザンの同人のT氏の名を承諾なしに、書いて、賣物にした、と云ふやうな事が書かれた事を私は思ひ出して、話しました。そして、私は、T氏の處に行つた、らいてう氏は、お講義は出來ないが講義錄には、書いてもいゝと、いふ承諾をうけて、歸つてお出になつたのださうです、そして、それはT氏ばかりでなくI氏も同樣の御約束だつたのださうです。それで無論御名前は出してもいゝ事と、思つて書いたのです。尤もそれもT氏と、I氏は講義錄だけに、御執筆下さるといふ事を、斷らなかつたのは、私の方の手落ちでしたけれどもさうムキになつて、お怒りになるといふのは分りませんと、さう木村氏に申しましたの、私は、何だかT氏がしきりに、怒つてお出になつたと云ふ事を木村氏に聞いて、何故その位に、怒つてお出になるのなら、もつと男らしく正面から靑鞜社に、抗議を申して下さるとか、又はフユーザンで書くにしても御自分で、ちやんと、書いて下さらないのだらうと思ふと、何となく忌々しくなつて來ました。そして、また、新しく、あの六號の活字をまざ〳〵と目

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の前に浮べて見ました。

「……たのまれた譯ではないが青鞜社でもこの頃そんなやうな商賣をはじめたさうだ。」といつたやうな事が書いてあつたそしてその下にS、Kといふ頭字が書いてあつた事を思ひ出したから私は臆面もなく、あんな事を書かれては本當につまりません、私共は二月からあの事で隨分な迫害を、うけながらどれだけの時間や勞力を、費したでせう、商賣や道樂と一緒にされては耐りませんつて、云つたりしました。

五時頃私共も校正が出ませんので木村氏と一緒に文祥堂を出ました。

勝ちやんが銀座の方へ行くのに築地を歩いて行かうと云ひますので、私も賛成して、木村氏に其處でお別れしやうと思ひますと、木村氏も丁度銀座の方へお出になると云ふので一緒に歩くことに致しました。歩いてゐる間はごくつまらない話しかしませんでした。築地を一周して、銀座の角でお別れするまでの間にもさして、深い印象をその人から受ける事は出來ませんでした。

歸りますと、丁度T氏もかへつて居りました。私は、輕い上つ調子で、笑ひながら、今日木村さんに會ひましたよと申しますと、さうかいどんなだつたい、と少しくすぐつたいやうな眞面目なやうな表情をしてきくのでした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

どんなつてーと云ひかけて、私は困つてしまひました。唯髪をきれいに分けて、眼鏡をかけた色白な明るい顏の輪廓と、敏しげな眼とより他一寸浮んで來なかつたのです。そして、その時に、初めて、何だか今日の會合の、何となく呆氣ない、要領を得ないものだつたと、云ふ事が思はれ出したのです。

何を話したと、聞かれてもどんな人だと聞かれても私は、實際まごついたのです。自分でもそう云ふ人に會ふとしてはあんまり不用意だつた事がTにも自分にも耻かしくなつて來ました。そして、木村氏にも何だかすまないやうな氣がしたのです。でもその夜、私は木村氏に手紙を書かうと思つてゐましたが疲れてはゐますしそれに急に書くのがいやになりましたので今日木村氏と會つてチョイ／＼感じた事をさがし／＼して、Tに話しました。

翌朝Tが出掛けると直ぐに「京橋釆女町にて」といふ裏書で木村氏からの手紙が投げ込まれました。私は、書き後れたと云ふ感と一緒に何かしら、その手紙を開けたくないやうな氣もしました。それは、かう云ふのです。

伊藤野枝樣

只今は失禮しました。僕はあなたにお別れした今直ぐにこの手紙を書きます。僕は今隨

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

分いろんな事を言ひ洩したのを感じます。それを今書かうとします。一言にして云へば僕には今日の會合が非常に物足らなく感じられるのです、あなたに對する私の豫期は當りました。私はあなたが今日御會ひしたあなたである事を喜びます。私はもつともつといろ／＼の事をあなたにお話したく思ひます。今日まで私はたゞ／＼あなたを知り度いと云ふ念にのみ燃えて來ました。それが今その僕の要求が急速に變化しました。僕は今出來る丈けよく出來る丈け澤山僕をあなたにお知らせしたく思つて來ました。何から書いていゝか分りません。書き度い念は心の中に溢れてゐます。僕は今日あなたに會つてからの自分が若しもあなたがいゝ方だつたら恐らく非常な激動の中に投げ込まれる事であらうと豫期してゐました。さうしてその凡ての惑亂に備へやうとしてゐました。僕は今その自分の氣持が割合に靜平である事を少しく意外に思つてゐます。私は今日まであなたがひよつとすると御一人の方ではないかも知れないといふ掛念に非常に惱まされてゐたのでした。（耳にした新聞記事やその他の事で）そして若しもその上あなたがいゝ方だつたら實に自分は堪らぬだらうと思つてゐました。併しそれでも自分はよいと思つてゐたのでした。僕はあなたの事をひとり心に生かすのみで充分自分が幸福になり得ると思つてゐたのでした。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さう云ふ掛念は去りました。私は自分の心の中に播かれたあなたに對する愛の種子がこれから日毎に成長する事を感じます。どん／＼それが強くなるのを今から感じ得るやうに思ひます。今も私はあなたにお會ひした事を幸福と思つてゐます。幸福に面じてそれに背かうとする人間があるでせうかその幸福に益々近づかうとしない人間があるでせうか、

私は天性極端にパッショネエトな性情を受けてこの世に生れて來ました。その私が今自分でも不思議な位靜平な心境を保つてゐられるのは一つはあなたの人格に依るのだと云ふ事を感じます。あなたは少しも愛するものの心を掻き亂さうとなさる所を持つてゐでになりません、（あなたはあなたに對する率直な感じをお聞きになる事をお喜びになるだらうと思ひますから失禮ですがこゝに書きます。）あなたは少しもセンシュアリイに男に觸れやうとなさいません、私はその事を一番強く感じます。それは全然對當のあなたに依るのか一面自分の心情も手傳つてそれをあなたから感受せぬのかそれはまだよく自分にも分りません。

私のためにはさう云ふあなたにお會ひし得たと云ふ事がどれほどの喜びでせう。

あなたは今日僕をどうお考へになりましたか私は若しもあなたに私を倘ほ知らうとなさ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

るお心がありましたらばこの後もまたお會ひする事をお許し下さるようにお願ひしたいのです、僕は些か自分が戀愛（と敢て書きます）するに就いては自分をも愛人をも幸福にする手段を知つたと思ふものです。あなたは僕が「どれ程本當に生き度いと望んでゐるものであるかをお知りになると思ひます。その僕の孤獨がどれ程深いものであるかを御存じになると思ひます。けれども僕はあなたになんにも求めようとはしてゐませんたゞあなたもまたあなたの御心の中にある自然をば自然にお育てなさる事を望まうとするのみです若しさうあなたがなされば僕に御會ひになつたこの事はまたあなたをもよく生きさせる事にならうと思ひます、今僕は實に力が足りません僕は出來る丈け廣く自分の愛の手を人類に對して差し伸べたいと思つてゐますが自分自身のライフを絶えず充實させて行きつゝ且つ屆く範圍は實に狹いのです（僕が今對社會的の行動を避けてゐるのもそれが兎角に外面的の思議に流れ易い事を思ふからです。）さういふ私は一人の人を深く愛してその人の心の底の人間に出來る丈け強く觸れたく思つてゐます、それが自分の愛を擴充させる現下の最善の手段だと思つてゐます。またひとりの婦人を透してあらゆる全般の婦人に自己を語り度く思つてゐます。

私はあなたを愛します、愛します愛します。その愛に自己が生きます世界が生きます、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

實は私は己にあなたを愛してゐました。ですから私は今日若しあなたがその私の愛を激しく裏切る方であつたら（私は隨分人の外觀に對する撰擇があるものですから）實にこの上のない不幸だと思つてゐたのでした、で私はその運命の前に盲目に震えてゐたのでした、私はもつと自分の運命を信じていゝといふ勇氣を得ました。僕は今實にいゝのです。

私は今日特に第一にあなたにお尋ねしたく思つてゐて小林さんがゐたもんですから言はずにゐました事があります、ある友達が生田長江氏の許であなたの御譯しなすつたエレンケイは他の方（あなたに交渉のある方と云ふ意味で）の手になつたと聞いたと數日前私に傳へた事なのでした。私はお互ひのこれからの交渉し方に就いてあなたと私の現在の境界をハツキリ確かめて置き度く思つてゐたのでした。今まださう云ふ不安が全然一掃されてゐないのを感じて來ました、といふのはさつき御願ひしました尙お會ひ下さる事をお願ひするに就いて度々手紙をさしあげるかも知れない事に就いて、就中あなたに對する私の愛の處置し方に就いて境界を始めて置き度いと云ふ念なのでした。

それに就いても私はふしぎな運命を感じます若しその事を一週間ばかり以前にあなたへ手紙を差し上げる以前に聞いたらあなたにお會ひする念は放棄してゐたに違ひないので

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

す實際それを聞いてからあなたの初めの御手紙を頂くまでは私は隨分當惑を感じてゐて日を送つたのでした。

私は今途中に居ます仕事の都合で今晩此處へ宿らうと思つてゐます、麹町の宿に始めてあなたに手紙をさしあげた夜に書いたものがあります歸つてそれを御送りしたく思つて居ります、いろ〳〵お妨げしてすみませんが一應御目をお通し下さるように御願ひします。

長いこと纏らぬ事を書きました御推讀のほど願ひ上げます。

若しまた御序でゞもありましたらば汚ない處ですが御寄り下さい御參考になる本など貧しい藏書ですがあるかもしれないと思ひます。ではこれで失禮します。

――六月廿三日――

私はこれほどに手强くかゝつて來られやうとは思ひませんでしたので少からず驚きましたそれにしても昨日自分で話す丈けの事を話さなかつたと云ふ事が非常に自分にも責めなければなりませんでした。私は自分で機會をはづした爲めに木村氏にかう云ふ手紙を書かしてしまつたと云ふ事が大變に申譯けのないやうな氣がしてヂッとしてゐられないやうに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

焦り〳〵して來たのです。私はその手紙について他の何にも思ふまがありませんでした。
私は直ぐと机に向つて返事を書いたのです。

御手紙拜見いたしました。そして私はあのお手紙の全面に溢れたあなたの力强い眞實に强く接しました。同時に私は何とも云へない形容の出來ない苦しい氣持ちになりました。實は昨日お會ひしましたとき私はもつとお話しなければならないいろ〳〵なものを持つて居りました。それはあなたがこの手紙をお書きになる前に知つておいて頂かねばならない事なのでした。昨日、あすこでお別れしまして後に私はかへつたらすぐにそれ等の事を書いてあなたにお送りしやうと思つたので御座いました。然し昨夜は可なり勞れてゐましたので何にも書けませんでした。そして今朝お手紙を拜見して私は本當にどうしていゝか分らなくなりました。私はあなたに何とお詫びしたらよろしいので御座いませう、本當に私が氣が弱かつた爲めに申後れてしまひました。でも私は自分を僞るといふことの出來ない者で御座います。そしてまた人を欺く事もきらいで御座います。私はおなじみの淺いあなたに對して申あげる事ではないのでございますがあなたをはじめな方だと信じてお話いたし度いと存じます。そしてそれはあなたに一層私と云ふものが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ハッキリとおわかりになるといふ事を信じます。

委しくお話すれば隨分長いのですけれどくだらない事はぬきにしてお話いたします昨日御會ひしたあなたの目にはどううつりましたか存じませんが小さいうちからいろいろな冷たい人の手から手にうつされて違つた風習と各々の人の異つた方針に敎育された私はいろ〳〵な事から自我の強い子でした。そして無意識ながらも習俗に對する反抗の念は十二三才位からめぐんでゐたので御座います。私は生れた家にも兩親にも兄妹にも親しむ事の出來ない妙に偏つた感情を持つてゐるのです。十四五位から私は叔父に監督されて勉强するやうになりました。私の十七の夏歸省しました時私は意外にも結婚の話を持ち出されました本當に意外なのです、勿論私は斷つてしまひました。然しその時には既にもうすべての約束はすんでゐたらしいのです、すべては叔父の專斷でした。私は少しの猶豫をも與へられず結婚を强制されたのですのがるゝ事の出來ないと解つたときに私は周圍のすべての人を呪ひながら炎ゆるやうな憤怒と或る決心と共に式に連りました。私は私の夫となるべき人が如何なる性格を持つた人が如何なる履歴を持つた人かも知りませんでした。姓名さへも私は知らなかつたのです。勿論その人は私がすべてを捧げ得る人ではありませんでした如何なる方面から云つても私とは反對の人らしく思はれまし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。私は意地をはりぬいてその人とはろくに口もきかずに直ぐに上京を口實としてかへりましたそしてとう〳〵歸校しました。然しその時私は五年生でしたから卒業はすぐ目前にせまつて參りました。卒業して後は無論知らない嫌やな家庭に入らねばなりません、私はたゞ一日々々とその日の近くなるのを恨みながら苦しい心持ちを抱いて學科の勉強さへも怠り勝ちでした。いよ〳〵三月になつたとき私は國に歸るまいと決心したのですけれども私の從姉が私と一緒に卒業して一緒に歸る事になつてゐるのです。勿論公然止る事は出來ませんのでどうしても一度は東京を從姉と一緒に出なければなりません。そして途中で從姉らか離れて暫くかくれやうと思つたのです。そして非常に緊張しきつて日を送りましだ。卒業試驗もうやむやで終つて二十六日が卒業式といふ事になりました。私はなるべくゆつくりしていろ〳〵な準備をして置かうと思つてゐますと突然從姉の祖父がなくなつたりして廿七日に歸らねばならないやうになりました。私はもう何をする間もありませんでした廿六日の夜は私は體が裂けてもしまひさうな苦しい大擾亂の中に泣く事も出來ない悲痛な氣持ちでおそくまで學校に殘りました。翌日たゝなければなりません。丁度その時上野の竹の臺では洋畫家の日本畫の展覽會と靑木繁氏の遺作展覽會があつてゐました。私はそのたつ日——廿七日——にすべての事をすてゝそれを見

にゆきました。私の爲めに一緒に行かうと云つて一緒に行つてくれたのは學校の英語の先生でした。私は昨日一昨日あたりからの激動にわく〳〵してゐましたので落ちついて見てゐられませんでした。そしてそのかへりにはじめて何の前置もなしに激しい男の抱擁に會つて私は自身が何かをも忘れてしまひました。惑亂に惑亂を重ねた私はおちつく事も出來ずにそのまゝ新橋にかけつけました。新橋には多勢のお友達や下級の人たちが來てゐました從姉はさきにいつてゐましたが私のおそかつた爲めに汽車の時間には後れたのです。私は再び小石川まで歸つてまゐりました。すべての事は私には夢中でした。何を考へる事も出來なかつたのです。再びその夜十一時にたつ事にして新橋に行きました。私共に絕えず厚意をもつて下すつた三人の先生がおそいのもかまはず送つて下さいました。

汽車の中でだん〳〵落ち付いて來ますといろ〳〵な事考へなければならない事が頭に一つ〳〵浮んで來ました。一番に浮んだ事は晝間自分に對した男の態度です。私はそれが何だか多分の遊戯衝動を含んでゐるやうにも思はれますのですがまた何かのがれる事の出來ないものに捕へられてゐるやうな力强さも感ぜられるのです。私はどうしていゝか迷つてゐるうちに汽車はずん〳〵進んで行つてもうのがれる事が出來ないやうなはめに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なりました。そうして仕方なしにとう〳〵歸りましたが歸つてもぢつとしてゐられないのです。私はすべて私の全體が東京に殘つてゐる何物かに絶えず引つぱられてゐるやうに思はれて苦しみました。そして直ちに父の家を逐はれて知らない嫌やな家に行かねばならないと云ふ苦痛も伴つてとう〳〵私は丁度歸つて九日目に家を出てしまつたのです。暫くの間十里ばかりはなれた友達の家にゐました私は私の在校中に可なり私の爲めに心を遣つて下すつた先生のお力によつて上京しました。それまで私はその先生にすらそれ等の事情をお話しなかつたのです。そして私はさしあたり行く處がないので英語の先生のお宅にお厄介になつていろ〳〵相談しました。

國の方の騷ぎは豫期以上に大きかつたのです。そして騷ぎは學校にまで及んでその爲めに私を助けて下すつた二人の先生は可なりに御迷惑だつたのです。そして私は、その時はもうはつきりした意識の下に男を愛してゐました。男も私を愛してくれました。私共はかう云ふ關係になつてそれをだまつてゐる譯には行かないやうになりました。私共は出來る丈け率直に敎頭の先生まで打ち明けました。私は卒業するまでしばらくの間敎頭の先生のお宅にゐて起き臥ししてゐましたので可なりに話の分つてゐる人だとも信じましたので――處が私共のそのまじめな行爲は認められないで却つて一層誤解されて事は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

更らに面倒になりました。男は斷然學校を辭してしまひましたもう一人の先生もおなじ行動をとると云つてゐらしたのですがその先生はいろ〳〵な事情でお止めにならなかつたのです。その先生は私の在學中の擔任の先生でした。

男は家に對して責任の多い體でした。母と妹を養はねばならない人でした。勿論財産といふ程のものもないのです。直ぐに生活にさしつかへるのです。その苦しいなかにゐて私はたゞその事件の解決を待つたのです。けれども六月になつても七月になつても駄目なのです。七月の末になつて私は仕方がありませんから自身かへつて解決して來やうと思つてまた歸つたのです。歸ると私はその日からいろ〳〵なものでひし〳〵と縛られ責められてのがれる道もないのです。私はたゞ「眞」といふ一を味方にしていろ〳〵な試みを目を瞑つて受けました。けれども後から〳〵といろんなものに逐はれて私は極度に疲れてしまつて體さへ健康を害してしまつたのです。而も周圍の者は倘慘酷に肉身の恩愛や義理人情など云ふものでひし〳〵と責めるのです。私は幾度か絶望に絶望を重ねて死を決心しました。けれどもその度にたつた一つの私の愛はなを深く〳〵心の奥に喰ひ入つて力強い執着となつて、私のすべてを支配するやうな事になつて來て苦しみ悶えながら死ねないのです。私は到底たゞでは打ち勝てないと思ひましたのでとう〳〵周圍

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を欺いて安神させて油斷を見て再び上京しました。去年の十一月なのです。そして今度はしばらく國の方へはたよりをせずにゐました。然し事件は私が再度の家出後直ぐに解決したそうです此の間父から知せてよこしました。それでやう〳〵國ともたよりをし合ふやうになつたので御座います。

中央新聞で書いた事は全く事實と相違の點が御座いますが私がいまその男と同棲してゐる事は事實なので御座います。私共は去年と今年とづいぶんひどい目にも會ひました。今でもあひつゞけてゐます。然しそうした周圍の事情が一層私共の結合を固くしていま私共は離れる事の出來ないものなので御座います。(私は眞面目にお話してゐるのですがもしあなたに御不快を與へるやうな失禮な書き方ではないかと氣がつきました。もしさうでしたら御許し下さいまし)それで實は、私はあなたの最初のお手紙を拜見しました時に大變困つたのです。それであなたに對しては如何かと存じましたがとにかく男にあなたのお手紙を示して相談致しました。そしますと男は私より以上に、よくあなたを存じて居りました。勿論あなたのお書きになるものを透してですけれども――そしてあなたが大變眞面目な方であるらしいと云ふ事やそれからいろ〳〵その他自分で知つてゐる丈けの事を並べて私に說明してくれてすぐに御返事を書くやうにとすゝめてくれました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

それでとにかくお目にかかつた上ですべてお話しやうと存じましたのです。そして私はあなたが私の思つたやうに眞面目な方であつたら私の話をさう氣持ち惡くしてお聞きになるやうな事はあるまいと思ふので御座いました。

私は今日のあなたのお手紙を拜見して何故お目に懸つたらうと云ふ事をしみ〲と思ひました。でももしあなたがお許しになるならば私はこのまゝ意味もなくお別れするよりも親しいお友達として御交りして頂き度いと思ひます。そうしてその上にもなを御許し下されば私の半身である男にもお合ひ下さればどんなに幸でせう。

私は今日のあなたのお手紙の一字一句をも深い理解と同情をもつて悉くうけ入れる事が出來る力強さを持つて居ります。自信が御座います。それだけにまた苦しう御座います。

私は何だか犯すべからざる他人の心をみだりに犯したといふその罪が私には脊負ひきれぬ程の罪に思えてなりません。私はあなたがどんなにお怒りになつてもどうお詫びしていゝか分りません。

それからエレン、ケイの飜譯のこと、勿論私の極くまづしい語學の力で完成する筈はありません。たしかに男の力によるのです。私も出來得る丈け勉強して他人の力などに依らず自分で出來るやうにしたいと心懸けて勉強してゐます。私は決してそれをかくした

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

り僞つたりはしません。私の力の足りない間はそれも仕方がありません。私はどなたかいけないとでも仰云れば自分一人で出來るまでは決して致しません。あゝいふ六ケしい飜譯の私に出來ないといふ事はたぶんどなたも御承知だらうと存じます。

生田先生はよくそんなやうな事にばかり注意してゐらつしやると見えますね、新年號の中央公論に平塚さんの書いた新しい女といふのも實は私が平塚さんに話して上げた事があるのだと云ふやうな事を仰云つたといふ事もいつか一寸他で聞きました。

矢張り、私が力以上に出すぎるのがいけないので御座いませう、私も本當に何にも分らない何にも知らないくせに靑鞜に書いたりするのは僭越だとは知つてゐますがあゝして内部にゐて編輯の手傳ひなんかしますと原稿が足りなかつたりして餘儀なく幼稚な事も生意氣な事も書いては笑はれなければならないのです、私も實はこの頃何にも書き度くないのです。自分でもそれをさほど苦しいとは存じません。もう少し語學でも勉強して素養を深くして何か實のあるものをつかみ得るまではこれから頑固にだまつてゐやうと思ひます。

つまらない事を長く書きました。何卒御許し下さい。私はすべて申あげる事だけは申上げてしまひましたから私がこれだけの事を申後れたといふ事をお詫びいたしますと同時

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

にすべてはあなたのまじめな判斷をお待ちいたします。

――六月二十四日――

書いてしまつて私はもう一度よみ返しました、可なり落ちつかないイラ〳〵して書いたあとが見えるのではづかしくなりました。と云つてこれ丈けのものを再び書き直すといふ勇氣はありません。私は出さうか出すまいかと、いくども思ひました。然しまあに一度見せやうと思つて封筒に入れて表を書いて、わざと封をしずにホッと息をつきました。

少し落ち付いて來ますと其處に廣がつた木村氏の手紙の終りの方の生田長江氏と云ふ文字が目に入ると、私は譯もなく腹立たしい氣になりました。先生はどの方が何にも私のやうな小娘を相手にとつて、そんな事を仰云るなんて馬鹿々々しくて、本當でないやうな氣もしました。けれどもまさか、何でもないのに、そんな事を木村さんがお書きになる筈もないしそれに、いつかの平塚さんの「新らしい女」の事だつて紅吉のいふ事だからと本當にもしなかつたけれども矢張り本當なのかもしれないと思ふと、何かなしに、生田先生のそんなことを好んで他に對して口になさるらしいところが可笑しくもなつて來ました。それと一緒に誰にでもお調子のいゝ、あの先生の態度やなんか考へて何だか先生といつて相

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

當の尊敬を拂つてゐたのが馬鹿々々しくもなつて來ました。そんな事を思つてゐますと、又、木村氏から次のやうな手紙がまゐりました。

伊藤野枝様

前便の手紙を書き終えましてから少し疲れて私は今一寸銀座を散歩して來た處です。私は今あなたの事を思ひ浮べつゝ歩きました。でやはりこの事を申し上げやうといふ決心をして歸りました。實は私は何れあなたの手を執りたいとしてゐるのです。あなたが眞に私とおなじ眞理を見てゐる方ならあなたがさう云ふ眞理を見てゐてその爲め敬虔に自己を捧げようとなすつてお出なさる方ならその眞理とはもとより自己を離れて自分以外に存するものではありません、さうして一切の感情も意志もみな必然に自己の理性が認めて眞とする處に等しく注いで行かれるものでなければなりません。研究とはなんでせう、勉强とは何でせう凡てが生活である事を豫想します、生活の上にたつ事を豫想します。生活は凡ての研究を妨げません、只それは深めます助長します若し研究の妨げとなる生活があれば戀愛があれば結婚があればすべては皆それらは虛僞です。眞にその人を生かすものではありません。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あなたは自分が避け度いとしても避け得ない一種の力を御存じですか、それは自然の力です。その自然の不可抗の力に全力でぶつかる處にその人の生活が生れます、眞の生活が生れます、僕は今その力に面してゐる事を感じます、そうして自身に對する最良の解決が自身の手中にある事を感じます、あなたに私が自身を知らせたく願ふのはそのためです。そのために不かなりません。

私には近くにあなたにお目に懸り度いといふ氣が頻りにします。

私は自分を露骨に直接にあなたに接觸させ過ぎるかも知れません、大變失禮な事を申してゐるのかも知れません。併し私にかう云ふ凡てを云はせるものはあなたです私の心の中のあなたが何でも構はずに話していゝといはれるやうに私には思はれるのです。

私がさつきあなたに何にも求めぬと書いたのは自分を僞つてゐたのだらうかと今反省しましたがそれは僞りではありませんでした。私はたゞあなたが私をよく知られた時の結果を知り度く思つて且つその結果にある期待を持つてゐる丈けなのです。

そのうちいつかまたお會ひする事が出來れば大變嬉しいと思ひます。

——二十三日夜——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私はこの手紙をよんでしまつた時に、もうどうしていゝのか分らなくなつてしまひました。何だか恐ろしくなりました。寸時もだまつてゐられないやうな氣がし出しました。向から遠慮もなくぐん〳〵私の生活の中におしよせて來るやうな氣がし出したのです。眞面目な或る力がだん〳〵私の周圍をとりまくやうに思はれて、其處にでもゐたら飛ひつき度いやうな、何かに逐はれてゐるやうな壓されてゐるやうな氣持になつて、耐らなくなりましたので私の書いた返事も木村氏からの手紙も机の上に投り出したまゝ外に飛び出しましたけれども何かしら私の息をもつがせないやうな氣分が後から逐つて來るやうで、私はむちやくちやに歩いて小母さんの處に行きました。小母さんは折惡しく出掛けやうとする處でした。でも可なり長い間話して、一緒に出て歸りかけました。私はあの畦の道をとてもまつすぐには歸れませんでした。

林の中にはいつて暫く歩いてゐますと、足どりがやゝゆつくりなるにつれて、昂つてゐた心も落ち着いて來ました。そして木村氏はあの私の返事に對してどう云ふ態度をとるだらうと云ふ事を考へました。そして、私の返事を書いてゐる時の慌だしい氣持を思ひ出して幾分あの落ちつきのない返事は、私の態度の明瞭を缺いてはゐないかと云ふ不安も起つて來ました。そう思ふと、私はまたせか〳〵歩き出したのです墓地に出た頃、私は、フラ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

〳〵する自分の心持ちが可笑しくなつて來ました。けれども今頃、もうが歸つてゐるだらうと思ひますと、何だか悲しくなつてしまひました。私は靜かな墓地を歩きながら、それからそれへと考へてゐると、何が何だか分らなくなつてしまひました。たつた一度あつた人、そして私には別に何の深い印象も與へなかつた人が不意に、思ひがけなく嵐のやうに襲つて來て、私の平らな生活を、擾き亂しはじめたといふ事が何の、いはれもないいたづらをされるやうにも思へて、腹立たしくもなりました。それからまた、恐ろしい力強い、氣狂ひか何かにしつかりと抱きすゝめられてしまつたやうな、あがきのとれない苦しい氣もして來ました。さう考へてゐますと、私はもう苦しくなつて來て大急ぎで歩きました。家の前まで來ますと、いつものやうにジョンが飛びつきましたが、私はもう息もつまりさうなので、邪險に突きとばして、家の中に馳け込みました。

　Tはもう歸つてゐました。そして、私の書いた返事を机の前に座つて讀んでゐました。私が入ると、一寸振りむいたTの顏は、何とも云へないほど險はしい、苦しさうなものでした。私は、それを見ますと體中に漲つて出所を見つけてゐた感情が一時にグツと込み上げてきて、私は、思はずTの手からその返事を引つたくつて、しつかりその體に、抱きつきました。悲しいのか、苦しいのか恐ろしいのか何とも知れない涙が止め度もなく流れる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のです。Tは再び手紙をとり上げてよんでゐるらしいのです、けれども再び邪魔する氣もなくぢつと見上げますと、激したTの顔は恐ろしいまでにしまつてゐて、細い筋肉の微動さへ分るんですもの。胸のあたりに顔をうづめて、ぢつとしてゐますと、Tの鼓動が額に傳はつて、私の體の中に、消え込んで行くのがハッキリ分るのです。

その內、Tは讀み終りました。けれどもTも私も一口も話せないのです。双方ともだまつてゐました。暫くしてから私は紙と、鉛筆をもつて、「怒つてるんですか」と書きました。とTは「僕は何にも別に怒つてはゐない、木村氏の手紙は皆氣持がいゝ、たゞおまへの昨日の態度の明瞭でなかつたのが遺憾だ」と書きました。私は何だか責められなくともいゝ事を責められるやうな氣がして一寸嫌な氣がしました。けれども考へて見ると、矢張り、それが一番いけなかつたのだと氣がつくと何にも云へませんでした。私は、返事をもつとはつきり落ちついて書きかへやうと思ひました。Tはそれでもいゝが書くならもつと簡單に書いたらいゝだらうと注意してくれました。そしてTは再び私の返事を讀み返さうとしました。私は、とても私の目の前で廣げられるのは堪えられませんから私が臥つてからにして下さいといつて、手紙を他の所にやりました。

私は、Tと並んですはつてゐる間にいつもの男の力がグン〳〵、私の身內に流れ込むのを

感じました。私は矢張り、この人がなくて生きて行く事は出來ないのだと思ひますと、ホッとしました。すつかり疲れて、頭が重くなりましたので私は寐すみました。

翌朝私は、また築地まで行かなければなりませんでした。朝出る前には、書き直すとしても駄目だと思ひまして、包の中に昨日書いたのを包んで仕度をしてゐますと、また、追つかけるやうな、手紙が來たのです豫期しないではなかつたのですけれども何だかたまらないやうな氣がしました。

伊藤野枝様

昨日は失禮しました。實は私は三晩ばかり徹夜を續けてゐたものですから御會ひしました時は大變疲れてボンヤリしてゐました。それで昨晩御別れしてから少しくデリリヤムの氣分であなたに宛てゝ長い手紙を書きました。續けて二通かきました。そして歸宅する前途中から投函したのでしたが今氣がつきますと二通とも番地を落してをりました。ですから多分御手元へは屆かぬだらうと思ひます。今その私のゆうべの氣持をお傳へ出來ぬ事を殘念にも思ひ、また一面お目にかけずにすんでよかつたとも思つてゐます。私はあなたにお目にかゝつた事をよかつたと思つてゐます。あなたが昨日御會ひしたあ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なたであつたのを大變に喜ばしく思つてゐます。私はこれからあなたと交捗し得ずに自分が一番いゝ生き方をし得るといふ事をぞうしても想像する事が出來ません。私はこれから自分が大變な事になりさうな豫感をします、でその事はどうなつても自分のためには非常にいゝ事であるやうな豫感をします。私はぐん〴〵昨日ほんとうに自分の心に蒔かれた種子を育てます。些しも恐れずに育てます。

あなたの若しお氣が向ひたらば御序での節に汚い處ですが御立寄りなすつて下さい。至極貧しい藏書ですが何か御參考になるやうなものもあるかも知れません。昨日はほんとに何にも云ひ足りないばかりでした。私はもつと〳〵あなたに御話したい事が澤山あるやうに思つてゐます。

私は今はこの上あなたを知らうとするより自分を一層完全にあなたにお知らせしたく思つてゐます。直接に言ひます私は烈しくあなたを戀するやうになるかも知れないと思ひます。けれども私は自分自身を恃んでゐます。これから自己のゆく處凡て自身に幸福であるのみであると確かに信じてゐます。あなたはあなたの御心をどうか恐れずに自然にお育てなすつて下さい。そして私の注ぐ處のものをお受けになつて下さい。ほんとうにいゝ婦人としてそれをお受けとりなすつて下さい。どう云ふ風に私の愛をお取り扱ひ下

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さつても構ひません。たゞよくお受けなすつて下さい。それがあなたに對する私の唯一の期待なのですから。私はいつか自分があなたの手を執るべき日の事を夢見ます。あなたが私をすつかり御知りになつた日の模樣ではお話したい事は實に澤山あるのです。ですけれどもこの二三日まだ私は手の放せない事があるのでゆつくり書けません。そのうちに何れゆつくりまた御話する事が出來れば大變うれしいと思ひます今日はこれにて失禮します。

——二十四日ひる——

ズーッと目を通したのでは何の事だか分りませんでした。私の頭は何かに覆はれてしまつたやうに眞暗になつてしまひました。けれどぐずぐずもしてゐられませんのでその手紙を持つたまゝ出かけました。電車に乘つてもその事ばかり考へて壓へられるやうな氣がしました。何の爲めにこんなに苦しんでゐるのだらうと思ひますと、何だか馬鹿々々しくなつて來たり、それでも向ふの方は、本當に、一生懸命なのかも知れないと思ふと氣の毒になつたりして、矢張り、私は、私の一番はじめ會つたときにあの事に罪があるのかも知れないと、自分を責めたくなりました。私があの時に話してしまつたら、あの人は吃度こん

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

な手紙もよこさないだらう、私もこんなに苦しまないで濟んだらう、だけど私のこの返事をよんで向ふの人はどんな態度に出るだらう、もしも本當に、向ふの人が私をおもつてくれるのならもう、二度と再び會ふなんて事は云ひ出しはしないかも知れない。また、若し先の人がTとおんなじやうな熱情をもつて來てゐるのに、私がそれを理解する事が出來なかつたら吃度先の人は、自分を無智ないやしい物の分らない女と見るに違ひない、侮蔑され憐れまれるだらう。私は、Tと私の間の愛がどんなに熱烈な愛であつても他の愛を容れないと云ふ事に對して、侮蔑されたり憐れまれたりするのは嫌やだ。然し木村氏は、いくらかものが解つてゐるだけにTと私の事を包まずはなしたらまさか、それを肯定する事の出來ないほど雅量のない人でもあるまい。そうとすればTと私の間の事に就いては出來得るかぎり知つてもらつた方がいゝなどいろいろ考へました。電車を何時何處でのりかへたか降りたかも記憶しない位でした。私の頭はその事で一杯になつてゐました。

　文祥堂の二階に上つてから、――まだ哥津ちやんは來てゐませんでした――もう一度手紙を讀んで見ました。私は矢張り、木村氏の愛に幾らか動かされてゐるのだ。吃度さうだ。木村氏は矢張り、Tとおんなじに私を愛して下さるのだ。私はその愛をだまつて、知らない顔しては却け得ない。然し私は同時に、二人の人を愛するといふ事も出來ないし二人の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

愛を同時に知らない顔で受くる事も出來ない。そすれば矢張りどちらかの愛を却けなければならない。然し私は、今の處[illegible]Tとはなれて生きては行けない。矢張り木村氏を却けるより仕方がない。然し苦しい、私は矢張り木村氏に動かされてゐる。いけない〱、私はTのものだTからはなれて生きては行けないのぢやないか、だのに何故動く?そうだ、Tと、私の間の愛に對する大きな一つの試みにあつてゐるのだ。侮蔑されてもかまはない、無智だと云はれても何でもいゝあの人の愛を、出來るだけ明らかな態度で斷らう。そうだこの返事ぢや駄目だ。とそう思つては、一時もぢつとしてゐられませんのでそのまゝペンをとつてかきかけましたが、どうしても書けません。そのうちにいつもになく澤山一度に校正が出ました。私は、一生懸命にそれにとりつきました。そしてそれをすます頃には少しは落ちつけるだらうと思ひましたの、けれどやつてゐる間も落ちつけませんでした。そのうちに哥津ちやんが岩野さんと一緒にはいつて來ました。私は、いつも岩野さんとは可なりお話しますのに今日はそれもろくに出來なかつたのです。しやべつてゐても何をしやべつてゐるのやら分りませんでした。私は、こんな事で自分の頭をこんなにまで混亂させてゐる馬鹿らしさ苦しさに堪えずにそんな考へからはなれやうとしてもはなれられないのです四時か五時頃に私達三人は文祥堂を出て、一時日通つた、築他の居留地の方を歩いて矢

張り銀座に出ました。今朝出る時に持つて出た返事はまだそのまゝ包の中にはいつてゐるのです。このまゝはやく出してしまはふ出さないうちは苦しまなければならないのだからと思ひましたが矢張りそのまゝ出し度くはないのではやく歸つて書き直さなければならないと思ひ〳〵二人に別れやうとしました。今夜はうちに、Tも、ゐない筈だから丁度いゝさうしやうと思ひましたが一人になつて、また苦しむのがいやなので矢張り二人の後について歩きました。銀座をまつすぐ歩いて京橋を渡つて中通りから日本橋に出て、常盤橋から電車にのりました。水道橋で哥津ちやんに別れて春日町で岩野さんが降りておしまひになると、後はまた、私一人になつてしまひました。今日一日、何だか眞黒なものが重いものが頭を上から壓へてゐるやうで何にも他の事を考へる事が出來ませんでした。巣鴨橋で降りて山手線に乘りかへる頃から私の頭も體もまるで何かにはさまれたやうに固くなつてしまつて意識も何にも失くなつて行くやうに思えました。

やう〳〵の思ひでかへりついて室に入りますと、机の上には、また手紙が乘つてゐるのです。私はもう息がつまつてしまひさうなのでそのまゝ其處に横に倒れて目を瞑つたまゝぢつとしてゐました。二十分もたつてやつとの思ひでその手紙を開きました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

伊藤野枝様　今日私は少し苦しみ始めました　よく〳〵反省すれば僕の心の中には强くあなたを得たいといふ願ひが潜んでゐるのを知つたからなのです。私があなたにお會ひして得た印象はこれまで私の全く知らないものでした。僕はあなたに大變い丶ものの芽のある事を感じました。僕はあなたと云ふ方の愛を得るべき人を想像する時に强く震えます。その人の幸福を思ひます。けれども僕はあなたがこれから行かれる途の隨分長い先だと云ふ事がまた感ぜられます。僕はこれからあなたがシツカり周圍を見定めてゆく目を充分に養つて行かれる事を祈ります。あなたのもつてゐられる芽を何物にも蔽はれず生かして行かれる事を祈ります。

僕はこの今の自分の苦しみを甘受します。苦しくつても少しも暗くはありません。僕は制作します　あなたが心に生きてくれば生きてくる程僕は何かをしずにはゐられなくなつて來ます。兎に角僕は凡てこれから自分の堅つて行く境涯に就いてあなたがお會ひ下すつた事を感謝します。

僕ははじめからしてあなたを愛しろと何かに命ぜられてゐるやうな氣がします。僕はお手紙を頂いた時間にあなたがい丶方である事を信じました。それから事毎にその僕の確信を裏切るものがなかつたのです。寧ろ助長されるものにのみ會つたのです。

僕はあなたをまだよく知りません。が唯しかしあなたを感じます。僕はあなたに對して自分がかう云ふ思ひをかけるのが隨分輕卒ではないかといふ反省をよくします。併しさう云ふ氣持に自分がなつて行くのを自らどうもし得ないのです。僕は何もかも云ひませう。實はかう感じるのです。若しかして先々に僕にあなたの愛が得られる日があれば、さればあなたの持つてゐられるいゝもののチャアムがたゞにあなたにのみでなく僕の爲めにもいゝものになつで成長すると信じてゐるのです。その牽引は神秘です。あなたの力の中にのみあるとも思へず僕の力の中にのみあるとも元より思へません。たゞあなたは誰れか異性を愛する事に依つて一番よくそのあなたの芽をば自身のためにも成長させ得るのだといふことを自覺なすつてゐられますかその時個人と個人とが生きると共にまた人類が生きるといふ自覺をしてゐられますか。

僕は若しあなたと僕と互ひに愛し得る運命に作られてゐるものだとすれば、この僕の愛がまたあなたにも生かす力を有する事を疑ひません。若しさうでなく僕のみひとりあなたを愛して行かねばならない運命だとすれば僕にはそれでもやはりいゝのです。僕があなたに注いでゐる愛はたゞ僕ひとりのみをよく生かします。

昨日はからず大分前から心懸けてゐた絶版の「ソオニア、ユワレフスキイ」の自傳が手に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

這入りました。若しもあなたがこの本を讀みになつてゐなかつたらば私は自分のこの喜びをあなたにもお分ちしたく思ひます。少し仕事をしやうと思ひますからこれにて筆を擱きます。

——二十五日朝——

左の手でおさへてゐる額のあたり、指の下あたりから恐ろしい激しい影が動いて目がまつ〳〵らになつて、疲れた、頭がきしむやうに痛み出しました。もう私には、何にも見えません。嵐のやうに、狂ふた感情を、强ひて沈めるでもなく、夢中にペンとつて、書きました。

私は今疲れ勞れて歸つて來ました。昨朝あなたのお手紙を拜見して書いた返事を持つて今日一日迷ひました。私はあなたのその次のお手紙に對してもそれから麴町のお宿からのお手紙を今朝うけとりましても何にも書く事が出來ませんでした。昨日一日私は午前に書いた返事をもつて苦しみました。今御は可なりに疲れてゐましたがそれでも校正に行かねばなりませんでした。私はまた返事をもつて文祥堂に出掛けました。あの二階で何かもつと書いてからと思ひまして、——でも何にも書けませんでした。私の頭はあな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たの事で一ばいになつて居りました。校正もおちついては出來ませんでした。私はいくら落ちつかうと思つても駄目でした。小林さんと、岩野さんがそのうちに來ました。私は二人とお話するのさへ物憂く思はれました。それに校正は何時もより澤山出ました。私は疲れ切つて文祥堂を出ました そして今日も矢張り二人に引ぱられて一昨日歩きました處を步いて銀座に出て通りをまつ直に日本橋まで步いて其處から電車で歸つてまゐりました。歸りますと机の上にあなたの御手紙が待つてゐました。私はもうどうしていいか分りません。私はあなたのお言葉の一句々々も氣が遠くなる程の力强さを覺えますこんな眞實なそして力强い愛を語られる私は本當に幸福だとしみ〴〵思ひます。けれども私は本當に、それと同時に心からおわびしなければなりません。私の一昨日の態度――あなたに對する――それの本當に鮮明でなかつた事をおわびします。私は昨朝の手紙をかきますときたゞあはてゝ居りました。あゝ誰が――あなたの愛を却け得ませう。私は心からあなたを愛します。本當に、本當に心から――然し私は自分を僞り度くは御座いません。

また同時に他人をも欺き度くはないのです。苦しい心をおさへてあれだけ書きました。そして二信を拜見しましたときに私はもうどうしていゝか分らなくなつてしまひました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お返事の後れたのはその爲めなのです何卒あしからず御許し下さい。もう私には、何にも書けません。この上何が書けませう。すべての判斷解決はまじめなあなたにおまかせ致します。何卒々々お許し下さいまし私はあなたのいまの靜かな明るいお心持ちを少しでも搖がすといふ事を大變に情なく思ひますもう書けませんから失禮いたします。

——二十五日夜九時——

殆んど夢中でこれだけ書いた私はよみ返す苦しさに堪へないで昨日書いたのと一緒に固く封じてしまひました。

私のこの手紙は、私の今までとつて來ました、平靜を著しく逸した手紙ですが書いたときの氣持はそのまゝ出てゐるのです。前にも後にも木村氏に對してあの位烈しい熱情をもつたのはその瞬間きりでした。何を省みる暇もなかつたのです。その間にもしTが私の意識に現はれたら、私はとてもこんな手紙は書けなかつたでせう書いてもすぐに裂くかどうかしてしまつたかも知れません。

私は直ぐに臥りました。もう何にも考へたくなかつたのです。一時間ばかりはどうしても目が眠れませんでしたがそれでも何時となく眠りました。

疲れてゐましたので翌朝はかなり遲く目覺めました。今日もまた校正と思ひますとウン

ザリしてしまひました。でも今朝は手紙が來てゐないので何となくのび〳〵したやうな氣持ちでTに昨日、岩野さんと、歩いた事など話したりしました。

出掛ける時に今日は、この手紙を出してしまはうと思ひまして、持つて出ました。その時、はもう昨晩の苦しい氣持やなんか忘れたやうに、遠い〳〵事のやうに思はれました。昨夜何をかいたかもはつきりは覺えてゐませんでした。私がもし何をかいたかをはつきり覺えてゐたら決して平氣でその手紙の出せやう筈はなかつたのです。

手紙をポストに入れて、文祥堂に入りますと、小母さんが其處で電話をかけてゐました。私はホツとして、小母さんのすむのを待つて一緒に二階に上りました。昨日の校正の殘りを少しやつてゐますうちに小母さんは、何かよみはじめました。その校正がすみますと、私は考へるともなしにあの手紙が先方についた時の事をいろ〳〵考へて見ました。私は、あの後から書いた手紙にあんな激しい事を書いたと云ふ事は忘れてゐました。けれどもどういふつもりで書いたのだつたかしらと思ひましたとき一寸首を傾けなければならないのでした。それと、Tに對して、あんまり快よいものでないといふ事も覺えてゐました。すると、何だか急に不安になつて來ました。けれども私はもうその上苦しみ度くはないのでどうでもなれと思つて、つとめてさう云ふ氣分からのがれやうと致しました。本當に、あ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の手紙の返事の來るまでは恐ろしい不安がつきまとふのだと思ふといやになりました。その日は校正ははやくすみましたので勝ちやんと一緒に、あなたから注意されてゐた、出版の事について○○まで行きました。途々、一層不安を消す爲めに、木村氏の處によつて、直接、すべての解決をつけやうかとも思ひましたけれども止めて、勝ちやんのお宅にまゐりました。勝ちやんのうちでおちついてお父さんの繪を見せて頂いたりお話を伺つたりしてゐる間は、それも忘れてゐました。そして、日が暮れて、哥津ちやんと二人で神樂坂の緣日に行つて、其處から電車で歸つて來ました。

今朝出る時にも來てゐなかつたから今日はかへつてもまさかに來てはゐまいと思つてかへりますと思ひがけなく、Tから渡されて、まあよく書く人だと驚きました。それと同時に、Tとしばらくはなれてゐる間に、書かずに居られなくて、書いた、手紙の量を思ひ出して、自分の書く手紙に對して、Tの書き方が少いと、恨んだ心持ちを思ひ出して、急に木村氏に、何だかすまないやうなさびしい氣もしました。

今は十二時を過ぎました。私の心は今悄然としてあなたに注がれてゐる事を感じます。今私の前には卓に向ひ會つてゐるあなたの姿があるのです。あなたに御話してゐる氣持で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

この手紙を書かうとします。私は刻下自分の心に湧き上る思ひをかうしてあなたに宛てゝ書くほか自分の運命を開拓する方法を知りません。またさうする事より他に日々のある時間を消す方法を知りません。

私は今の自分の態度があなたに何だか豫定の行動に見えたら隨分困る事だと思ひます。初めてあなたに手紙をさしあげた時の私が痛切に何かを求める心持ちでゐた事は事實です。私は對照を求めてゐました。自分を語り得る異性の對照を求めてゐました。自分の愛を灑ぎ得る異性の對照を求めてゐました。併し私は容易く誰にでも自分を語り自分の愛を灑ぎ度くないと思つてゐました。私は自分の貴い孤獨をも出來る丈け尊重したいと思つてゐました。その私です。今あなたに宛てゝ手紙を書いてゐるものはその私です。また私はあなたに何かを強ひるやうな態度になり度くないと思つてゐます。何かをあなたに願ふやうにも乞ふやうにもまたなり度くないと思ひます。若しこの先きにどうしてもさうしなければならないやうになるのに氣着けば私はあなたを離れるでせう。さうしてひとりしてひとりしてくん〳〵さう云ふ自分の氣持を進めて行つて見るでせう。

若しもあなたと僕との關係がオオル、オア、ナッシングのものだとすれば私は非常に淋しく思ひます。相會ふか、または離れるか。さうしてその間靜かなフレンドシップの調

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

停を容れ得ぬものだとしたら大變淋しく思ひます。今日私にはその離れる方の豫感が多いのです。コワレフスキイの自傳の中にソオニアの姉がドストエフスキイの愛を退ける處があります、私はふと其處をば今朝讀みました。そのドストエフスキイの言葉にかういふのがあります。

“Anna Ivanovna, don't you understand that I loved you form the first moment I saw you, nay, before I saw you, when I read your lettero? I love you not as a friend-no, passionately with all my heart—”

勿論境涯は違ひます。私のためには男と女の結合が一人が一人を動かさうとして勉めるなぞといふ事よりももつと自然なつもりでなければならないと思へるのです。强いお互ひのラヴがないのに一人が一人の愛を乞ふといふ形式を堪へがたく思ひます。どんなに一人のその愛が强くあつても純であつても。私は手紙であなたにかうしていろ〳〵お話するのが明日にも最后になりさうな氣がすると共にいつまでそれが續くか解らぬやうな氣がします。些ともこの先きの自分の氣持の變化を豫測する事が出來ません。

私は行ける處まで行つて見ます。私を行ける處まで行かして御覽になつて下さい。

私は今可なり先日お會ひした時の話がはぐれてゐた事を感じます。私の爲めには小林さ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

んの傍にゐた事が惡かつたのです。あなたは隨分よく私に解りました。けれども私はあなたに何を語つたでせう。私があなたに語り度いのは、直接あなたに御傳へしたいのは靈魂です。自分の靈魂の言葉です、私は何れこの半月の自分の心の經過を靜かに纒つてあなたにお傳へしたいと云ふ氣があります。が今は駄目です。私はまだ少し混雜を感じてゐます。これで今晩は筆を擱きます。

——六月廿五日夜半——

讀み終りますと、私は何だか恐ろしくなつて來ました。これほどまでに銳敏に、あの人の神經が私の上に働いてゐるかと思ひますとぞつとしました。明日の朝あたりはあの手紙の返事が來るだらうと思ひますと、もう、何とも云へない氣がして、私は思はずTの傍にすりよつて息をつまらしました。何だか無茶苦茶に恐いのです、それにしても、私は、木村氏に會つたときに何にも感ずる事の出來なかつたといふのがふしぎでなりませんでした。あの時の氣持が受けさせなかつたのか、私が鈍なのか、それとも、何の期待もあの人にしなかつたのがいけなかつたのか、私はその夜床についてからも、一番はじめから私の心持や發展の樣子を考へて見ました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

翌朝目が覺めて一番に頭に浮んだのは今朝あたりに來る木村氏からの手紙でした。私は何かに逐はれてゐるやうな、捕へられて、締めつけられてゐるやうな苦しい氣持に、床の中から迎へられました。

Ｔが出て、二十分とたゝないうちに、私の期待した手紙が投げ込まれました。

御手紙只今拜見しました。元より豫想してゐた事です。併し何にも惡い事はありません。あなたにも私にもちつとも惡い事はありません。あなたが過日の會合の日に私にあの事を話さなかつたのが惡かつたと云つて御自身を責められるなら、私も先づ第一にその事を伺はなかつた自分をもまた責めなければなりません。(前便小林さんのゐた事が惡かつたと書いたのはその事です) 私は自ら此の事を自分自身に責めません。あなたも御自身に、どうか御責めなさらずに下さい。恐らく此の事の爲めに私は打擊を受けるでせう。今もう已に受けてゐます。けれども私は育ちます。心に涙を一ぱいためて育ちます。私はあなたを激動させて濟みませんでした。けれど云ひます。私は今自分の取る行動は凡て肯定しやうとします。大膽に肯定します。自分の爲めによいのは勿論他人のためにもまた善い事になるのを大膽に信じます。あなたは參つてはいけません。ぐん／＼進まね

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ばいけません。

あなたが私の手紙をその方にお見せ下すつたのを私は非常に喜びます。どうかその後の一切の經過をもすつかりお話なすつて下さい。

私のあなたに對する愛は更にこの後育つか途中で枯れるか、それとも他の愛に處をゆづつて退くか何とも自分には今解りません。御手紙には友達として云々とありましたけれど私は自分が今のこの激動をたゝえたままにあなたとその方に御會ひする事は尠くとも御互ひの幸福に資する道ではないやうに思ひますから暫くはなれて居やうと思ひます。若しも靜かに幸福に鼎座してお會ひが出來るやうになつたら無論喜んで進んでその事をお願ひしようと思ひます。若しも此の上あなたにお會ひして見て私のラヴが消し得ず助長するやうになつたら大變です。この事はどうぞ誤解をなさらずに下さい。私は今その方に非常にいゝ感じを待つてゐます。

もう後はたゞ自分自身の事のみで何もあなたにお話するべき事は無いやうに思ひます。

若しもあなた心に少しでも傷がついたらその傷を癒す力はその方の手中にあります。あなたの幸福が其處にあります。

あなたの幸福を祈ります。

――廿六日午後お手紙を拜見してすぐ――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

まあよかつたと思はずにはゐられませんでした、けれども昨夜の手紙から通して考へて見ますと、何うも何だか大變氣の毒のやうな、それで妙に悲しいさびしい氣がするのです。Tと云ふ人が傍にゐる丈けはつきりした意識には上らなかつたけれども矢張り私にも木村氏に對する戀があつたのかも知れない。きつとあつたのだと思ひますと更に何だか情ない樣な氣がし出しました。そして矢張りこのまゝ別れる事が最上の方法だと思ひました。けれども激動を堪えたまゝこのまゝ別れるとすると、私のこの最後の手紙でわづかにさうではなかつたかと氣付いた戀愛が、Tと私との間に、氣まづい事でも起つたときだとかそれからちよい〳〵頭をもたげられると云ふ事が私自身の爲に、非常に、不幸な事ではないかと思ひました。私は、さう思ひますと、どうしてももう一度木村氏に會つて、私自身の得心が行くやうな解決をつけやうと思つたのです。けれども心の激動が靜まらないうちに、會つて話が出來るかどうかと、幾度も躊躇しましたけれどもどうしてももう一度會はうと思つたのです。幾度も〳〵手紙を書いては止め止めては書きしてゐるうちに焦れつたくなつて、何を書いていゝのか何をかかうとしてゐるのか分らなくなつてしまひました。二十三日に木村氏に會つて後四日間の私の動搖は、考へて見ると腹立たしいやうな馬鹿らしいやうな氣がするのです。何といふ一人合點な男だらうと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

も思へて來ました。けれど動搖させられるだけ、まゐつてゐるのだ、よはいところがあるのだと誰かに笑はれるやうな氣もし出しました。私はもう苦しくなつて來て、いきなり、筆をとつて、

　昨日文祥堂からあの手紙を出しましてから私は一寸の間も靜かな落ち附いた氣持ちでゐる事が出來ませんでした。いま拜見しました手紙をどんな恐ろしい不安に馳られて待ちましたでせう。

木村樣、私はもうあれ以上に申あぐる何物をも持ちません。この手紙を拜見しては何にも申あげられません、けれども私は何だかたゞだまつてゐられないやうな氣が致します、けれども今私は何を申あげやうとしてゐるのでせう自分でも何だか分りません、御許し下さいまし。私はこのまゝあなたと離れて行く事が非常に哀しく思はれます、私はあなたにおあいしてからすつかり平靜を破られてしまひました。私はいま一人でぢつとしてゐられません。私はあなたにどうしてももう二度お會ひしたいと思ひます。激した私の今の心は何にもお話なんか出來ないかもしれませんけれどもどうしてもお目に懸り度く思ひます。でもそれがあなたに更らに打擊を加へるもので御座いましたらあきらめて自然の機會をまちます。あゝ私は今あなたに何を申あけやうとするのでせう。私は自分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が分らなくなりました。矢張り私が惡かつたのです。本當に何卒お許し下さいまし。昨日麹町までまゐりましたからお目に懸り度いと思ひましたけれどもあの邊は不案内でちつとも分りません――それに丁度あの手紙がお手許に屆いたと思はれる時でしたから私は直ぐに歸つてまゐりました。何だかちつとも落ちつけませんので何を書いてゐるのやら自分でも分りません。何卒よろしく御推讀下さいまし、私はもう苦しくてたまりません、もしもう一度お目にかゝる事が出來れば少しはしづめる事が出來るかと思ひます。亂筆御許し下さいまし。

――廿七日――

書いてしまうと急いで封筒の中に入れて、直ぐに投函しました。

お晝の御飯まで私はちつとも自分の氣持が何だか分りませんでした。午後になつて、私は、横になつて四時頃まで眠つてしまひました。

目が覺めると、私はとり散らした机の上を片附けながら先刻出した手紙はTに見せてからにすればよかつたと思ひました。今までにない事をしたやうな氣がして困つた事をしたと思ひますと、私はどうして、それを、Tの氣に障らないやうに話したらいゝかしらと考

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

へ込んでしまひました。どうしてあんなに急いで出してしまつたらう昨日後から書いた手紙の事もTには話してゐない、あの事も話さなければならない、Tは屹度責めるに違ひないと思ひますと、大變な罪でも犯したやうに一人で胸をさはがしました。

六時頃Tは歸つてまゐりました。私は木村氏からの手紙を見せました、Tがそれをよんでしまつてから返事を出した話を思ひ切つて話してしまはうと思ひました。けれども、いざ云はうとしますと、胸がドキッとしてつまてしまふのです。それに、何を書いたと云はれますと一寸言へませんし、あゝ見せてからにすればよかつたと幾度も思つてゐますうちに、機會を失してしまつて唐突に云ひ出すことも出來ませんので、そのまゝ他の話になつてしまつたのです、他の話をしてゐる間も私は絶えず手紙の事ばかり考へてゐました、仕方がないから、あの手紙の返事が來たら話さうとさう思つたのです。

翌朝Tはその日の夕方から南盟倶樂部にある音樂會に來るやうにと切符をおいて出かけました、私は、落ちつかない氣持ちで室を掃除したり、其處らの書物を引つぱり出したりしてゐますうちに思ひがけなくまた木村氏から手紙が來たのです。あの手紙の返事にしてははやいと思ひながら開いて見ますと、

拜啓、私は昂奮し激動しつつ書いた手紙にこの事を終らせたくないと思ひますから今靜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かな氣持でもう一度あなたに宛てゝこの紙を展べさせて頂きます。

この數日間私は實によく生きました。御手紙で拜見しますとあなたも隨分苦しまれたやうですが、私も苦しみました。實は遣りかけてゐた仕事――食ふ爲の無味な仕事――を昨日までに終つてそれからゆつくり御會ひしたく思つてゐたのでしたが、ああ云ふ譯で私は徹夜の疲れと、其の勞れから來た熱との間で、指が痛くなるほど遲らしてあつた仕事と鬪ひながら凡てあれらの手紙をあなたに書いたのでした。今日の御手紙を頂いた時も私は仕事をしてゐました。直ぐ御返事を書いてその邊を一周りして歸ると私の頭は割れるやうでした、私は仕事を放棄しました。もう今日は遣らない事にしてしまひました。さうして電氣をつけずにだんだん暗くなつて行く中でジイッとしてゐました。今この時間は私が自分のものとしてほんとに自分を生かし得る時間だと思ふと私は不思議な慰樂に勞れた心を撫でさすられる思ひがしました。それから電氣をつけて私はまたあなたの御手紙を繰り返し拜見しました。それからある尊敬する、友達に宛ててかう云ふ葉がきを書きました。

「戀が終つた。ロストに終つた。この數日間僕は隨分よく生きた。毎日手紙を書きつづけた。それで今日その返事が來た、その返事で以て僕の運命が定まつた。がしかし僕は大

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

きなものを得た。僕は女の眞實を得た。僕はちつとも今苦しくはない。といふのは嘘であるかも知れない。苦しい、苦しい。けれども僕には、その苦しさを蔽ふ力と明るさがある。僕の心の底の底には凡てのものを癒す敬虔な眞實な涙がある。僕は今自身に實にいい生き方の出來るのを感謝してゐる。」今これを書いてゐる時、窓の外には眞黒な八ッ手の葉の上を風が渡つて、その風が私を蘇らすやうにして頰に觸れます。さうです、私は蘇る思ひです。あなたと、あなたの方とそれから私と、この三人の關係が今私にはハッキリと解るのです。今の私の氣持は前便の手紙を書いた私とはかなり違つてゐます。私のあなたに懷いたラヴはもう消えました。この數日間あはたゞしい激越な短命な生き方をしたラヴはもう終りました。それといふのに私は尙ほそれを生かすより、このまゝ消えて行かした方が更によりよく自分を生かし得る道を悟つたからです。私はアルトルイズムとイゴイズムとが完全に一致する事を信じてゐる一人です。ある友達がいつた通りにさう云ふ思想が世界の基督以來の最大な思想であるのを信じやうとする一人です。この信念が今私には自身のラヴを終らしめよと命ずるのです。私はこの自分ほど自己に對して恭敬なものはあるまいと信じてゐます。私は前の手紙であなたにある不安を殘しはしなかつたかと今掛念します。物を愼

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

重にいはなかつたのを後悔します、私は今はあなたに對して靜かな尊敬と友情の外何物も感じてはをりません。ラヴからかう云ふ友情へ私の心はこの數時間のうちに至極自然な推移をしました。特にこの事は申して置きます。それは不自然な、セルフ、サクリファイスのためでもなんでもありません。少しもフォオスドされたものではありません。私の爲めにはかうしてあなたを知つたのは前とは違つた意味に於ての喜びです。あなたと私とふたりはいゝ道を通りました。またお會ひしてこの友情を續ける機會も至極自然に近く來るやうな氣がしてゐます。なんにも故意に避けてはいけないと思ひます。——自分自身をさへ信じて居れば。

御手紙の模樣で拜見しまして、あなたの近い過去に就いては讀む私も苦しいやうな同情を懷きました。あなたはこれからも隨分艱難な道を進んで行かれる事であらうと想像されます。私も過去には暗い艱難の途を通つてこゝまで辿り着いたものです。これから先にも尚一層の艱苦を想望してゐるものです。お互ひに未來と自己とを信ずる力を失ひ度くないと思ひます。

しみ〲として底から力の湧くのが感じられる夜です。この苦しい、併し人類の生活を祝福させずには措かれないやうな力が心の底から湧き上つて來るのを感じさせる夜で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

す。私はかう云ふ力を凡ての人類が感じる時は何れ確かに來る事を信じてゐます。その時地上は幸福に滿ちて世界が光り輝きます。私はそれを想望する時心に涙が湧き上ります。私はさう云ふ世界の來る事を早める爲めに、十字架を脊負つて生きたいとして居ります。

隨分いろ〱の事をあなたには申しました。私はあなたが深い理解と同情で私を過して下さるといはれた言葉を力强く思つてゐます。私はこの短かいあなたとのラヴに生き得た自己を決して不幸だとは思ひません。――特にあの最後の原稿紙に書かれた御手紙に接することを得た私は。――私は自分を祝福します。凡てのものを祝福します。今自分が幸福ですから、凡ての人を幸福であらせたく思ひます。切にあなたを幸福であらせたく思ひます。あなたが幸福でなければ私も幸福になり得ないのを感じます。これは安價なオルド、ファッションド、センチメントではありません。凡ての人類に對して私が今懷く愛です。唯一の私の齊く眞善美の源の力です。

いつまで書いても限りはなさゝうに思はれますからこれで筆を擱きます。

あなたは何より自分で自分を信じさせる力を私に試みさせて下さいました。私はあなたにお會ひしたゝめ、血から肉から自分が一層純に新になつたのを感じます。私はこれか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らまた更に新らしい人生の途に上らうと思ひます。

生田氏の事に就いては同感です。今の日本の文壇の人達は大概下らないモッブです。僕等の仕事は多くの日本の文士や友達の下らなさに愛想をつかしてゐる事が第一の出發點です。もうこの頃では今の僕等の同人以外の二三の人を除いては目にすらも這入つて來ません。さう云ふ反感を抱く事さへ馬鹿らしくなつてゐます。僕等の仕事は大變な仕事です。精神的の日本を造り上げることです。日本を世界的にする事です。そうして全人類を生かすことです。僕等が一生懸つて出來るか出來ないか知れない事です。けれども自己を眞實に生かせば、必ず出來るといふ事を信じて、その爲めに全力を擧げやうとしてゐるのです。僕等はみんな悲壯な感を抱いてゐます。みんな殺氣を含んでゐます。歷々として戰ひの勝算を數へてゐます。

あなたもシッカリと周圍を見定めて御ゐでになる事を祈ります。

あなたの方に對する手紙を同封します。それには凡ての經過をあなたがその方に御話し下すつた事と豫想した上で書きます。ではこれで失禮します。——二十六日夜半——

拜啓　未知の私からして、あなたにこの度の一切の事をお詫び申上げます。私は私の手

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

紙と、それから野枝さんの理解を透した經過のいきさつに依つて私があなたにもまた理解して頂ける事を信じやうと致してをります。さうしてあなたが最初から私を信じて居て下すつた事を此上なく感謝致します。今私には私かにあなたの信認に背かなかつたと云ふだけの自信があります。野枝さんと私とはこの數日間自由な眞實な接觸を致しました。さうしてよくお互ひの境涯をすつかり領解し合ひました。私は常に正直であり度いと思つてゐます。偉大なる正直になりたいとする事は私が畢生の冀求とした願望とするところであります。私はシンシアリテイを自己の最大の寶にしたく思つて居ります。いつかあなたと自然にお會ひする時が來るかも知れません。私はその時少しも蔭を伴はずしてお會ひが出來る事を期します。ほんとにあなたには私は非常な感謝を致します。

——六月廿六日夜——

から云ふ二通の手紙が入つて居りました。よんで行くうちに私もしんみりした靜かな氣持にされました。そして木村と云ふ人が本當に尊敬すべき眞率な人として、一層なだらかな調子でもつて、私の心に印せられて行くやうに覺えました。事件の幕切れが非常に心持のいゝものに思えました。人格の力と云ふ事もしみぐ\思ひました。私の心は大變明るく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

晴れかゝつて來ました。けれどもふとやゝなごんだ私の心に黑い小さなかたまりが浮んで來ました。昨日の手紙です。もうこの手紙で見れば私は、木村氏にお會ひする必要はない、と同時にあの手紙も不必要になる譯だ。私はすぐにあの手紙の趣きの取り消しを書かうとさう思ひましてペンをとりましたがふとあの昨日の手紙を書いたときのはげしいむらだつた感情を思ひ起こして、もしやあの手紙にあの荒れた感情がそのまゝ出てゐたとすれば、再び私は木村氏のこの手紙を書かれた平靜を破るやうな事をしはしなかつたらうか、と云ふ懸念が出て來ますと、私の握つたペンは動かなくなつて來ました。もしさうとすれば私ははなを大急ぎでそのとり消しを書かねばならないそしてあのときの心持をも說明しなければならないでなければどんな不快な第二の幕が開かうもしれないとあせり出しますと、もう駄目です。頭はみるく混雜して來て、どうしやうもないのです。今頃は私の手紙がもうついてゐるかも知れない、さうとすればもう手後れかもしれない、あゝしやうかこう書かうかと焦れたあげく、仕方がないからあの返事をまつてそれから後に、辯明しやう、そうすればTにも一緒に話が出來ると思ひまして、そのまゝペンは措きましたが矢張り不安でならないのです。

何時もく心に、暗く覆ひかぶさつて來るのはTが何と云ふたらうと云ふ事です。たとへ話

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

すにしても話すまで心に、しまつて、かくしておいたと云ふ事について、また、かくしてゐなければならないやうな私の氣持について乾度ある消し難い不快さ、侮蔑の念を持たれるだらうと云ふ事が氣になつてならないのです。私は皆が晝寢してゐる間も机の前にたつたりすはつたりして、自分のおびえたやうな氣持を、もてあつかつてゐました。Tにあのたまらない暗いかほをされる氣持を思ひ出しては、すつかりその氣持になつて涙を流しました。考へてゐますとどうにもしやうがなくて、私はとても其處にぢつと座つてゐられませんので音樂會の切符が三枚おいてあつたので小母さんでも一緒に誘つて行かうと、思ひまして一枚をおつねちやんに渡して後で事務所まで來るやうにさう云つて四時頃、出かけました。でも何だか歩くのさへいやなので駒込から山手線で巣鴨まで行つて五時過ぎ頃に小母さんとおつねちやんと三人で出掛けました。

會場には私共の方が早かつたのでTとは一緒になれませんでした。音樂を聞いてゐる間も矢張り例の事が頭に絶えず浮んで來て、それにいゝ曲が澤山あつたのですがなんだかピアノラでは、呆氣ないやうな氣がしますし、そこら中がざわ〳〵してゐて得意らしく歩きまはつてゐる女たちの輕薄な見え透くやうな街氣澤山の容子がぢつとして見てゐらないやうな。ウンザリしてしまつて、ちつとも面白くありませんでした。こんなのなら來るんじ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

やなかつたと幾度も思ひました。そして小母さんをわざ〳〵引つぱつて來たのが氣の毒になつてしまひました。會場を後れて出ますと、淺草の方に歸つて行くTのお友達のSさんが待つてゐました。私はなるべく不快な思ひを消すことにつとめて、一つ二つ冗談を云つたりして皆で駿河臺下の停留場まで來ました、電車を待つてゐる間に、私はふと思ひついてTに

「あのね、あなたに木村さんからお手紙が來てゝよ」と云ひますと、Tは驚いた顏して

「僕にかい、本當に? お見せ」

「此處にあるものですかうちにありますよ」

「さうかい」

それきりに、何にも云ひませんでした。電車が來てSさんに別れて、四人で乘つて私は前の入口に立つてゐました。涼しい風が寒いほど顏に當りました。乘客がだん〳〵へつて行くにつれて、後の方から乘つたTが前の方に來ました。その顏見ますと、また不愉快な思ひが湧き上つて來て、何とも云へないのです。席がすいても私はどうしても正面を向いてTとならんで腰をかける事が出來ないのです。巣鴨で下りてぼこ〳〵した、眞暗な岩崎の塀にそうた道を歩きながら私はもうおつねちやんがゐなかつたら、泣き出したかも知

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れません。おつねちやんが急いで歩けないと知つてゐながらも急いで歩かねばたまらないほど苦しくなりました。

うちに歸りついた頃にはTは、私が氣持ち惡がつてゐる事を知つてゐました。私は自分がさうしてゐる事がTに不快を與へるものだといふ事を充分承知してゐながら氣をとり直すことが出來ないのです。Tもおもしろくなさゝうな顏をしはじめました、私は、大急ぎで床の中にはいりました。けれども眠れませんそのうちに、Tは手紙をよんでしまつて、何かぐずぐずいつまでも書くかよむかしてゐるやうでした。暫くしてTは、

「お前は私に見せない手紙を木村さんに出したね」と詰るやうに云ひました。

「えゝ」

「何故僕に見せない、どんな事を書いたんだ」

「だつてあのほらあなたに見せた手紙ねあれを出すときに、少し原稿用紙に書き添へて出したの、だからあなたに見せるひまがなかつたんです。」

「何書いたんだい」

「別に何にも書きませんわ、何だか忘れてしまつたわ」

「自分の書いた手紙を忘れる奴があるもんか」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「だつて忘れたんですもの本當に」

「その他にはもう書かないかい」

「えゝ書かないわ」

「本當かい」

「えゝ本當、」

「さう」

「書いてよ、もう一つ」

「嘘だらう」

「嘘じやないわ」

「本當かい」

「えゝ」

「何書いたの」

「何にも書かない」

「何にも書かないつてあるもんか」

「本當云へばね嘘なのよ」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「何だ馬鹿な」
遂う〳〵誤魔化した。白狀すればよかつた。だけど第一の後の原稿紙の手紙はまつたく何の爲めに何かいたかすつかり忘れてゐた。別に何にも大した事は書かなかつたやうだと思つたきりに眠つてしまひました。

翌日は日曜日でした。私はひどく體の工合が惡いので朝から橫になつたきりで動きませんでした。

Tと私で書いた手紙を入れた袋を私が持ち出すと、いやがつて片附けろ〳〵と云つたTが此度の事件が起ると持ち出して來ては拾ひよみしたりしてゐるのを、私は私で何となくうれしい、勝ちほこつたやうな氣持ちでながめてゐました。午前に、人が來て、それとなく母のその人のうちに行つてゐる事をほのめかしながら私達が追ひ出しでもしたやうな、すべて、老人の舊いコンヴエンショナルな頭で判斷したことをそのまゝ並べたてゝ歸つて行きました。私は、腹立たしさよりも先きに可笑しくなつてしまひました。そしておつねちやんと今夜迎ひに行く事を約束して午後から二人して書いた手紙の日附を見て順々にそろへました。

木村氏からの手紙の返事を心待ちにまちましたがとう〳〵來ませんでした。私は、何だ

かその手紙の來るのが恐くてたまらないくせに矢張り待ちました。明日の朝かも知れないと思ひましたが、然しもしあの手紙が先の方に激動を與へたとすると、きつと、あの人は、すぐに手紙をよこす人にちがいない。然し最後の第二の手紙があれほど落ちついたものだつたからもう別に會ふ必要もないと思つてだまつてゐるのかもしれない。そうだとすれば大變にいゝ。とは思ひましたが矢張り安神は出來ないので御座います。

その夕方出かけやうとしますと、小母さんと、妹さんが康樂園のダリアを見に行かうと云つて來ました。で母の處に出かけるのは明日にして行かうと云つてゐる處に、昨夜のSさんが來て、一緒に行かうといふので出掛けましたがもう遲くて園内には這入れませんでした。それからいつかあなたと、田村さんと、岩野さんと私として行つた「ちまき」に行つて、それから染井に返つて、小母さん達を送りながら巣鴨まで行きまして小母さんの處で暫く遊んでそれからSさんと三人で巣鴨から山手線に乘りました。駒込でSさんに別れて私等二人は暗い道を戻つてまゐりました。

翌日Tはまた出かけなければなりません。毎朝、出掛ける際になりますと、私はひとりとり殘されるのが妙に心細いやうな氣がしてたまらないのです。殊に、月曜日の朝はいやな氣がしてなりません。Tが出て行きますと、また手紙の事を考へはじめました。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

晝近く、私は湯に入つて來やうと思つて仕度してゐますと電報が來たのです。見ると私あてなのです。びつくりして裏をかへしますと「キムラ」とあるので開いて見ますと、

「ケウゼヒキテクダサイ」

何の事だかまるで狐につまゝれたやうな話で。何故電報なんかよこしたのだらう行かうか行くまいかと、一人で當惑してしまひました。でも兎に角湯にはいつて考へて來やうと、思ひまして、出かけました。

はいつてからもどうしやうかと思ふ方が先きにたつて、おち〳〵してゐられないのです。でもどちらにしても、自分さへ確かならいゝから會はうと思ひまして湯から上るとすぐに歸つて出かけました。蛙を歩いてゐますと、めまいがしてたまらないので私は小母さんの處にかけ込みました。小母さんは四時すぎから品川に行くと云つてゐました。私は、四時頃には歸つて來てまたそれから御徒士町まで行かなければならないのだなと思ひながらも何となく氣が重くなつて來てそれに頭の工合も惡いし小母さんの處にしばらく休ましてもらつて小母さんと一緒に出かける事にしました。四時迄小母さんは近所に行つて來ると云つて出ました。私と妹さんと二人して其處に横になつて私は枕をかりて少し寢ました。四時頃に歸つて來る筈の小母さんがなか〳〵歸つて來ません。一層行かないでこのまゝう

ちに歸らうかしらとも思ひましたけれども小母さんが歸つてゐらしたので一緒に出かけました。

私は神保町で小母さんと別れて、青山行にのつて見附上で降りましたけれどもあの邊は私にはまるで不案内なのです。でもどうにかかうにか分りました。道々も私は何故電報なんかで呼びよせるのだらうと、それがふしぎで何だか大變な事でもはじまるやうな氣がしました。

導かれてお室に行きますと、留守でした。暫くして、他の女中が手紙をもつて入つて來ました。私は、出かけるから明日來いとでも云ふのかと思つて、でも分りませんから直ぐに其處で封切つて見ました。

私はあなたの處へ行きます。若しお出下すつたのなら誠に相濟みませんが少々お待ちなすつて下さい。ふたりは大變な運命の途にゐるのですから必ずお待ち下さい。直ぐ歸ります。さうしてお話します。

何でも本を御覧になつてゐて下さい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

見た處なんだか大變に急いで書いたらしいのですそして、私にはあんまり唐突で何の事だか一寸見當がつきません。何だらう、「大變な運命の途にゐる――」私にはちつとも分らないのです。馬鹿にしてゐる、といふ氣もするのです。けれども私の來方がおそいのでうちまで行つたといふ處を見るとよほどの大事かしら何だらう。だけど何時頃出掛けて行つたのかしら、何だかおそくなりさうだ、今日もお母さんの處へは行けないなどと、――いろ〳〵な事が頭にわき上つて來て、またさつきのめまいが返つて來て氣が遠くなるやうに思へました。それに風がちつともないので襟元からも額からも汗がにじみ出るのです。私はぢつと座つたまゝ原稿紙の取り散らした机の上やストリンドベルヒやゴオホの顏をながめて待ちました。三十分ばかりも待ちましたが、まだ歸つて來る氣は少しもないのです。其處に出てゐるソオニアの自傳を眺めながら若しやあの分りにくい染井の奧の方で尋ねあぐんでまご〳〵してゐられるのではないかしら、それともまた、うちに行つて、Tとでもあつて話してゐるのかしら若し會つたとすればどんな話がもち上つてゐるだらう。木村氏が私に會ひたいといふ用事は何だらう。私はもう考へあぐんでしまつて、ボンヤリしてしまひました。何の爲めに、知らない人の、室にぢつと座つてゐるのか分らなくなつてしまひました。其處に下つてゐる電燈がついてから、もう一時間以上にもならうと思はれるのですがそれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でもまだ歸つて見えないのです。私は幾度か歸つてしまはうと思ひましたが大げさな手紙の文句におどかされて矢張り氣になるのでヅキ／＼痛む頭を指先で押しながらうつむいてゐますと、また目がくらんで來るのです。私は苦しくて切なくてたまらないでもう歸らうと二度ばかり立ち上りまでしましたけれどもあと十分もすればか五分もすればかと思つてはまた座りなをしたのです。座ると此度は、Tが歸つて、何處へも今日出ない筈の私が木村氏の處へ行くと云つて出て、若し木村氏がうちへ行つたとすると、何處へ行つたのかと、思つたり、それからおそいのでぢれてゐるだらうと思ひますと、どうもぢつとしてゐられませんので、もうどうしても此度こそはと思つてゐますと、あはたゞしく階段を馳け上る音がして「あゝやつと」と思ふうちに、その人は、室に入つて來ると直ぐ頭を下げました。私も不用意に頭は下げましたがどう挨拶するかに一寸まごつきました。私は、事務所でおそくなつた事を云つて改めてお辭儀したなりに、何を話し出されるのだらうとドキ／＼しました。

木村氏は、電車を半藏門で降りて馳けて來たのでと云つて、何となしに、せか／＼した調子でした。私は、この間かなり落ち附いたらしい人だと思つたのに、わざとらしく見えるまでに落ち附かない樣子にまづ木村といふ人からズーとつきはなれた別の人のやうな氣

がしました。目前の人があの最後の手紙を書いた人とは何だか思ひにくふ御座いました。同時に私の氣持は恐ろしく引きしまつて、ズーつと、沈んでしまひました。そして、何でも伺ひませうといふやうな、豫裕のある落ちつきを取る事が出來ました。たゞ私の心の中に動いてゐるのは、先刻の手紙の中の「大變な運命の途云々」といふ言葉でした。

やがてその人は、話をはじめました。私は始終、俯向いて聞いてゐました。その調子は極く輕くて、口早やなので、まとまつたものとして、頭に入つて來ないのです。聞いてゐる時には、一々合點が行つて、よく分つたのですが、いまかうしてあなたにお話しながらその會話を思ひ出さうとしてもとぎれ〱しか思ひ出せないで、話の順序すらはつきりとは浮んで來ないのです。言葉の上では書く事と、ちつともちがつた事を云つてるのではないのですが、どう云ふものですかかなりにパッショネエトな言葉をも用ひてゐても言葉だけ私の耳に入つて、本體のパッションらしい何物も私に來ないのです。私はそれが今もどうしても分らないのです。若しかしたら先きの人の持つてゐる情熱をうける力が私にないのかそれともさういふ感受性が私のその時の氣分からずつとはなれてかくれてゐたのかもしれないと思ひますがそれにしても私はあの木村氏自身に仰云るほど强烈に情熱に炎えてゐるものなら、あゝは口に出るものではないだらうし、またどうしても云はずにゐら

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れない性の人だとしてもそれならばそれでもう少し、私の方に共鳴する何物かゞなくてはならない筈だと思ふのです。私は、餘程多血質の勝つた方でかなりに動かされ易い性質ですからなをさらの事だと思ふのです。それにお話の調子が極く輕くて、力を入れて話してお出でになる處でもそれが自然でなくて殊更にと云ふ感がはなれないのです。兎に角私の氣分がそれですつかりそれてしまつた譯なのです。お手紙で感じた時のやうに、壓しつけるやうなどつしりした力を感ずる事も出來ませんし同時に餘裕を與へないで迫つて來るやうな處も感じません。

それで、話の內容は矢張り私の最後の手紙なのです。木村氏は、その手紙の返事を出したと云ふのです。然し私の手もとにはつかないのです。その手紙に二十九日か三十日におまちしますと、云つて書いて置いたのに昨日來ないし今日も午前に來ないので電報をうつたと云ふのでやつと電報の意味が分つたのです。

私はなるべく委しく書きたいのですがどうしても時間が足りませんから、肝要な處だけを大づかみに書きます。自分で滿足の出來るまで細かく書き度いのですがさうしてゐられません。そのうちに、私はなを細かく委しく書かうと思つてゐますから——

木村氏の話によりますと、一番最後の手紙に書いた、私が木村氏からはなれて行く事が哀

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しくさびしく思はれると云ふその事を、私の思つたよりもずつと〳〵强い意味に解したのです。最も、私も木村氏に對するラヴは淡い意識にも上りましたし、手紙でかなり擾き亂されたのも事實なんですから、あゝした苦しい激動の中で書いた手紙はかなりな調子を帶びてゐたかもしれない。とすると、矢張りはじめ私の氣づかつたとほりの結果をもたらしたのです。そうとすれば矢張り私が一番惡いわけなのです。あの、手紙をもう少し手許にとめておいて、考へたらこんな事にならずにすんだのだ。だけどもあゝした場合、私としては何時もそのありのまゝを發表する習慣をつけてゐるので、書かずにはゐられなかつたのだ。そして、もし木村氏がそんな氣持ちでゐるにしてもその木村氏の返事が私の手許に工合よく屆いたら私はきつと前からの手紙についての氣持から何からすつかり書いてTにも話してそしてまた許してもらへたのかもしれない。今かうして、聞かされては、私もはじめからの話をしてもいゝけれども何となくまだ機會が來ない樣な氣がするのです。木村氏には、本當におきのどくだ。私のあの手紙を書いた心持ちは大體あの最後といふ手紙に動かされて、とにかくあのまゝあの手紙きりで終にするといふ事が本意なく思はれるのでもう一度是非會つて、話して見やう、或は一層よくすべての事が分つて、何にも殘さず別れてしまふ事が出來るかと思つたのだけれども私の木村氏に對する淡いラヴから來た一種の激動がかなり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

につよい色をあの手紙に與へたに違ひない。然しそれは、後で氣付いた事であつてその時は無意識に書いてしまつたのだ。それで、私のその手紙をよんだ木村氏の氣持ちは、私にも後で氣附いて氣遣はれた程だから充分同情が出來て、自分を責めないではゐられないけれど書いた時の氣持ちのまゝで云ふと木村氏の解し方とはまるで違つてゐる。木村氏の解し方はかなりなひとり合點だと思はれるのです。其處で私の態度の不明瞭さがあらはにわかるでせう。私はもしこれが木村氏に對する私のラヴがもつと、强かつたらもつと、はつきりした態度をとれたらうと思ふのです。けれども木村氏その人の印象はたつた一度あつたきり位で何にもないのに唯五六本の手紙によつて生れたラヴなので根づよく固められたTとのラヴにくらべますと勿論よはくて、始終Tによつておされてゐるのです。

無論、私の一面の生活はTをおいては今の處ないので、今それ丈けの事を話して、私の態度を明かに示す必要は、感じはしましたが、私はそれにしてもにTに見せなかつた二本の手紙はその內容を私が話すにしても充分には話せないし先の手紙を書いた時分の氣など今の何處をさがしても影もない程に消えたものを何をかいたのやら見當も一寸つきかねるやうなので、私は、今日、Tと、木村氏と、うちで會つて一寸話して來たと云ふ事ではあるし、明日にもTと一緒に來て、Tの前ですべてを、話した方が後でTと私の間にもきまづい思ひをす

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る事が殘らなくていゝし、その方がいゝと思つて、私はだまつて木村氏のお話を聞いてゐました。

木村氏は全然私が同氏の方につくべきものとして話してゐられるのです。兎に角木村氏の思つてゐるやうに、一緒の氣持ちで考へると成程大問題です。けれども解つてゐるやうでもまだ私をかなり安價なわからずやにねぶみして、お出になると思ふこともあつて、時々可笑しくなりました。

若しTが私の爲めに、どんな犧牲を拂つてどんなに愛してくれやうとも私の生活に何の同情もなく私の進むのを阻むやうな人だつたら、そして、木村氏が矢張り同様に私を愛してくれて、Tと一緒にゐるよりも眞に幸福に私自身の生活に向つて、思ふやうに、行けるのなら私はたとひ、Tと十年一緒に生活してゐたからといつてもどんなにTが私の爲めに高價な犧牲を拂つてくれたとしても、それからまたTからはなれる事がどんなに周圍の反感と、壓迫をうけるにしても、私は斷乎としてTからはなれる位の自信はあります。その位の事が出來なくてどうしてTと同棲してゐる事が出來ませう。

Tは私の全生活を肯定し同情しまた理解してくれます。そして一緒に、私共の道を開拓してくれます。私の全體を自分の愛で包んでくれます。ですから私は少しも不便を感

じません。強ひてTからはなれ去る必要を感じません。たとひ、木村氏が同様に或は以上に私を遇してくれるにしても今の場合私は自分がさまで必要を感じないかぎり私自身の内生活の上に、動揺を與へるやうな事をしたくはないのです。成るべく、私の小さな仕事をする上に於ても、下らない人々の問題になるやうな事をしひてしたくはないのです。けれども何れにしても、自分に對して持たれた愛を卻けるといふ事は苦しいものだと思ひました。

兎に角、一通り話を聞いた上で私は體よく今夜考へますからといふ逃げ口上で猶餘を乞ひました。何だか少し氣がとがめましたけれども——

木村氏はなをいろ／＼話してこの事件について話した友達から來たといふ手紙やはがきを出して見せました。私はそれをよんで何だが木村氏の周圍の若い人たちのさはぎが見透せるやうな氣がし出しました。そして、もうことがきまつたやうにさはいで木村氏をおだてゝゐるやうな周圍の人や、その手紙を得意らしく出して見せる人の氣持ちが無邪氣なのか人が惡いのか何だか分らないのです。そうして、またそれ等の手紙を見せて何等かの暗示を與へやうとその人に思はれる程つまらなく思はれる自分が腹立たしくなりました。この人を取りまいた大勢の人たちの噂の種になつてゐると思ひますと、いゝ氣持はし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ませんしした。好奇心に炎えてゐる――殊に他人の戀がたりに――若い人たちの話が思ひやられました。

そして、その手紙の中に白樺のM氏とかなりに青鞜社で迷惑を感じたC子氏の戀に比較されてあるのを讀んで私は嫌な氣持がした。私も此の際なのに、それ等の若い人たちの噂からうはさを生んで飛んだ違つた色を帶びたローマンスにでもなつて、また青鞜社の名でも出されては、困るといふやうな事まで考へました。

それから又以前木村氏とT氏とで、一人の女をなかに爭はれたといふ事も話して聞かされました。木村氏の處を辭したのは十時頃でした。同氏も赤坂まで行くと云つて一緒に出ました。麴町の停留場まで來て電車が來ませんので、其處で別れて私はひとりで半藏門まで歩きました。別れると私はホッとして、はやくかへつてTにこの事を話さうと思つて電車のはしるのもゝどかしい樣に思ひました。

歸ると、もう皆寢てゐました。Tだけ起きて何か書いてゐました。私が室に入る途端にチラと見たTの眼はあり〳〵とはげしい憤りに炎えてゐるのが分りました。ハッと思ふ途端に、私の全身の血はみんな逆上しはじめました。私は其處に座つて、目をすえたきり一口もきけないのです。體が硬くなつて行くのがハッキリ分るのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Tは今迄にない惡々しい眼で私を睨みつめてゐましたが、だまつて何か書いて私に放りつけました。

「おまへはヴハニティーがあるね」

私は何にも答へる事も出來ますん。續いて

「そう云ふ自覺を持つてゐないとすればおまへは自覺がないのだ」

それでもだまつてゐました。體がブル〳〵震えるのです。何の意味だかまるきり分りません。

「おまへは、今日、校正に行つたのか?」

突つた、重い、頭をひどく打つやうな聲なのです。

「眼鏡は何の爲めに掛けたのだ」

あんまりひどいと思ふと、私は我まんが出來なくて、何だつて私はこんな人に苦しめられるのだ、どうしやうと云ふのだらう。さうも〳〵氣がまはるものか。私が眼鏡を用ひたのは今日はじめての事ではなし、今は並の日には用ひなくてもすむやうにはなつたもの丶以前はそれがなくてはならなかつたのだつて知つてゐるくせに、今だつて頭の工合が惡くていけない時には使つてもゐるし、御自分からかけろと云ふ事さへあるのに、——今日

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はお湯のかへりに、あんまり目がチカ〳〵するので、またいやだからと思つてかけたのだ。それが何だらう。それに木村氏にはじめて會つた日も校正中で眼鏡のまゝでお目にかゝつたので、今日かけて會つてもそんなに變つた感を與へはしなからうと思つたのに、まあ何と云ふ事を云ふ人だと思ふと、私はもうたまらなくなつて、こんな事位にあんなにまで氣をまはしては怒つてゐる人が淺ましくなつて、この際一層の事、この人からも私は身を引いてしまはうかしら、そうすればもうこの人に此處で何にも話す必要も何もありやしない。忌々しいと思ふとたまらなくなつて　私は其處に突つ伏してしまひました。

私はさうしてゐる間にもいろ〳〵な事が一緒に頭に湧き上つて來て、自分をどうしやうもありません、こんなに私の愛に信をおかない男に何だつて私はまあ一生懸命の愛を注いだのだ。この男の私に對する愛は些細なこんな事にまで動搖するのかしら。私はもう少し寛い處のある人だと思つた。今夜のやうな時に笑つて迎へて呉れる程の雅量がこの人にはないのかしら。あゝ私は遂に矢張り一人で進むのだ。私はどんな事があつてもこの男とはなれられない事があるものか。誰が――誰があゝ私は何處までもひとりで行ける。吃度行つて見せる。あの憎らしい目は何だらう。あの目が憎らしい目が驚異にみはる程私はこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の今のあの男に對する悲憤で自分を育てゝ見せてやる。——思ひつめますさ、もう涙はとめどもなく流れるのです。私は汗ばんだ着物をぬぎすてゝ寢衣に着變へて床の上に長くなりました。そしてぢつと涙の目で男の脊後を見つめてゐますと、また、何となしにあたらしいかなしみが湧いて來るのです。今迄二人して歩いて來た道を振り返つて見ますと、はつきり見えるのです。すると、私のたつた一人の同情者、たつた一人の私のみちづれなのだもの、何があつても許しませうと云ふやうな弱い心持ちにもなるのです。

やがてTは何か書いたものを私の枕元におきました。

「私は木村といふ人に對してはなんとも思つてはゐないおまへの態度に就いて非常に不滿である、何故今日おまへは母の處に行つてくれないのか、俺が云はなくつても進んで行つてくれさうなものだ、俺はそれを望んでゐたのだ。

おまへの態度は甚だ不純だと思ふ。今夜私はおまへの眞實を聞き度い——おまへは俺に對してハツキリした態度をとつてゐない。私は不滿である」

……俺に對してハツキリした態度をとつてゐない………何だらう、私はそんなにまであの人に對して不明瞭ではない筈だと思ふと不快だがもう怒る事も出來ない程私はグツタリして疲れてしまつたのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「私は今夜疲れてゐて何にも書けません。明日まで待つて下さい。」と書きました。
「明日まで待つてはゐられない。今夜中に今直ぐ書いてくれ。」
「今日木村さんとあなたの間にどんな話があつたのです。」
私はふと思ひ出してこんな事を書きました。
「そんな事を聞いてはゐない。私は只だかきかけたものを見せた迄だ」
「私には今夜は到底書けません。かへる時にはすつかりお話する氣で急いで來ましたけれどもあなたは今心からにくらしさうに怒つてゐらつしやるのですもの私はいまのあなたに何を云つても解つては下さらないやうな氣がします。お母さんの事はすみません。はやくかへり度いと思つて大急ぎで出かけましたけれども事務所によつたのです。蛭を歩いてゐますと大變めまいがしましたので、そして四時すぎまで小母さんの處に休んで、それから小母さんと一緒に出かけました。木村さんの處へ行きますと置き手紙がしてあつて、どうしても待つてゐなければなりませんでしたから、待つてやつと七時頃木村さんは歸つて來たのです。お母さんの處へは明日まゐります。」
「母の處へは、今晩妹と二人で行つて來たからもう行く必要はない。多分明日か明後日頃歸つて來るだらう。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は上向きになつて、胸の上に手を重ねて目を瞑つてじつと今日朝からの事を考へました。Tは暫く何か書いてゐるやうでした。余程たつてTも横になりました。私は身動きもせずにゐました。Tは時々吐息をついては動いてゐました。そうしてゐるうちに、私はうとうとして、ふいと手をのばす拍子に、グイとその手をとられると、全身がブル〳〵震えました。

「お前の心が動いてゐるのなら静かに別れやうその方がいゝだらう」

息づまるやうな聲でそつと囁かれると私の全身は電氣にでもうたれたやうに手も足も胴も首もまつすぐに硬くなつてしまひました。

「いやだ！いやだ！」

と云ふ自身の聲さへ二言目には分らなくなつて、息もとまつてしまひ、意識も何も失せてしまふやうな苦しさなのです。今にも胸のあたりから押し上げて行く何かゞ頭まで行つたら頭が割れてしまひさうなのです。もう自分でそれをどう支へる事も出來ないのです。

しつかり何かにとりついて、やうやく一息ついたとき、Tのなだめる言葉がやつと耳に入りました。だん〳〵落ち着いて來て、先刻の言葉を思ひ出しますと、またしみ〴〵と新らしい涙が浮んで來るのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

翌朝私は昨夜の疲れと昨日中なやまされた頭痛に頭が上らないで晝迄寢てゐました。晝頃おきてTのかへるまでに書いて置かうと思ひまして机の前に座りまして、他のいろいろな事ばかり浮んで書けないので父の處へ手紙を書きました。それから机の上に見覺えのない繪はがきがありますので裏がへしますと昨日私の出かけた後に來たあなたの山から下すつた第一のはがきでした。あなたのそれをよんで行くうちに、何だかまつたく今迄とはなれた氣分になつてしまひました。そして繪の方を眺めてゐますと、もう、あんまり長閑なけしきなので昨日から緊張してゐた神經がゆるんでしまつて、ボンヤリしてしまひました。それからあなたに御返事を出さうと思つてはがきを出しました。

おはがきうれしく拜見。隨分待ちました。校正は廿六日にすみました。あなたからたのまれた事は廿五日に文祥堂に岩野さんが見えましたので話しました。そしてまだ質ははやく行かねばならないのに行かれないのです。今日あたり行かうと思つてゐます。雜誌がまだ出來ないので出來しだいHさんの處へお送りしやうと思つてゐます。

私もこの頃例の事件で苦しめられてゐるのです。私はどうしていゝか分らない。ずいぶん困つた事になつたのです。私は身のおき場もないやうなんです。本當に困つたことに

なりました。

此處まで書いて來ますと、急に、調子が輕くなつてなんだか他人のローマンスでもぬすんで誇張してはなしてゐるやうな氣持ちで書きました。

（中略）私の目からは今のTもKもおんなじやうに眞面目であり、そしてパッショネエトな點に於ては變らないのです、そして、TとKとが相互に理解し合つて明るい感情をもつてゐるだけ私が一番苦しい處にたつてゐます。殊にKの周圍が極端に緊張してゐるせひか、Kの感激が非常なものです。Tはたゞだまつて私を見てゐます。私はTとはなれるといふ事は非常な大變な大問題です。Kを拒む事にも努力を要します。然し解決は非常に急ぐのです。多分あなたが山からお降りになる頃は片がついてゐるでせう。

あなたの山でのすつきりした氣持のはなしをあはたゞしい心持ちで聞き度くないと思ひます。私も山へでも逃げ出し度くなりました。あの繪葉書は大變氣に入りました。閑古鳥のなくのはまだ一度も聞いた事がありません。いゝはなしを澤山に願ひます。さよなら。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

書いてしまつてから私はくり返して見てかういふ氣持ちで書いたものをTに見せ度くなかつたので大急ぎで出しに行かうと思ひましたがだるくて歩く氣になれませんので横になつたつきりで動かないでゐました。

Tはきつい顔して夕方かへつて來ました。おつねちやんとTと私と三人して御飯をたべてゐる間もTの眼はつめたく光つてゐるのです。私は幾度か目を瞑つて涙をのみました。Tの態度の他所々々しさが私はもう口惜しくて、胸が一ぱいになりました。何と云ふ冷淡さだらう。これが私の戀人なのかしらと思ひますと情なくなつてしまひました。

不味い御飯をすまして私は先刻の郵便を出して來やうと思つて、あなたにあてたはがきは手早く懷にしまつて、父に宛てたのを手に持つて出やうとしました。と、Tは何處へ出すのだととがめました。私はその手紙をTにだまつて示しますと、Tは自分の手にとつて開かうとするのです。

「何にも書いてありはしません」

と云つて私はそれをとり返して、すた〳〵臺所を通つて裏から外へ出やうとしました。下駄をはかうとしてゐる私を追ひすがつて來て手を取るや否やズル〳〵引きずり込みま

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した。私はTのその顏や仕打ちが惡らしくなつて、意地にも渡すまいとしました。けれどもとう／＼もぎと奪つて行きました。私は口惜しさと、その恨めしい仕打ちに、そこにのめつたまゝさつきから堪え／＼てゐた涙が一度に湧くやうに出て聲さへ出て來るのです。

其處からまたTに引きづられて室に入りますと、もう直ぐに昨夜とおなじ惑亂に苦しみはじめたのです。もう今にも留まりさうな息の下から漸く水を含ませてもらうとTの混雜したやうな顏が見えるやうになりました。けれども、涙はわけもなく後から後からと湧くやうに出るのです。

少し靜まりかけて來ると、Tは懷にあつたあなたへの手紙を見つけ出しました。よんでしまふといきなり、

「僕は昨日からちつとも明るい氣持ちでなんかゐないよ。僕は昨夜から苦しくつてたまらないのだ。」

と、震えを帶びた、たまらなささうな腹立聲で叩きつけるやうな言葉つきなのです。

「おい、これから木村の處へ行かう」と云ひ出すのです。

私の頭の中は何が何だか分らなくなつてしまひました。私は紙と鉛筆をとつてもらつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て、

「あなたをはなれては私は生きられない。」

と書きました。

「だからこれから木村の處へ行つてはつきりした態度を見せてこやう。」

「あしたの晩まで待つて下さい。」

「おまへの昨夜の態度はどうだつたのか。」

「私は何にも別に云ひません。殆んどだまつてゐました。そして、私はあなたに對する愛が少しも虛僞でない事を明言して來ました。

「兎に角これをよんでくれ。僕は苦しくてたまらないんだ。」

とTは白紙に鉛筆で細かく書いたものを渡しました。

「私は今非常に苦しんでゐる。もう落ちついて仕事なんぞしてゐられなくなる。私は實際昨晩位おまへに對して深い憎惡を抱いた事は恐らくあるまい。私は幾度も自分の心に湧き上つてくるあさましい嫉妬を消さうと試みた。然しそれは無駄であつた。而して必然に湧き上つて來る心持ちを如何する事も出來なかつた。私はそれに木村と云ふ人に對する第一印象があまりよくなかつた。私はあの人に深刻な靈魂の姿を認むる事が出來なかつた。私は

成るべく外形に囚はれたくないと思ひ又自分の愛を奪はうとした男だと云ふ樣な偏見から脫却して落ちついた公平な心持を抱きたいと努めた。しかし私にはあの人のなんとなくなまめかしい容子（具體的に云へば金緣の眼鏡をかけたり髮をきれいに別けたりしてゐる樣子）に少なからず反感を持つた。私はこんな事に囚はれたくないと思つたけれど、それをどうする事も出來なかつた。しかし私は木村氏が歸つてからまた手紙を出して讀んで見た。そうして私は務めて氏に對する惡感をのぞき去らうとした。又、それからすぐ手紙の續きを書かうと思つたけれどお前の歸らないうちは到底出來ない。それに書き出せば又どんな事を書くかもしれないので書かずにしまつた。私は少なくともおまへが夕方（母の處へ行く事になつてゐる。そうして妹はなんべんもそれを云つてゐた。）までには歸るだらうと思つたけれどもとう〳〵歸つて來ない。すると私は木村氏の云つた言葉を思ひ出した「野枝さんが是非お目に懸り度いと仰云つたので——」と云ふ樣な事を聞かされたことを。私はおまへが慥かにおれにだまつて書いてゐる手紙があるのだらうといふ考が起ると私は耐らない憤りを覺えずにはゐられなかつた。それに電報をかけるといふ程至急におまへに會ひたいと云ふ木村氏の態度にも了解出來ない處がある。私の頭はメチヤクチヤになつた。もう公平な判斷など出來なくなつてきた。そのうちに日は全く暮れる。妹は私に一緒に行つてくれと云ふ。

私はどうしてそんな餘裕のある氣分になれるだらう。一人で行けどどなつた。しかし妹はしきりに行きたがつてゐる。それにまた今夜行かなかつたら母はさぞ情なく心細く思ふであらうと考へると俺は傍に考へた。而して俺はもう全くおまへを己の心外に投り出さなければ何にも出來なかつた。(その苦痛を考へてくれそんなことが容易に出來るとおまへは思ひ得るか。)私はWの家へ行つて母から色々な泣言をきかされても俺の方はそれよりもつと痛切なことで一杯になつてゐるといふ腹があるので默つてきいてゐた。母がかあいさうだと思ふ他なんの氣持ちも起らなかつた。…………

俺等はかへつて來た。而してもう多分おまへが歸つてゐるだらうとそればかりを考へてゐた。そうしておまへは歸つてゐない。私は絕望のドン底に沈んでしまつた。なんにもする氣が起らない。木村氏に手紙を書く元氣もなくなつてしまつた。しかし默つて考へてゐると愈々ゐてもたつてもゐられないやうな心持ちになつたから仕方なしに仕事をはじめたのだ。おまへが歸つて來たときおまへのあの眼鏡をかけた姿を見た時俺は「女の淺薄」をまざまざと見せつけられた樣に感じた。そうしておまへが見え透いたやうな辯解をした時俺は愈々腹が立つた。そうして情なく思つた。

私は今夜のこの心持ちをあいまいに葬り去りたくなかつた。私はおまへの心が慥かに動搖してゐることを感せずにはゐられなかつた。私はおまへの心がはつきり知り度かつた。私の心には非常な決心が湧き上つて來た。私とおまへの間は絶對でなければならない。もし其處に少しでも離れて他に傾くものがあればもう少しの裕餘もない。私は立所に解決しなければ不安で不安でたまらない。私は正直におまへの心持を知り度いと思つた。おまへは俺と生活するより以上によい生き方が出來ると信ずる男があれば俺はその時おまへを止める資格はないと思ふ。そして又そのやうな氣持を始終持つて生活するの苦痛に俺は恐らく耐へられまい。私は私自からのために私を愛してくれる女を要求したのである。そうして今迄は汝が確かに俺を愛し俺と一緒によく苦しんでくれたことは私にはよくわかつてゐる。僕等の關係は常に進まなければならないと思ふ。出來得る丈相互に深く觸れ合はなければならないと思つてゐる。出來得る丈け眞實の生活を營まなければならないと思つてゐる。そして私は又考へる。若し私等三人の理解がたとへ明らかになり得た處で私等は今その樣な（即ち友人を新しくつて往來するといふやうなこと）餘裕があるだらうか。それをよく考へてみたい。こないだも一寸考へたことだが私等は今純な生活を送つてはゐない。若し私等二人限りの生活をした時に私は果しておまへを自由に手放して昨夜の樣におそく

迄おまへの外出をゆるしてすましてゐることが出來るであらうかといふ事をつくぐ考へて見た。それは今の私には到底出來さうもない。（私がもつと進んだら或は出來るかも知れないけれど、あるひは又出來ないのがほんとうなのかも知れない。）

で、私はまたおまへの事を考へて見る。おまへは家事の些細な仕事は到底自分の進んで行く道の大なる邪魔になると思ふなら、而して又子供を養育すると云ふやうな煩雜に耐え得ないと信ずるなら、又そんな事をする爲めに自分の欲してゐる生き方をさまたげられるといふ樣な念を絶えず頭に持つてゐるなら私はどうしたらよいだらう。幸ひにして母でも健康である間は家事のことはまかして置かれるけれど一端病氣にでもなつた時はおまへはどうしても家事のために自分を犧牲にしなければならない。そのときおまへは何の苦痛も矛盾もなくそれをやつて行かれるであらうか私はそんな事まで考へ初めたのだ。私は、――

………………………………………………………………

私は……といふ次に何を書かうと思つたか私は忘れてしまつた。私は又全く新しい氣持を持つて書き初めやうと思ふ。………」

讀んでる間も私はもう耐らなくなつてしまひました。すぐに鉛筆をもつて私も書きました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「私は昨日木村さんの處にゐる時から態度を明かにする事には氣がついてゐました。然し私は私の最後の――私が木村さんに書いた手紙についてはあなたに何にも云ひませんでした。それがあつたので私は私の明かな返事を木村さんに與へるに就いてもぜひあなたの前でなければならないと思つて何にも云はずにだまつてゐました。木村さんに私が書いた最後の手紙には私の方からお目に懸り度いと云ふ事も申しました。そうして私はかなりあの木村さんの心持に動かされたのです。それは本當です。その返事を一氣に書いて出して後「またあの手紙を讀み返して木村さんが本當におちついて書いてゐないと分つたとき私は大變惡い事をしたやうな感がしました。木村さんの激した心にそれがどんな心持を與へるかと靜かに考へたとき、私は恐ろしくなつたのです。幾度かその事を木村さんに書いて送らうとしましたけれども書けませんでした。たゞ頭一ぱいになるのはあなたに對して何と云つていゝかと云ふ事ばかしです。私はあなたのお留守の間机の前にすはつてその事ばかし毎日泣いてゐました。そして恐ろしい氣持ちで木村さんの返事を待ちました。その返事が來しだいにあなたにそれを見て頂いて私の書いた手紙の内容もはなしておわびしやうと思つたのです。とう〳〵返事が來ないので私は木村さんに別に何の激動も與へずにすんだ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

事と安神しました。けれども矢張りあなたに何とはなしでいゝか困つてしまひました。そのうちに昨日電報が來ましたのでどうしやうかと思ひましたけれどもあなたのおかへりまでに歸つておはなしすればよいと思て出掛けたのです。けれども小母さんのうちでねてゐたりしたのでおそくなつてしまつたのです。

七時頃木村さんが歸つて來ました。そして私ははじめて私の最後の手紙の爲めに木村さんに大變な感ちがいをされた事を覺りました。木村さんは私のその手紙を見ると直ぐに返事を出したのださうです。それに來てくれと書いておいたのに來ないので電報をうつたのだとの事です。その返事はどう〳〵私の手にはいらずじまひです。

昨夜はかなりいろ〳〵な事を云つて迫られました。けれども私は手紙で稍々感動したのとはまるで反對に相對してゐましても私の心はさう騒ぎはしませんでした。たゞ私はそれが何も彼も皆あなたと私との間の固い結合に對する試みじやないかといふやうな氣ばかり致しました。それで私は木村さんのいふ事をだまつて聞いてゐました。そして何に對しても返事は致しませんでした。唯あなたと私との愛に就いて聞かれたときそれは眞實で深い愛着があるといふ事を明言いたしました。木村さんは兩方の愛をはかりにかけたりなんかしてはいけないといふやうな事も仰云ひました。無論私はそんな事は致しません。たゞ私

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

にはどうしてもあなたと一緒に進んで行き度い、苦しい生活でもそれを續けて行きたい、もしあなたが私を理解して下さらないやうな方だつたり私の眞の生活を阻むやうな方だつたら私は木村さんに走るかもしれませんけれどもあなたは私のすべての生活を肯定し同情して下さるのですもの私はあなたと生きて行く事は充分幸福だと思つてゐます。そして私はただ友達に對するやうな敬虔な心持で木村さんには對してゐます。私はきのふ木村さんがあの位激しい感情でぶつかつて來たのに對して共鳴する何物も私になかつた事は事實です。そして私の心はあなたばかしでした。歸つて來るまで別に大して違つた氣持は持つてゐませんでしたけれどもたゞあなたが非常に私に憎惡の感を抱いて怒つてらつしやるとわかつたとき私の心は一齊に動き出したのです。そして何だか自分の氣持が分らなくなつてしまひました。

私の木村さんに對する苦しい氣持はまつたく自分でいけないのだから仕方はありませんそして何と云はれても何んでもかひまません。たゞ私はあなたにどうしていゝか分りません本當にどうしていゝか分らないのです。あなたがどうしても私を惡んでゐらつしやるのならどうとも思ふ存分にして下さい。私は體も何にもいりません。私はいまあなたからはなれて行く位なら生きてゐない方がましです。生きられません。どうにでもして下さい。

私はもう自分でも何だか分らなくなりました。木村さんの處へは今夜行つてもかまひませんけれど私はまだ激してゐますから少ししづかになつて行きませう。」

「おまへの態度はよく分つた。しかしおまへが俺に對して與へた傷は容易に癒されさうもない。又私の木村氏に對する感情も余程變つたものになつて來た。私は今靜かに公平に木村氏に對する事は覺束ない。しかし私はなるべく落ち付いて出來る丈け理解したいと思ふ。然し私は若しも木村氏が友人として交際することを許してもらいたいと云ふとき私はそれを拒みたい。今の私は其處までとても進んではゐない。强いて自分をごまかして又後になつてつまらない結果をもたらしたくない。おまへはそれをハッキリ拒絶する事が出來るか。」

「無論さうでなければなりません。それは木村さんも云つてゐた事なのです。それが耐え得られる事ではないと云ふ事は私にもよく分ります。」

「それでわかつた。私は今夜でなければ明朝早く行きたいと思ふ。出來れば今夜、しかし留守だといけないから明朝早く行かう。」

「明日午前に來てくれと云つて來ましたからあなたがさしつかへなければ行きます。」

「おまへは曾つて木村氏が何と云つてもハッキリ拒絶する勇氣があるか」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「きつとあります。」

筆をおいて、顔見合はせますと思はず輕い微笑が浮んで、しまつてゐた二人の心がゆるんでほぐれながらまつはり合つて行くやうに感じました。

翌朝目をさますと一番に私ははれぼつたい目を押へて、今日、二人の間にゐてこの解決をつけなければならない苦しさを豫想しました。

十時頃、私とTは家を出ました。行く〱も、私は今日三人で會つたときの各自の氣分の如何によつては、どんなけはしい結果を見るかも知れないとひそかに、ひとり考へてゐました。

そうしてまた割合に靜かに別れる事が出來たとしても私は木村氏に對してある幾分の感情を殘さずに別れる事は出來まいと思つたのです。けれども會つた結果は意外だつたのです。思つたよりは心殘りのないつまらない別れ方をしました。

平河町の木村氏の處へつくと、私は案外自分が平氣でゐられるのがふしぎに思はれる位でした。

Tは前夜おそくまでおきて書いたものを木村氏に渡して、

「兎に角この事件の解決は昨晩私共二人の間丈けではついたのです。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と云つて私を顧みて

「お話したらいゝだらう。」と申しました。

「そうですか」と相變らず輕い調子で答へて、Tの書いたものに目を通しはじめました。見ると、二人とも何だか私の思つた程大して昂奮もしてゐないし私共をとりまく空氣がちつとも引きしまつてゐないやうな感がして私は木村氏に會つた夜から昨晩までの續いた激しい氣分を此處で話すといふ氣分にはどうしてもなれなかつた。私はまたこないだのやうにだまつてゐました。

Tが一寸たつた後で木村氏はどう解決がついたのかと尋ねました。私は、

「矢張り、私とTとは離れることは出來ないのです。それに、一等おしまひの手紙を書いた氣持がすこしはぐれてゐましたので」と云つたまゝその氣持を話すでもなくそのまゝだまつてしまひました。

木村氏とTとがやがて話をはじめました。私は一言も云はないでだまつて聞いてゐました。Tの頭に一番重く動いてゐるのは私がTに見せなかつた二通の手紙の事です。問題の中心も矢張り其處なのです。木村氏もしきりとその手紙をTが見なければ行きちがいが起ると云ふやうなことを云つてゐるのです。そして、私には前から幾度も申ましたとほり

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に先きに書いた方——Tに見せずに——の手紙の文句などちつとも覺えてもゐませんし、第二のを書いたときの氣持とは殆んど連絡がついてゐないのです。それが木村氏の方ではちやんとあつてゐるのです。尤も、私の木村氏に對する戀は、第一のを書いたときから無意識の間に續いてゐたのかもしれません。續いてゐたのだらうと思ひます。さうすれば木村氏のその統一も連絡も間違ひはないのです。最後の責めは矢張り私にあるのです。私の態度が短かい間ながらグラ〳〵動いてゐたのによるのです。愼重を缺いてゐた事が一番惡いのです。といつて、私はさう一途に自分を責めるのも何だか可愛さうになつて來ます。けれども惡いには違いありません。

兎に角、私の手紙をTに見せる事になつて木村氏は弟の處に預けてあるのだと云ひ出しました。私は急に腹がたちました。この人の、今迄私に對する交渉は自分の物語りをつくる爲めの淺い處から出たものぢやないかと思はれ出しました。疑へば、あの顏を見てもきれいな整つた顏の何處にも苦しいとか激してゐるとかいふかげは見えない。一昨夜あれほどに自信があるらしく語りもし、迫りもした人の態度としては今の態度はあまりに空な意味のない空々しいものだ。あまりに、淡泊すぎるし御自分の周圍に對しても割合に不用意であのすべて一昨夜の會見に、むすびつけて考へると深い處から出たらしくは解せないの

です。

三人は赤坂まで行きました。途中、私はふと、前にならんで歩く二人を後から見て、木村氏の親友だといふ人の手紙の中にあつた「……そのハスと云ふ人には氣の毒だか今の處我々には何の關係もない人だ。ハスの事などは問題じやないと思ふ……」と云ふやうな亂暴な考へのない言葉を思ひ出して、とりまきの人々の、云ひさうなことだと可笑しくなつてしまひました。

一ツ木の弟さんの處には若い人たちが四五人もゐるらしい樣子でした。階下にゐた人たちが二階に上つてしまふと木村氏は私の手紙をもつて降りて來ました。その時の木村氏の顏は少しく怒氣を含んでゐるやうに見受けました。Tは第一の手紙を見て私に渡しました。私はその手紙には自分の書いた手紙ながらかなりおどろきました。こんな事書いたかしらと首傾げる程激しい文句があるのです。けれども私はそれを書くときに決してふまじめだつたのではありません。書いた事はみんなそのときの僞らない氣分をそのまゝ發表したのです。で私は

「この二通とも書いた氣持は本當です。決して虚僞ではありせまん。」と申しました。私はTが必ずこの手紙には多少怒つた氣色と見せるだらうと思ひましたがそれほどでもありま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

せんでした。

私は二人の人を前に顏を見ますとふと大きな聲出して笑ひ度いやうな、小さな聲で歌でも歌いたいやうな氣持ちになりました。一昨日からあの恐ろしい激動と惑亂の中に私を投げ込んだ大事件の結末をいまつけやうとしてゐるのだと云ふやうな引きしまつた、はりつめた氣にはどうしてもなれなくてたゞ、もうのんきな氣持ちになつて、怒氣を含んでギラ〳〵光つてゐる木村氏の目を見ても何とも感じませんし、おさへやう〳〵としてもふわ〳〵した氣持ちになつてしまふのです。

「侮蔑せずにはゐられません」と云ふ木村氏の言葉が耳に入ると私はもう少しでふき出す處でした。Tと一しよに外に出ますと急に浮いた氣持ちになつてまつすぐに體をのばして歩きました。二三町も來ますと今頃あの二階で皆でわい〳〵それこそ私等二人の上にありつたけの侮蔑と嘲笑を投げてゐるだらうと思ひますと、私は氣持のいゝほど大きな聲で反對に嘲笑してやり度いやうな氣がしました。そうして、私は木村氏に對していくらか苦しい同情を持たずにはゐられまいと思つた來るときの期待がまつたく外れてしまつて紀尾井町の邊を歩いてゐるときには、もう全く私の頭には何物もないやうになりました。割合につまらない人だと思ふ他には、たゞ、何だか四五本の手紙で譯もなく動搖した自分がは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

づかしくなつたことゝあんな手紙をわざ〳〵まじめに書いて、すつかり自分を明けひろげた事が何だか損をしたやうな氣持ちがして、どうしても私は是非この事を書かうと思つたきりです。

それで一と先づ事件は片附きました。然し私は木村氏に對しては、話して私のその時の氣分を明かにして置かねばならない必要を充分に感じながら最後まで話しませんでしたから可なりに私がお分りでないだらうと思ひますと、若しそのまゝ書かれては——事件がおしまひにならないうちから書きかけてある事は知つてゐますので——またどんな誤解がその間にあらうもしれない。殊に靑鞜社に關係ある女として一切本名を用ひて書かれるのですからどんな誤解をまねくまいものでもないと思ひましたから私はありのまゝ少しの虛僞をもまじえずにこれ丈け書いて見ました。そうして私はあなたならびに私の周圍の人々に私の行爲が一層明かにお分りになれば大變うれしいと思ひます。隨分長くかきましたけれどもこれでもまだ私自身の滿足が充分に出來るほど細かくは書けてゐません。たゞ私はかうして書いたために自分自身の中のあるものをはつきり手にとつて見る事が出來ました。そして、これを書いたために無秩序に行つて來た事に對して自身の手でとにかく、一段落のしめく〳〵りが出來る或る解釋を下す事の出來たのを喜んでゐます。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

今度、自分自身の落度と急所を手痛く自身の手であばき突く事の苦痛と、その後の清々しい氣持ちをしみぐ〵と味ふ事が出來ました。

（一九一三、七、二七、）

これは小說では御座いません。單なる事實の報告として見て頂けばよろしいのです。もう少し細かく書きたかつたのですが時日が切迫してゐて、とてもかけませんでした。他にから木村氏へあてたTの手紙を入れる筈になつていて二十五日までにそれを送つて下さる約束でしたがまだ送つてまゐりません。間に合ひませんから殘念ながら入れられません。

編輯室より

□尾竹紅吉氏がまだ本社の社員であるかのやうに思つてゐる方もあるやうですが、同氏が自分から退社を公言されたのは昨年の秋の末だつたかと思ひます。併し今日公言されたことも明日はもう忘れてゐると云つた風の方ですから其後も社の事にいくらか手を出したり口を入れたり、されたこともありはしましたが、同氏の特殊な性格を知つて居ますから社は大抵は默許して參りました。けれど今日はもう社とも、社員とも全然何の關係もありません。從つて同氏の言行に就てはもとより、同氏が周圍の誰れ彼れを問はずまき散らして歩かれた――今後も又さうして歩かれることだらうと思ひますが――社やらいてうに關することは社にとつてもらいてうにとつても誠に迷惑なものであります。或不純な感情から出てゐるものと認めますから、社としても、らいてうとしてもそれに就いて一々責任を負ふ譯には參りません。右御承知おきを願ひます。この事は他日いづれ完了される筈の一年間の讀者には自から御解りになることゝ信じますから。今日はこれ以上のことは申しませんが。又申す暇もありませんが。

□事務所へ里ッ子にして預けて置いた、蜜蜂は女王がゐないのでさう〳〵全滅してしまつた。其死骸いや蜂の事だから死骸はみんな片付て一つもないが空の巣だけを引取りに或月のよい晩に事務所へ行つた。私も一緒に。そして小母さんの下すつた金剛杖で二人で蜜蜂の箱を荷つて來た。かう云へば何でもない事なのだけれど丁度箱の大きさが赤兒のかん桶其儘なので往來の人々が目をそばだてゝ行く。その荷つて行く棒(金剛杖)までが白木ですから夜目にはどうしても夫婦で赤兒の死體を寺へはこぶのだと見るより外鑑定はつかなかつたでせう。おまけに途中で友人からもらつて來た黑ダリヤの花を手向の花のやうに一輪のせて來たのですもの。

　事務所の小母さんの庭のダリヤはあんまり水をやり過ぎた結果馬鹿げて丈が延びてもう屋根にとゞきさうです。はしごでもかけなければ花が見えない。小母さんが肥えた方の婦人なので其處の花のヒヨロ〳〵と丈ばかり高くなつてゐるのが面白いコントラストをなしてゐる。

　又新榮町のシンコが食べたくなつた。校正の時期になるとあのシンコを思ひ出す。

　歌津ちやんは中々口が惡い。私の家で畑に茄子やきうりを作つたからいまに御馳走するといつか私が御話しゝたら「うらなりぢやあなくつて」つて冷かした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

此頃やう〳〵ビロードのやうにつや〳〵した紫色のがなりだしたので茄子がなりはじめましたとお知らせしたら「うらなりでない茄子がなり初めたさうですね。今度伺つた時是非御馳走になります」とうらなりにわざ〳〵點を打つてあつた。今度歌津ちやんがいらしつたら八百屋じこみのつやのなくなつた茄子を食べてゐるお口に畑からとりたての水のたれさうな所を御馳走して羨やましがらさうと私は手ぐすね引いて待つてゐるのです。（清）

□野枝さんの書いた「動搖」に度々私も引ぱり出されて居ります。どうも木村さんに云はせると大變私がいけないことになつてゐます。ほんとに意地悪で私が野枝さんのそばをはなれないでゐた様で人ぎゝが悪くつていやになつて了います。

私はもうこれから人を見たらにげやうと思ひました。

□この頃青鞜社の編輯の者だとか、何とか云つては方々を宿つて歩いたりする女があるそうです。それは三島某と云ふ元の社員の人だとか申します。青鞜社を一々もち出してもらふのには少し恐れ入りますね。

（哥津）

□前號のエレン、ケイの戀愛と結婚譯は譯者自身で校正しなかつたため大分誤植が多かつたやうですから左に正誤いたしておきます。この譯者の原稿は讀みにくいので印刷所と校正係にいつも祟るのです。

頁	行	誤	正
125	2	暴禁欲義	禁欲主義
同	3	死んだといふには	死んだといふことには
同	5	暴禁欲主義	禁欲主義
126	10	親私力	親和力
127	5	最保なる	最深なる
同	10	不能	不純
130	6	働かない	働かさない
130	6	情的	情熱
同	51	心靈及土壤氣候	心靈的土壤及氣候
131	6	就いていたる	就いて知る
同	同	火照	火焔
132	3	戀愛は且つ結果	(三) 戀愛は其結果
同	8	一夫多頁	一夫多妻
同	11	規短	規矩
133	2	最保	最深
同	14	齊然	齋然
134	6	考案	考察
同	9	勿論だらう	勿論だから

□「戀愛と結婚」は今年中には何でも譯了したいと思つて居ます。全速力で、勉強する積りです。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

寄贈雜誌

歌舞伎	詩歌	新女界	生活
現代洋畫	サンデー	ひさみ	早稻田文學
三田文學	スバル	白樺	中央公論
藝術	アラヽギ	心の花	帝國文學
詩と劇	新潮	シバヰ	モザイク
層雲	人生と表現	婦人評論	聖盃
智仁勇	新眞婦人	藝文	新紀元
らびりんす	近代思想	清平調	六合雜誌
新人	大國民	新小説	カンナ
婦女新聞	銀笛	歡	野の聲
馬上大學	新佛教	鐵針	婦人世界
少女世界	新文林	中央公論婦人問題號	
女子文壇			

新刊紹介

心中未遂(正宗白鳥氏著)

現代傑作叢書の第一編で、心中未遂及び脚本壁の二編をあつめたものである。心中未遂は一月の中央公論にのつて、つとに評判されたもので、おす見と云ふ身持の惡い良人に別れた女が、不具の子を里へ出して、叔母の世話で茶屋奉公をすると云ふところからはじまつて、色々の路を歩いて、とゞ別れた良人のところへ逃げて行つて、

「私れ、かう思ふの。どうせ私達は運が惡いんだから、この先だつてとても樂な思ひは出來やしないよ。二人が久振りで會つたつて、朝吉やお母さんの側へ行つて皆んな揃つて暮らす譯には行かないし……また別れ〳〵になるんなら、私生きてゝも詰まらないと思つてよ」

と云ふやうなところから男に毒藥を買つて來てもらつて、死ぬ時をまつてゐるところまでの、いきさつを細かくくわしく書いてあるものでゐる。

壁は舞臺を中國の海岸にとつて、財産家のかたむきかけたる空氣を一面にたゞよはして、久吉と云ふ養子や母や久吉の友の平造と云ふ青年達の心持がよく現はしてゐる上下にわかれた、一幕二場とも云ふべき脚本である。

影と影(島村抱月氏著)

前の心中未遂と同じ傑作叢書の第二編で、劇五編小説三編及び小品五編の集まつたものである。平清盛は、清盛の愛が妓王から佛へうつて行く間を、舞臺にとつて、氏が新しく解釋された清盛をいつぱいに現はしてゐる。——現代語ですべてかかれてゐる。

運命の丘――ナポレオンを主とした三場からなる二幕物。海濱の一幕以下二つはいづれも短縮劇小品五編の中には前の短編丈け讀んでゐては氏として思ひもつかない樣な輕快な皮肉をふくんだものもある。（植竹書院發行定價五拾錢）

○女　優（七拾錢）　ツルゲネーフ作　花園兼定譯　東雲堂發行

○途　上（三拾五錢）　前田晁著　忠誠堂

○馬鈴薯の花（八拾五錢）　東雲堂

久保田柿人氏の明治四十二年から大正二年迄の短歌二百七十一首と、中村憲吉氏の明治四十一年から大正二年迄の短歌三百三十五首とを集めたるもの。

○教育と文藝（壹圓五拾錢）　株式會社啓成社

全部を五編に分ち、第一編は緒論にして明治時代の文藝と教育とを文藝屈從時代と文藝獨立時代との二章に分ちて細論し。第二編は新時代に於ける教育の主眼、第三編は西洋近代文藝の發達及其特色として各主義の勃興、其特色發達消長を論し第四編に於て文藝の社會的使命として南歐と北歐の思想を紹介し、第五編に教育と文藝の調和を說いて青年學生の近代文藝に及べり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜二週年紀念號（九月號）豫告

短歌
- 岡本かの
- 片野珠
- 青木穠
- 柴田かよ
- 岩淵百合

感想
- 上野葉
- 野上彌生
- らいてう
- 伊藤野枝

飜譯
- 瀬沼夏葉
- 伊藤野枝

小說
- 田村俊
- 小笠原貞
- 加藤籌
- 人見直
- 荒木郁
- 小林哥津

論文
- 戀愛の進化
- 婦人解放の悲劇
- 女性に於ける性的轉倒

對話
- 保持白雨

その外戯曲を岡田八千代氏と長谷川時雨氏に願つてありますから頂けるかも知れません。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

▣毎月一回一日發行
▣定價一册金貳拾五錢(郵稅壹錢五厘)
▣前金購讀料(四ヶ月分)壹圓(六ヶ月分)壹圓五拾錢(八ヶ月分)貳圓(十ヶ月分)貳圓五拾錢(一ヶ年分)參圓
▣社費は一ヶ月金參拾錢にして毎月十五日迄に納附せられたし。取纏め納付せらるゝを便宜とす。
▣廣告料(一頁)拾五圓　半頁(八圓)
▣振替貯金口座は(東京五六一四東雲堂)に拂込まれたし。
▣郵券代用は一錢切手に限る(但し一割増のこと)。
▣編輯事務、寄贈圖書雜誌、及研究會に關する事務は青鞜社へ。
▣雜誌購讀、社費拂込、廣告申込、交換廣告其他販賣に關する一切の事務は東雲堂へ。
▣原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正二年六月二十八日印刷納本
大正二年八月一日發行

東京府下巣鴨町字巣鴨一一六三
青鞜社内
編輯兼發行人　中野初

東京市京橋區新榮町二丁目廿一番地
印刷人　佐藤保太郎

東京市京橋區新榮町二丁目廿一番地
印刷所　文祥堂

禁轉載

編輯所　東京府下巣鴨町字巣鴨一一六三　青鞜社

發賣所　東京市日本橋區檜物町九番地　東雲堂書店
電話本局一八七一番
振替東京五六一四番

特價三十錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

九月一日 ■創刊雜誌■ 一號發行

すべての不平と、眞生活眞藝術に對する熱慕とは吾人をして本誌を作らしめたり。

生活と藝術

毎月一回一日發行
菊判六十四頁
定價一冊十五錢
送料一冊二錢
三ヶ月分四十五錢
六ヶ月分九十錢
一年分一圓八十錢

藝術と實生活とは別個のものでなく、兩者は渾融した同一の根底に立つ處の生命の表現でなければならぬ。從來の日本の文藝界は實生活といふものに對してあまりに不關焉の怯懦な獨斷的態度を持して來たと思ふ。文藝界及び現實生活に幾多の不平多い吾人は聊か集つてその所信と主張とを明かにしたいと思ふのである。

■短歌募集■ 土岐哀果選■

發行所 東京市日本橋區檜物町九（振替東京五六一四） 東雲堂

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らいてう著

再版印刷出來
定價金九十錢
送費金八錢

扃ある窓にて

「圓窓より」改版發行

さきに著者「圓窓より」一卷を世に出すや、風俗を害するの故を以て不幸發賣頒布禁止の厄に逢ひぬ。今、そのうちより忌避に觸れたる一篇「世の婦人達に」を割愛して、之れを世に出す、敢て自己の問題に思ひを潜むる眞實なる婦人達の熟讀を望む。

東京日本橋區檜物町九番地 **東雲堂書店** 電話本局一八七一番 振替東京五六一四番

新秋燈下に薦むる書

石井柏亭著

歐洲美術遍路

下巻 近刊

三木露風著

白き手の獵人

詩集 近刊

斑鳩詩社

マンダラ

詩集 近刊

齋藤茂吉著

赤光

歌集 近刊

國木田獨歩著

獨歩詩集

近刊

發行所 東京市日本橋區檜物町十 振替東京五六一四番 東雲堂

青鞜原稿用紙

大判と小判の二種

大判・薄き藍色刷……百枚綴

小判……朱色刷……百枚綴

定價一冊十五錢……郵税二錢

發賣所　東雲堂書店

日本橋區檜物町九
振替東京九六一四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

與謝野晶子女史序
吉井勇氏序歌

原阿佐緒著

西野義雄裝幀

小形瀟洒美本
著者小竹挿入
本文二百數十頁
歌四百首
定價六十錢

歌集

涙痕

新裝發賣

—内容—

戀と死
涙痕
孔雀峠
[illegible]
[illegible]

この涙つひにわが身を沈むべき
海となるらむを思ひのはじめ

發行所 東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四） 東雲堂

木下杢太郎畫
北原白秋著

挿畫「初夏の遊樂」
本文黑と茶との二度刷
菊判形、紺と金、紙表紙
定價金壹圓送費八錢

東京景物詩 及其他

「邪宗門」以後
第一の詩集
今や新裝成る

内容章目

東京夜曲
Ｓ組合の白痴
靑い髯檜持
雪と花火
銀座の雨

發行所 日本橋區檜物町九番地 振替貯金東京五六一四番 東雲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

久保田柿人
中村憲吉　合著

平福百穗裝幀

歌集 馬鈴薯の花

新刊發賣
四六判美本
定價金八十五錢
送費八錢

明治歌壇の急激なる推移の歴史のうちにありて、故正岡子規先生によりて僅かに開拓の緒につかれたる一つの方面があつた。三十年頃から同四五年頃にかけての頃である。我々はそれからずつと後にその方向に於て短歌に對する眼を開き得たる徒輩である。而して今も尚ほ萬葉集を尊重する徒輩である。

然しそれと同時に我々の内部には弱力ながらその發育を欲求する個性が動き、吾々の四圍には絶えず新しい思想情緒の空氣が流れてゐた。我々は其の當時々々に於ては、自分の力の最上の努力を出來るだけ之等に眞面目ならんことを欲したいと思ひつゝ短歌の道を歩むで來たのであるが、その結果からいふと自ら悲しむべきものが多い。今あまり豐かならぬ最近數年間の勞作を公にするに當つて、顧みて身の不敏をはぢ、何程のものを諸君の前に提供し得たかを自ら甚だ危ぶむものである。

發行所　東京市日本橋區檜物町九番地（振替貯金東京五六一四番）　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

故 石川啄木著
數野掠士氏序
土岐哀果氏跋

四六判三百五十頁
著者自作歌插入
函入美本
定價八十錢 郵稅八錢

啄木歌集
新刊

著者の第一歌集「一握の砂」久しく絶版となりて江湖の渇望に背くこと久し。今「悲しき玩具」と併せて啄木歌集と名づけ世に出す。蓋し數多からぬ著者の歌のすべてを網羅せるものなり。懷かしき著者の姿見なり。

發行所 東京日本橋區檜物町九番地 振替東京六五一四 東雲堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

故石川啄木著

（新裝發賣）

啄木遺稿

詩と感想

四六版四百頁美本
總洋布製著者小肖入
定價金九十錢
送料八錢

年二十、よこしまに詩集「あこがれ」一巻を以てその鬼才を稱へられ、ついで「一握の砂」「悲しき玩具」の二歌集を出して僅かにその片鱗を示し、二十七歳にして早くも世を去れる故人の變化多き生涯は知る人をして大なる暗示と、深き瞑想に入らしむ、然もその内生活に至りては未だこれを知るもの甚だ罕なり。今故人の遺稿により、明治四十二年以後の詩作と感想とを整理し、これを公にす、蓋し、本書によりて始めて故人の思想生活及人生批評家としての抱負の一端に觸るゝを得べく、人としての啄木を知る好個の資料たるべきなり。

■石川啄木略傳……文學士　金田一京助

■跋……………………土岐哀果

東京市日本橋檜物町九番地　東雲堂書店　電話本局[illegible]番　振替東京[illegible]番

東雲堂發行書目

歌集	桐の花	北原白秋	定價金壹圓
歌集	水莊記	吉井勇	定價金壹圓
歌集	別離	若山牧水	定價金七十錢
歌集	死か藝術か	若山牧水	定價金七十錢
歌集	黄昏に	土岐哀果	定價金五十錢
歌集	收穫	前田夕暮	定價金七十錢
歌集	啄木歌集	石川啄木	定價金八十錢
歌集	早春	岡稻里	定價金七十錢
歌集	かろきねたみ	岡本かの子	定價金二十五錢
英詩集	The Pilgrimage.	野口米次郎	定價金壹圓
詩集	思ひ出	北原白秋	定價金九十錢
詩集	邪宗門	北原白秋	定價金八十五錢
詩集	東京景物詩	北原白秋	定價金壹圓
詩集	白き手の獵人	三木露風	定價金壹圓
詩集	霧	河井醉茗	定價金五十五錢
詩集	路傍の花	川路柳虹	定價金五十錢
詩集	夜の葉	桑川英村	定價金六十錢
小說	青鞜小說集	青鞜社	定價金八十錢
小說	新譯梅ごよみ	鹽谷[illegible]	定價金五十錢
戯曲集	午後三時	吉井勇	定價金壹圓
戯曲集	和泉屋染物店	木下杢太郎	定價金壹圓
論集	演劇新聲	小山内薫	定價金八十錢
評傳	畫人カアペンター	石川三四郎	定價金八十錢
隨筆	扃ある窓にて	らいてう	定價金九十錢
隨筆	啄木遺稿	石川啄木	定價金九十錢
隨筆	歐洲美術遍路	石井柏亭	定價金貳圓

藝術座

會員募集

■來る九月十九日より同二十八日迄■

■十日間有樂座に於て第一回上演をなす■

第一回上演

メーテルリンク作
秋田雨雀譯
内部　一幕

メーテルリンク作
島村抱月譯
モンナヴンナ　三幕

■藝術同好者間に廣く會員を募集す■

■入會希望者は二錢郵券封入の上申■

■込まれなば規則書を送る■

（登場技藝員）

松井すま子
酒井よね子

武田正憲
倉橋仙太郎
小野登太郎
澤田正二郎
嫁野誠一
高濱徹樹
淺井房次
宮島文雄
笹本甲午

其他男女技藝員數名

東京市牛込區西五軒町清風亭内

藝術座假事務所

電話番町四五七六

「萬朝報」社長 涙香 黑岩周六先生著

予が婦人觀

三六版美本

定價六十錢

郵稅八錢

進步的にして却て稍保守的の檢束あり古きが如くして實は極めて新しき新趣味を有する黑岩先生の婦人觀はトルストイ的の絕對貞操觀に配合するに經濟的獨立の實際問題を以てし種々樣々の方面よりして斷案の片鱗を示しつゝ遂に人をして成程と承服せしむる老巧親切の文を爲す眞に現今婦人問題の燈明臺也世の年頃の娘の父母及び女子教育家の精讀を欵ふ

文學博士 村上專精先生著

▲女性訓

定價四十錢 郵稅六錢

[illegible]科學士 久津見蕨村先生著

▲現代八面鋒

定價八十錢 郵稅八錢

藤井瑞枝女史著

▲亂れ雲

定價八十錢 郵稅八錢

堺利彥先生譯

▲ルソー自傳 赤裸の人

定價九十錢 郵稅八錢

東京小石川區原町六 振替東京一五六八六 丙午出版社

東京小石川原町六 振替東京一三五三 鷄聲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第十二卷第十號・八月一日發行

每月一回
一日發行

美術新報

時價金五拾錢
郵稅金二錢

風景畫特別號

▲內容▼

歐洲の風景畫家……黒田清輝
歐洲風景畫の選擇……石井柏亭
支那風景畫の題材としての
長江……寺崎廣業
風景畫家に就て……久米桂一郎
佛蘭西近代風景畫家ジャン●
シャルル●カザン……和田英作
コローとモネ……山下新太郎
瑞典風景畫家……有島生馬
廣重に就て……長原孝太郎
オ[illegible]の風景
山……湯淺一郎
題未定……岡田三郎助
私の愛する風景畫家……白瀧幾之助
ワッツとコンスターブル
……柳敬助
英國ノルウキッチ派畫家ジョン●
セル●コットマン……森田龜之輔
隨感錄……橋本邦助
好きな風景畫家と風景……中澤弘光
ターナーの山岳畫に就て……丸山晩霞
琉球の風景と人物……石川寅治
場所の選擇……山本森之助
私の好愛する風景畫家……三宅克己
日本畫と風景……坂井犀水
本年のローヤル●アカデミー
(倫敦通信)……瀬本作次郎
夏の展覽會……小堂生
時報等……

▲繪畫▼

聖ヨハネ祭の夜(原色版)ユーヂーン●
ジャンソン筆
ウリッシュボウルムの景(同上)
ターナー筆
ヴェニス大運河(同上)クロードモネ筆
コットマン筆
風景(同上)……
東海道五十三次の內庄野
(同上)……廣重筆
前赤壁の圖(アートタイプ)寺崎廣業筆
風景(同上)……コロー筆
外網目版挿畫(五十餘圖)……

發行所 東京本郷湯島切通 畫報社 電話下谷二四八三番 振替口座一八一六番

新文林

第一卷　第九號

定價拾錢　郵稅壹錢

八月號要目

- △文壇でも屋と專門家……生方敏郎
- △旅行の趣味……近松秋江
- △あの男（評論）……小宮豐隆
- △夏の問題（俳句）……荻原井泉水
- ▲ある朝（小說）　田山花袋
- △ルツソオ……（評傳）
- △夕闇（小說）……水野仙子
- △文藝閑話　△寄贈雜誌の評
- △代表的歌人の歌　窪田空穗

▲口繪

△イレネトバイシユの「ノラ」△櫻樹の並木のヒラミツトー△ルツソオの肖像△文學者の故鄕高濱虛子氏　岩野泡鳴氏

▲文叢（投稿歡迎）

- △小說　秋聲選
- △俳句　鳴雪選
- △短歌　空穗選
- △長詩　編輯局選
- △普通文　雨書選
- △短文　編輯局選

現代小品叢書

第四編

吉江孤雁先生著

砂丘

菊半截判三百頁餘美本

價各冊卅五錢郵稅六錢

■自然はそれ自身の生命であり藝術である。其の生命と藝術を體得する時に人間の生活藝術が生じて來る。孤雁氏が得意の近作二十五篇を集めた此の「砂丘」一冊は自然の生活であり藝術である。氏が從來の作品によつて自然を味ひ得た諸卿は此の書によつて一層の理解と生命とを得られる事と信ずる。敢て諸卿に此の書を呈す。

第一編　田山花袋先生著　**椿**（三版）

第二編　正宗白鳥先生著　**青蛙**（三版）

第三編　前田晁先生著　**途上**（再版）

發行所　東京神田　本川小路　忠誠堂　振替東京二〇四三一番　電話本局四九六六番

心の花

第十七卷　八月號　第八號

日本文藝に於ける三都の持色　高安月郊
崇德上皇　志田義秀
嫂の來るまで（小說）　水上夕波
奧さんの日記　松村みね子
閑雨[illegible]　草野柴二
ともし火の下　佐佐木雪子
印度の旅にて　高楠順次郎
海のほとり　白蓮
幻の華　岩屋郎子
短歌百首　印東昌綱
短歌百首　中村文子
萬葉集講義　佐々木信綱

定價一冊金貳拾錢　六冊前金壹圓　十二冊前金二圓　共稅

東京日本橋區本石町一ノ一　竹柏會出版部

電話本局五一七一番・振替東京四三[illegible]番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

毎月一日一回發行
一冊金二十五錢
郵税金一錢五厘

斯道唯一の演劇雜誌

歌舞伎

（百五十八號八月一日發行）

六冊前金郵税共
金一圓五十錢
◎十二冊金二圓八十錢

「ギヨッツ」いよいよ佳境に入る……鷗外譯
舞臺監督といふ事……中村春雨
沙翁劇の翻譯……廣政法夫
國劇史論……伊原青々園
默阿彌著作解題……河竹新水
湊川卯月の一夜について……長谷川時雨
歌舞伎座祭典行……下町二人娘
忠臣藏二段目三段目の型　森ほのほ
七月の帝國劇場……立花靜子
帝劇の感想……本間久男
役者の告白……坂本猿冠者
活動寫眞の「ドン、キホーテ」……青山旭光
劇談會　段四郎、梅幸、幸四郎、勘右衛門、成義、防風、成子、吻平、おやせ翁
七月の芝居（青々園、春浦、）……
脚本「忌まれたる人」……佐藤惣之助

本郷湯島切通
坂町萬報社内
歌舞伎發行所
振替口座一一八一〇六番
電話下谷二四八三番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

生活

毎月一回 一日發行

八月號（第十號）

定價廿五錢 郵税二錢

本誌前號は發賣禁止のため殘本なし

前號はセザンヌの挿畫のため發賣禁止

挿畫

素描―遂に切れる……フランシスコ・ゴヤ

羊舍に於けるヨハヒム……ジョツト

惱めるキリスト……レムブラント

浴する婦人……ドーミエー

記事

二人及び兄弟（劇曲）……佐藤惣之助

自己の仕事（感想）……武者小路實篤

待たれる人（對話）……木村莊八

ボヘミヤンの歌（詩）……福士幸次郎

索引（小說）……木村莊太

消息……S. N. R. T. M.

發行所 東京市牛込區水道町九 振替東京四[illegible]七[illegible]五 日本洋畫協會出版部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■モザイク■

八月發行第十六號內容

杏子の實の落つる頃（小説）……西田長左衛門

春から夏まで（小説十六頁）……水島爾保布

生ける屍（戯曲）……林久男譯

サニン（六月號より毎號五十頁づゝ連載）……武林無想庵譯

墓地下（小説）……藤井伯民

續々「酒狂者手記」より（小説）……山本露葉

露葉の手紙（感想）……山本露葉

定價金拾錢郵税壹錢五厘・六册壹圓八十錢

東京下谷區　モザイク社　中根岸町六九

月刊美術雜誌

みづゑ

第百貳

八月三日發兌

送料共廿五錢

□南國の眞夏（水彩畫原色版）……吉田博
□風景（同）……坂本繁二郎
□眞夏の入江（同）……瀧澤靜雄
□海（同）……故 大下藤次郎
□風景（鉛筆畫寫眞版）……W. T. CHARLTON
□同　同……
□其他寫眞版數葉……

□水彩畫家に與ふ……齋藤與里
□新しい技術……中村不折
□繪畫に於ける意識……山岸光宣
□林董伯の死去されしを悼む……丸山晩霞
□[illegible]島の寫生に就いて……同
□繪畫の停止其他……後藤工志
□再び水野君に……矢代幸雄
□織田さんの藝術……藤田紫令
□英國ロイヤルアカデミー批評……石川欽一郎
□種々…御物語……鵜澤四丁
□靜湘[illegible]……小城基計

みづゑは本邦最古にして且唯一の水彩畫專門研究雜誌なり、水彩畫を描く人は勿論愛好せらるゝ諸士は一日も本誌を坐右に欠く可からず。

發行所　東京小石川區關口駒井町三　振替口座東京六九六三番　春鳥會

月刊
演劇美術雑誌

とりで

八月號
金卅錢

本欄

巴里の新精神（カアタア）……村田實
新しき劇場の方へ（クレエグ）伊豆四郎
帝劇のシイボア……伊豆四郎
土曜演奏會合評……藤吉四郎

附錄

藝術（ベルグソン）……石川戯庵
メイヨオルの紹介……高村光太郎
感想……村田實

挿畫

「水仙」の衣裳……バクスト
イブ……クレエグ

戯曲

アリアヌとバーブブリウ（メーターランク）……深甫
小さき夢（ガルスワアシイ）香川省吾
女に欺かれたる男の死……村田實
酒ぐら……逢坂恒

小說

虐殺（メーターランク）……村雲毅一
捺印……邦枝完二
不思議……芳原擁二
たそがれ……井潟清治
踊れる女……メイヨオル
衝動……田中一郎
表紙及裏繪……岡本歸一

東京麹町區富士見町二ノ卅七
とりで社

純文藝雜誌

劇と詩

第四年第八號

價廿八錢 郵税一錢

八月號

▲ストリンベルヒ論（評論） 松田四郎
▽雫（詩） 山村暮鳥
▲憂鬱（小説） 鈴木悦
▽緑陰（詩） 人見東明
▲最初の印象（翻譯） 片上伸
▽坪内先生に獻する書（感想） 清浦青鳥
▲影と形（歌） 尾上篤二郎
女優と舞臺監督（戯曲） 國枝史郎
▲露英に於ける劇場（翻譯） 村田實
巧利主義者との對話（感想） 清浦青鳥
▲三昧の前後（詩） 福田夕咲
毒藥の壺（感想） 相馬御風

附録

▲伯林演劇史（一） 島村民藏
▽近代藝術發展史（一） グレーフェ

發行所 東京市小石川[illegible] 劇と詩社
[illegible]
發賣所 [illegible] 東京堂

純詩歌雜誌

詩歌

第三年 第八號

價金貳拾五錢 郵稅壹錢五厘

八月號

■詩數篇 三木露風

■土中のうた(詩) 服部嘉香

■烟れる言葉(詩) 山村暮鳥

■譯詩 小林愛雄

■蜜蜂(翻譯) 灰野庄平

■或日より或日まで(詩) 水野葉舟

■亡靈(翻譯) 高橋泰

■印度古詩(譯詩) 增野三良

■朝(詩) 室生犀星

■涙の色の白き花(詩) 尾山篤二郎

■監獄みち(散文) 前田夕暮

▲馬鈴薯の花の歌 ▲昨日までの歌 ▲青木の陰より

短歌

佐藤嘲花　米田雄郎　廣田樂

寺井義　佐々木順　細谷明

山田邦子　清水白花　熊谷武雄

村田光烈　瀧澤謙　奥村博

矢代東村　栗田朱鳥　田村飛鳥

金子不泣　松島梧楓　狹山信乃

小野深雪　小谷清子　前田夕暮

楠田敏郎　清水白花　其他――

發賣所 東京神田錦町 東京堂

社友募集

白日社清規社復業等にて申込まれたし

發行所 東京市外西大久保 白日社

■現代の洋畫夏季特別號■

後期印象派

定價 金五十錢

木村荘八
高村光太郎
岸田劉生
■共著■

發行 八月一日

記事 挿畫

後期印象派論……リユイス●ハインド

十三章に分つて、ハインド氏は最近かくも著明になつて來た藝術運動ポストアンプレツショニズムの思想に就て、氏の意見を吐露してゐる。氏はいふ、美ではなくして表現が藝術の極致である。物の内的意實を探求して、その人の情感を節奏的に裝飾的に表現する人が藝術家である單なる表面を描寫する人は畫工である。後期印象派の創始者たるセザンヌ、ゴーホ、ゴーガンは、明快なる運動を語り、後期印象派著者及び英國に與へたる効果を記述してゐる此書に、主幅を持つてゐる

セザンヌ論……スイエル●グレーフエ
セザンヌ論……テオドル●ドユレー
セザンヌ論……チエムス●ハネカー
ゴーホ論……マイエル●グレーフエ
ポール●ゴーガン…仝
畫論……アンリー●マテイス
ロートレク……アルゼン●アレキサンドル
ゴーホとゴーガン……

原色寫眞版……八枚

自畫像……ゴオホ
陸橋……仝
サントマリエの舟…仝
風景……セザンヌ
靜物……仝
マルケサス島にてゴーガン
マルゲリトの肖像マテイス
ルルー……ロートレク

寫眞版（大小）…四十點

ゴオホ作品……十數點
セザンヌ作品……仝
ゴーガン作品……數點
マテイス作品……仝
ロートレク作品…仝

ゴーホの手翰…複寫

發行所 東京牛込區水道町九 振替東京四三七三番 日本洋畫協會出版部

八月一日發行

アララギ

第六卷 第七號

○宇治より……中村憲吉
○赤楊葉の花(短歌)……島木赤彦
○初夏の花と雨と(短歌)……平瀬参雨
○つゝじの花(短歌)……久保田ふじ
○おくれ毛(短歌)……原阿佐緒
○萬葉短歌鈔(二)……茂吉、憲吉、千樫
○「旅愁」を讀む……古泉千樫
○「涙痕」と「ふるへる花」……古泉千樫
○ウシーンの放浪(評論)……山宮允
○短歌雜論(十五)……齋藤茂吉
○七月の歌壇(評論)……千樫

短歌

民部里靜　森山汀川　上田耕平
松島橋風　清水謙一郎　柳木城四
沖雛正光　岡野幸男　藏桐軒
中原しづ子　金原よしを　古泉千樫

■誌友募集■

定價一部貳拾錢○半年壹圓拾錢○一年貳圓貳拾錢

東京本所南二葉町二十三古泉千樫方

アララギ發行所

アララギ叢書第一編

歌集 馬鈴薯の花

柿の村人、中村憲吉合著

平福百穂装幀

四六版二百六十頁美本

定價金八拾五錢

新刊發賣

日本橋區檜物町九

東雲堂

第五年
第八號

スバル

定價三拾錢
郵税貳錢

八月號要目

秋（ズッデルマン）（小說）　萬造寺齊譯
杓子山（小說）　平出修
刺絡（シュトロブル）（全）　鷗外譯
朝の影　アルテバチン（全）　中島清譯
私（全）　三島きぬ子
青い鳥　メタリンク（戯曲）　齋藤寅一譯
深窓（詩）　室生犀星
小曲（全）　竹友藻風
痛ましき願望（全）　高瀨俊郎
森の奥の温室（全）　佐々木好母
歌　原阿佐緒
アニンナ（歌）　堀口大學
歌　鈴木北溪
アンリイ●マチス　マルセルサムバア（評論）　高村光太郎譯
「意地」評　佐藤春夫
題未定　灰野庄平
むく鳥通信　無名氏
セエゾンの終り　平野萬里

東京市芝區芝公園五號地十二
昴發行所
電話芝四七七二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四六貳倍版 壹百頁

創作

價廿五錢 送費一錢

復活號

八月一日發行

高村光太郎（表紙畫）
よさの・ひろし（譯詩）
昇曙夢（譯詩）
菅野哲三（譯詩）
尾瀬哀歌（譯詩）
佐々木繁（散文詩）
寳生犀星（長詩）
萩原朔太郎（長詩）
吉川惣一郎（長詩）
長島豊太郎（長詩）
邦枝完二（長詩）
中川一政（長詩）
富田砕花（長詩）
服部嘉香（長詩）
白鳥省吾（長詩）
西宮藤朝（長詩）
山村暮鳥（長詩）
第一作社（俳句）
太田水穂（評論）
若山牧水（評論）

徳田秋江（談話）
生方敏郎（談話）
小川水明（短歌）
橋口暮山（短歌）
森園天涙（短歌）
小柳江村（短歌）
和田山蘭（短歌）
加藤東籬（短歌）
廣田樂（短歌）
越前翠村（短歌）
平賀春郊（短歌）
菊池野菊（短歌）
四賀光子（短歌）
矢澤孝子（短歌）
山田邦子（短歌）
若山喜志子（短歌）
指田縫三郎（短歌）
江波戸白花（短歌）
尾山篤二郎（短歌）
若山牧水（短歌）

會員組織に非ず ■ 投稿極めて自由

發行所 東京市小石川區大塚窪町廿 創作社
發賣所 東京市京橋區南鍋町三丁目七 籾山書店

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

音樂

第四巻　八月一日發行　第八號

□ 樂境詩評

■ 苦言一策のたしがき……神降學博士

□ 隋唐律曆志中の三百六十律に就いて……田邊理學士

■ 邦樂と洋樂……乙骨文學士

□ Riemann の新著 [illegible] der Musik 梗概略述……田村文學士

■ 獨逸の尋常小學校唱歌……吉丸文學士

□ ゲーテのファウストとグーノーのマルゲレーテ……黒田

■ 唱歌教授の悲しむ可き實例……谷紋二

□ 音樂教授法沿革史……草川宣雄

■ ロッシーニ……佐久間孝夫

口繪

□ 歌劇ローエングリーンの一場

■ 樂譜明治大帝奉頌歌……東京音樂學校作

□ 樂譜ヴイオリン曲「ーウニーブ」……杉山長谷夫作

□ ディ・マイスタージンガー……小田島次郎

■ 青き花（小説）……内海泡沫

□ はまべ（詩）……林古渓

■ 鳳仙花（詩）……高辻秀宣

□ 月夜小曲（詩）……柳沢健

■ 闇中悲歌……牛山充

□ 英京より……太田黒元雄

■ 金城下より……岩揚生

□ 海内樂壇海外樂壇

■ 作曲法入門（續々）

■ 發行所　東京音樂學校學友會　振替東京一〇六二番

■ 發賣所　神田雉子町　東京堂

■ コーラ氏音樂史要　東京音樂學校譯　橋口五葉畫伯裝幀　三百部印刷希望者に實費にて頒布す　菊版四百余頁插畫寫眞凸版七十余個　實費壹圓七拾錢送料

・附錄　拾錢

■ 本誌一部金二十二錢　郵稅一部壹錢五厘　半ヶ年前金稅共壹圓　壹ヶ年前金壹拾錢　稅共貳圓五拾錢

鐘淵紡績株式會社（五十三回）決算報告

貸借對照表（省略）

損益計算

一總收入金	參貳、八〇八、九〇貳、貳七貳
一總支出金	參〇、六五七、參七八、六九六
差引	貳、壹五壹、五貳參、五七六
内	
固定資産償却金	參〇〇、〇〇〇、〇〇〇
再差引	
當期純益金	壹、八五壹、五貳參、五七六
前半期繰越金	壹、貳〇四、五七〇、參六壹
計	參、〇五六、〇九參、九參七
内 株主配當金	七五八、七七七、四〇〇
但年壹割貳歩（舊株壹株に付金參圓 新株壹株に付金壹圓八拾錢）ノ割	
當期特別配當金	貳五貳、九貳五、八〇〇
但年四歩（舊株壹株に付金壹圓 新株壹株に付金六拾錢）ノ割	
諸積立金	壹五〇、〇〇〇、〇〇〇
使用人病傷老衰退職恩給資金	壹〇〇、〇〇〇、〇〇〇
職工幸福増進資金	壹〇〇、〇〇〇、〇〇〇
役員賞與金	八〇、〇〇〇、〇〇〇
後期繰越金	壹、六壹四、參九〇、七參七

右報告候也

大正二年七月

東京府南葛飾郡隅田村

鐘淵紡績株式會社

昭和44年9月15日発行　【第5回配本】

青鞜第3巻　8月号

編著者	平塚らいてう
発行者	藤原正人
発行所	(株)明治文献
印刷	江明印刷
製本	(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PU
766
B45
v.3
no.8

University of Colorado at Boulder

U18304 6746327

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一冊金貳拾五錢（郵稅壹錢五厘）
■前金購讀料（四ケ月分）壹圓（六ケ月分）壹圓五拾錢（八ケ月分）貳圓（十ケ月分）貳圓五拾錢（一ケ年分）參圓
■社費は一ケ月金參拾錢にして毎月十五日迄に納附せられたし。取纏め納付せらるゝを便宜とす。
■廣告料（一頁）拾五圓　半頁（八圓）
■振替貯金口座は（東京五六一四東雲堂）に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢切手に限る（但し一割増のこと）。
■編輯事務、寄贈圖書雜誌、及研究會に關する事務は青鞜社へ。
■雜誌購讀、社費拂込、廣告申込、交換廣告其他販賣に關する一切の事務は東雲堂へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正二年六月二十八日印刷納本
大正二年八月一日發行

禁轉載

東京府下巣鴨町字巣鴨一一六三
青鞜社内
編輯兼發行人　中野初
東京市京橋區新榮町一丁目廿一番地
印刷人　佐藤保太郎
東京市京橋區新榮町一丁目廿一番地
印刷所　文祥堂

編輯所　東京府下巣鴨町字巣鴨一一六三　青鞜社
發賣所　東京市日本橋區檜物町九番地　東雲堂書店
電話本局一八七一番
振替東京五六一四番

特價三十錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER